

令和2年度学校経営計画書

新見市立新見第一中学校

I 本校のミッション（使命・存在意義）

1 生徒に対して

- （１）「知識基盤社会」を念頭に置き、将来を主体的にたくましく生きぬく生徒を育成する。
- （２）地域との連携を密にし、地域の良さに気づき、地域に貢献し、地域の文化を継承・発展させていく生徒を育成する。
- （３）グローバルな視点を持ち、これから始まる Society5.0 社会で活躍できる生徒を育成する。

2 保護者に対して

キャリア教育を核としながら、知・徳・体に関わる教育活動を通して、生徒の人間的・社会的・職業的自立の基礎を培いながら、生徒が成長していく過程を保護者と共有することで教育に関する協働意識・協働意欲を高める。

3 地域に対して

地域に開かれた学校づくりを通して、学校が地域住民のコミュニティの場となり、交流の拠点並びに街づくりの核としての役割を果たす。

II 内外の環境分析

		強み	弱み
内部環境	生徒	・全体的に素直で明るく心優しい生徒が多い。 ・基本的な生活習慣は概ね身に付いてきている。 ・基礎学力は概ね身に付いている。 ・運動や部活動に親しむ習慣が身に付いており、体力や運動能力が高い。 ・複数集団の良さを生かした教育活動が展開できるため、学級活動や学校行事へ意欲的に参加している。	・自ら進んで行動したり発言したりすることを遠慮する傾向がある。 ・家庭学習の時間が不十分であり、家庭学習の習慣化が急務である。 ・自分の考えをまとめて、書いたり話したりする力（アウトプットの力）が弱い。 ・多くの生徒が SNS を利用しているが、操作技能に比べ情報モラル、情報セキュリティの意識が低く、様々なトラブルがみられる。 ・学力不振や人間関係、家庭環境に起因する不登校生徒や別室登校の生徒が多い。
	保護者	・教育熱心で、学校行事への参加率は高い。 ・学校教育に対して協力的であり、PTA 活動に意欲的に取り組む機運がある。	・スマートフォンの買い与えに関しての危機意識が低い。 ・親として社会の先輩として、子育てに関する明確な価値観を持っていない保護者が多い。

教職員	・熱心でまとまりがよく、協働する組織になっている。 ・常に自己研鑽に励む意欲と実践力を有し、学び続けようとする意欲が高い。 ・ICT 機器を効果的に活用する教師が多く、先行的に教育の創意工夫に取り組もうとする意欲が感じられる。	・教員として脂ののった中堅層が極端に少なく、若手に即戦力としての役割が求められることから、ベテランから経験の浅い若手への知の継承が急務である。 ・ベテランと若手の OJT の場を意図的に組む必要がある。 ・今日の教育課題はますます複雑多岐に渡っているため、関係諸機関との連携を一層密にする必要がある。
外部環境	・豊かな自然環境と保幼小中高大という一貫した教育環境が整備されている。 ・地域の中心部に位置し、規模的にも市の中心校であり、常に注目を浴びる存在である。 ・地域住民は総じて学校に協力的であり、地域で子供を育てようとする機運がある。 ・教育行政が ICT 設備の充実や外国語教育の充実など、情報化、国際化に向けた教育環境の充実に熱心である。	・中学校に上がる 8 小学校のうち 7 小学校は小規模校であり、小中における様々な段差の解消が求められる。 ・バス通学の生徒が 2 割を占め、様々な面で時間的な制約を受ける。 ・生徒数の減少に伴い、高等学校の入学者選抜の倍率が年々低下しており、学習意欲の低下に少なからず影響を与えている。 ・学校の働き方改革に対し、さらなる理解を求めていく必要がある。

Ⅲ ミッションの追及を通じて実現しようとする本校のビジョン（将来像、目指す姿）

1 学校教育目標 『はつらつと心豊にたくましく生きる力の育成』 2 校訓 『自立・協力』 3 目指す学校像 ◇生徒にとって「個性や能力が伸ばせる学校」 ◇職員にとって「生徒とともに成長できる学校」 ◇保護者・地域にとって「信頼される学校」 4 目指す生徒像 ◇進んで学習し、深く考える生徒 ◇思いやりを持ち、共に伸びようとする生徒 ◇心身を鍛え、何事も最後までやり抜く生徒
--

5 目指す教師像

◇生徒と誠実に向き合い、情熱を傾ける教師

◇家庭との連携を密に図り、温かく家庭と接する教師

◇自己研修、校内研修に励み、能力や資質の向上を図る教師。(理論と実践の往還を意識する。)

◇小学校との連携を一層深め、9年間で子どもたちを教育する視野をもつ教師。

IV 指導の重点

1 <知の領域>

(1) 指導の方針

学習支援体制を強化し、生徒の学習に対する自己肯定感を高め、学びに向かう意欲を高める。(なぜ学習しないといけないのか、キャリア教育の視点から考えさせる)

(2) 具体的な取組

◇学習指導のスタンダードに基づく授業改善を図るとともに、全教科において協同学習を核にして、生徒の能動的思考を重視した授業改善を図る。

◇放課後補充学習の時間枠を設け、複数の教員スタッフによる学習支援の時間と場を確保する。

◇「一中型まなびノート」を核にして家庭学習の充実を図り、学習に対する主体的学習態度を高める。

2 <徳の領域>

(1) 指導の方針

生徒の主体性を重視した教育活動を通して自己肯定感や自己有用感を高め、支持的風土の醸成を図る。(自己肯定感を持たせる、自信をつけさせる、目標を持たせる、方法を示す、意欲を喚起する)

(2) 具体的な取組

◇生徒指導の3機能を絶えず意識して、生徒が主体となる学級活動や生徒会活動、学校行事を企画・運営する。(自己存在感を与える、自己決定の場を与える、共感的人間関係を育成する)

◇「PBIS」の取組を推進し、望ましい行動の可視化を通して生徒の自己肯定感を高める。

◇「SEL」の学習ならびに学年間や校種間で実施可能な「ピア・サポート」の活動を取り入れることで、生徒の対人関係スキルや自己効力感、自己有用感を高める。

3 <体の領域>

(1) 指導の方針

保健・安全の維持と体力・気力の向上を図る。(物的安全と人的安全を確保する)

(2) 具体的な取組

◇主将を中心とした部活動への主体的で積極的な参加を通して、体力・気力の向上を図る。

◇安全点検を組織的・計画的に行うとともに教育相談の時間と場と確実に確保し、人的にも物的にも居心地のいい教育環境を整える。

令和2年度 中学校教育課程編成表

新見市立新見第一中学校

校長

小藤 一成

印

学 目 校 教 育 標		はつらつと心豊かに たくましく生きる力の育成				指 導 の 重 点		○学力の定着を図り、主体的に学ぶ態度を育成する。 ○自他を尊重し、互いに認め支え合う集団を育成する。 ○健康的な生活習慣を確立し、強い心と体を育てる。 ○将来を展望し、自己の生き方を考える意欲を育てる。							
年 間 授 業 日 数								授 業 時 数 の 配 当							
学 年		1		2		3		特 学 別 校	儀 式 的 行 事	区分 \ 学年		1	2	3	
日 数		209		210		203				儀 式 的 行 事		6	7	6	
授 業 時 数 の 配 当										文 化 的 行 事		4	4	4	
区分 \ 学年		1		2		3				健康安全・体育的行事		10	10	5	
各 教 科	必修教科	国 語		156		158		113		活 動 事	旅行・集団宿泊的行事		5	6	8 (9)
		社 会		116		117		142			勤労生産・奉仕的行事		5	8 (8)	2 (4)
		数 学		151		120		142			計		30	35 (8)	25 (13)
		理 科		116		150		142			総合を特活に代替する場合は、その時間数を（ ）書きで外数として記入すること				
		音 楽		48		38		36		1 日の時程表		その他学校の教育活動に関する事項			
		美 術		48		38		36		8:10 読 書 8:30 朝の会 8:50 1 校時 9:40 休 憩 9:50 2 校時 10:40 休 憩 10:50 3 校時 11:40 休 憩 11:50 4 校時 12:45 給食・休憩 13:40 5 校時 14:30 休 憩 14:40 6 校時 15:35 清 掃 15:55 帰りの会 16:10 個別指導 16:20 部活動 17:00 季節により変動 ～18:00 下 校	1. 総合的な学習の時間 ○プロジェクト学習として選択型と必修型の2パターンを実施する。 ○プログラミング学習で育成するプログラミング的思考力やプレゼンテーション力を、各プロジェクト学習に生かす。 A. 選択型プロジェクト学習（全学年） ○地域の産業 ○身近な福祉 ○郷土の偉人 ○地域の観光 ○地域の文化 B. 必修型プロジェクト学習 ～ふるさとキャリア学習～ 1年 新見発見プロジェクト 2年 新見体験プロジェクト 3年 新見貢献プロジェクト 2. 一中タイム 水曜日 6 限目を一中タイムとして、各教科の補充学習にあてる。 3. 朝読書 始業前 2 0 分間を読書活動に充てる。 読書習慣の定着と、落ち着いた学習環境づくりの一環として実施する。 4. 授業改革に向けて 次の3点をすべての授業の中に取り入れる。 ①作業的な活動（個人思考） ②小グループでの協働学習（グループ思考） ③生徒相互の発言の交流と共有（集団思考） 5. 個別指導 帰りの会終了後、必要に応じて個別の学習指導の時間を設定する。個別指導が必要な生徒を対象に少人数での学習支援を行う。 6. 家庭学習 「一中型家庭学習のスタンダード」に基づき、自ら学ぶ力を育成する。計画的な宿題・学びノート・学習支援の3つを柱にして、家庭学習時間の確保と充実を目指す。				
		保健体育		110		110		108							
		技術・家庭		74		72		38							
	外国語		151		150		144								
	選択教科	国 語													
		社 会													
		数 学													
		理 科													
		音 楽													
		美 術													
保健体育															
技術・家庭															
特別活動	外国語														
	その他 ()														
特別の教科である道徳		38		38		36									
総合的な学習の時間 () 内は特活に代替した時間数 (内数)		65		80 (6)		71 (13)									
特別活動	学級活動		50		50		35								
	生徒会活動		(20)		(20)		(20)								
総授業数 〔 () の時数を除く 〕		1123		1121		1043									

令和2年度 中学校特別支援学級教育課程編成表

学校名		新見市立新見第一中学校		校長名	小藤 一成 印		
障害の種類		自閉症・情緒障害		学級名	ゆずりは学級		
学校 教育 目標	はつらつと心豊かに たくましく生きる力の育成			指 導 方 針	○人との関わりを円滑にし、よりよく生きようとする意欲や態度を身につける。		
					○活力ある生活をするための資質や習慣を身につける。		
				○生きるために必要な知識や技能を身につける。			
区分		授業時数の配当					
		1		2		3	
各 教 科	必須 教科	国 語		155	153	110	
		社 会		112	112	142	
		数 学		150	120	142	
		理 科		115	150	142	
		音 楽		48	38	36	
		美 術		48	38	36	
		保健体育		110	110	108	
		技術・家庭		74	72	38	
		外国語		109	109	110	
		*（職業・家庭）					
	選 択 教科	国 語					
		社 会					
		数 学					
		理 科					
		音 楽					
		美 術					
		保健体育					
		技術・家庭					
		外国語					
		その他（ ）					
小 計		921	(81.4%)	902	(79.8%)	864	(82.5%)
特別の教科である道徳		36	(3.3%)	36	(3.3%)	35	(3.4%)
総合的な学習の時間 <>内は特活に代替した時間数<内数>		60	< > (5.5%)	80	< 6 > (7.4%)	70	< 13 > (6.8%)
特別活動		46	(4.2%)	46	(4.2%)	39	(3.8%)
*（自立活動）		60	(5.5%)	57	(5.3%)	35	(3.4%)
総授業時数		1123		1121		1043	
年間授業日数		209		210		205	
予 定 生 徒 数	学 年		1		2		3
	男		1		0		2
	女		0		0		2
	計		1		0		4
備 考		音楽、美術、保健体育、技術・家庭は交流学級で実施。					

令和2年度 中学校特別支援学級教育課程編成表

学校名			新見市立新見第一中学校			校長名		小藤 一成 印		
障害の種類			知的障害			学級名		あけぼの学級		
学 校 教 育 目 標	はつらつと心豊かに たくましく生きる力の育成					指 導 方 針	○活力ある生活をするための資質や習慣を身につける。 ○生きるために必要な知識や技能を身につける。 ○よりよく生きようとする意欲や態度を身につける。			
区分			授業時数の配当							
			1		2		3			
各 教 科	必 須 教 科	国 語		150		150		145		
		社 会		110		115		110		
		数 学		113		115		112		
		理 科		110		111		108		
		音 楽		48		38		36		
		美 術		48		38		36		
		保健体育		110		110		108		
		技術・家庭		74		72		38		
		外 国 語		78		78		78		
		*（職業・家庭）								
	選 択 教 科	国 語								
		社 会								
		数 学								
		理 科								
		音 楽								
		美 術								
		保健体育								
		技術・家庭								
		外 国 語								
		その他（ ）								
小 計			841 (76.3%)		827 (74.3%)		771 (75.9%)			
特別の教科である道徳			36 (3.4%)		36 (3.4%)		35 (3.4%)			
総合的な学習の時間 <>内は特活に代替した時間数<内数>			60 < > (5.7%)		72 <6> (7.6%)		70 <13> (6.9%)			
特別活動			46 (4.4%)		46 (4.4%)		35 (3.4%)			
*（自立活動）			140 (10.2%)		140 (10.3%)		130 (10.3%)			
総授業時数			1123		1121		1041			
年間授業日数			209		210		205			
予 定 生 徒 数	学 年		1		2		3			
	男		5		1		1			
	女		0		0		0			
	計		5		1		1			
備 考			音楽、美術、保健体育、技術・家庭は交流学級で実施。							

令和2年度 学校教育目標及び校内研究主題

新見市立新見第一中学校

<教育目標>

はつらつと心豊かにたくましく生きる力の育成

<研究主題>

主体的に学び合い、高め合う生徒の育成を目指して

<研究主任> 横見 信毅 ・ 谷岡 明日美

<今年度の取組について>

なぜ？

- 個性や能力を伸ばせる学校・進んで学習する生徒・共に伸びようとする生徒を育成したい
- 自己肯定感や自己有用感を感じている生徒が少ない
- 変化の多い社会で必要とされ、幸せに生きる人材を育成したい

どのように？

- 自己存在感を与える
- 自己決定の場を与える
- 共感的人間関係を育成する

何を？

- 協同学習
- SEL（社会性と感情の学習）
- ピア・サポート

<校内研修の流れ> ※日時は変更する場合があります。

日時	内容	
4月8日（水）	協議	・今年度の取組について・各部会の協議事項の確認
4月22日（水）	演習	・見取りの仕方と振り返りについて
5月13日（水）	授業研修会	・協同学習の授業実践（見取り・振り返り） （※全員が参観するために同じ授業を2時間公開）
7月22日（水）	協議	・1学期の振り返りと2学期にむけて
11月5日（木）	授業研修会	・SELの授業実践（見取り・振り返り）
3月3日（水）	協議	・1年の取組のまとめ

実践

<各部会で話し合ったことのまとめ>

協同学習

- ・協同学習にはコミュニケーションを目的としたものから、課題解決のための深い学びを目的としたものまでであるが、学期ごとにレベルアップしながら取り組む。
 - 1 学期…4 人班の定着と、4 人班でのコミュニケーションを深めることを目的とした協同学習
 - 2 学期…役割の定着を目的とした協同学習
 - 3 学期…課題解決や深い学びを目的とした協同学習
- ・話し合いの話形や役割のルーレットは共有のものを使用することができる。

ピア・サポート

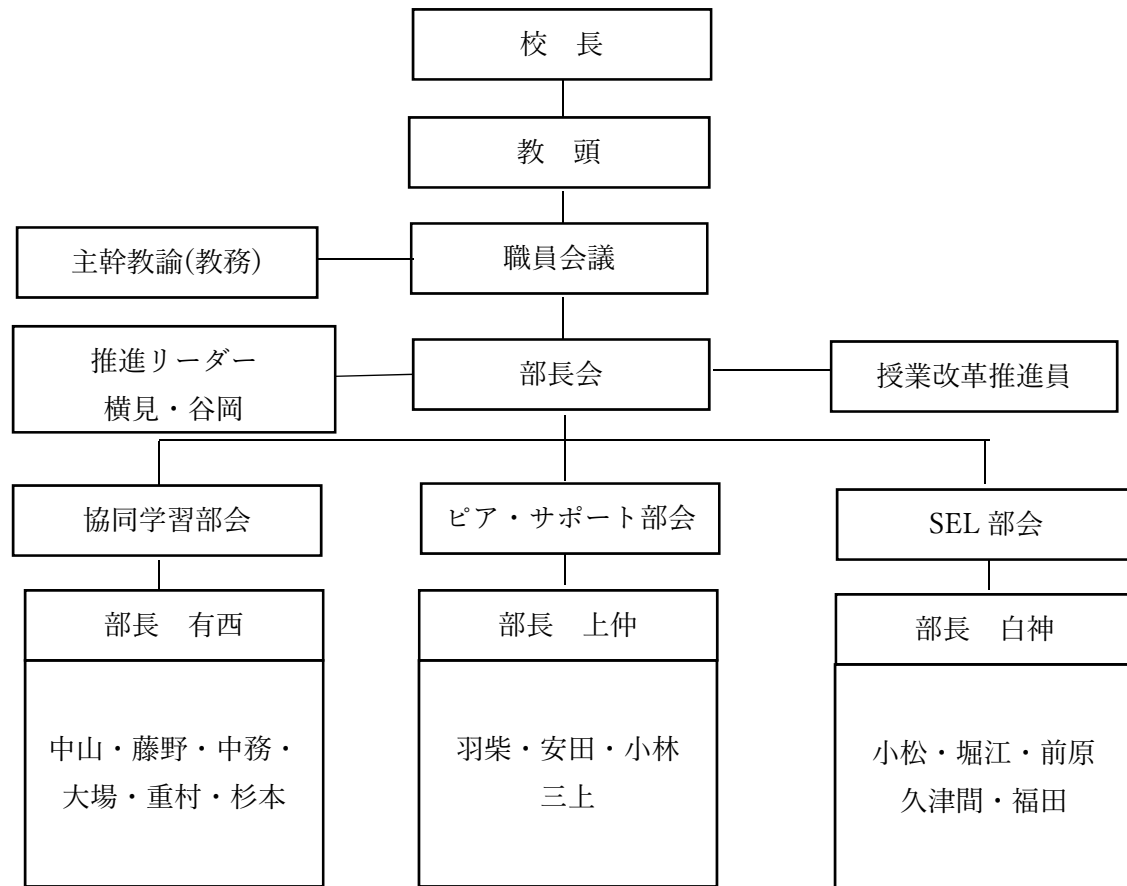
- ・サポーターと被サポーターを入れ替える仕掛けをしながら取り組む（得意なものを活かしてリーダー役ができるような仕組み）
 - 例）まなびタイムで3年生が1年生を教える
 - 班長会の実施 ※ただし、班長会の時間確保が必要
 - 人権集会を縦割りで話し合いをするなど

SEL

- ・2つの面での考え方が必要
 - ①学年の課題の洗い出しをして、学年での取組を考える
 - ②新見第一中の生徒として取り組みたいこと（挨拶・言葉遣いなど）を選んで学年を超えて実施していく

令和2年度校内研修体制図

新見市立新見第一中学校



各組織の役割

- 部長会 本校としての成果、課題の検討、今後の方向性について協議する。各部会の取組を確認し、関連のある取組を効果的に配置したり重複したりしないようにする。
- 部 会 各部会は部長と部員（学年から1～2名配置）で構成する。部会での協議がスムーズに学年団に伝わり、組織的に取り組むことができるようにする。

一中型 家庭学習のスタンダード

小・中学校・家庭が連携し、相互理解のもと
家庭学習時間の確保と充実を目指した取り組み

1年
80分

2年
90分

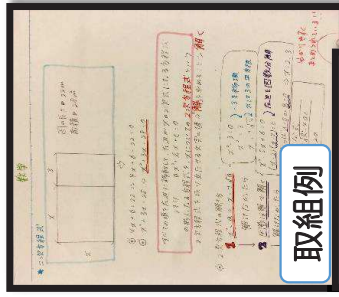
3年
100分

一 中 家 庭 学 習 時 間

自ら学ば力

まなびノートの取り組み (H28年度～)

- 毎日1ページ以上自主学習に取り組み、学習に向かう努力を評価する。教員からのフィードバックによる意欲の向上。



取組例

- 帰りの会で計画を立て、学習に取り組む。その日の振り返りをし、◎・○・△で自己評価する。

ポイント
R-PDCAサイクルで家庭学習を自分自身の力で構築していく。

計画・振り返りシート

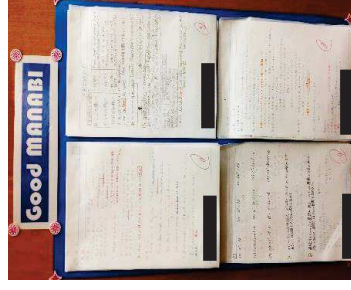
宿題による学習習慣の定着

- 国語・数学・英語の宿題を毎日出す。
- 提出物の点検を毎日行い、生徒の日々の頑張りを認め、意欲を高める。



学習に向かうための支援

- 取組みの好事例を紹介
- 生徒会主体のクラスマッチで意欲向上



← 友達 の 学 び 方 を 学 ぶ



← 集団で学ぶ雰囲気
を高めていく

- 家庭学習の時間確保と定着のため、学校の取り組みの理解と協力を家庭に求める。

ポイント
学年・学校間の接続を意識し、「家庭学習の基本は『宿題+自主学習』である」と共通認識をもつこと！

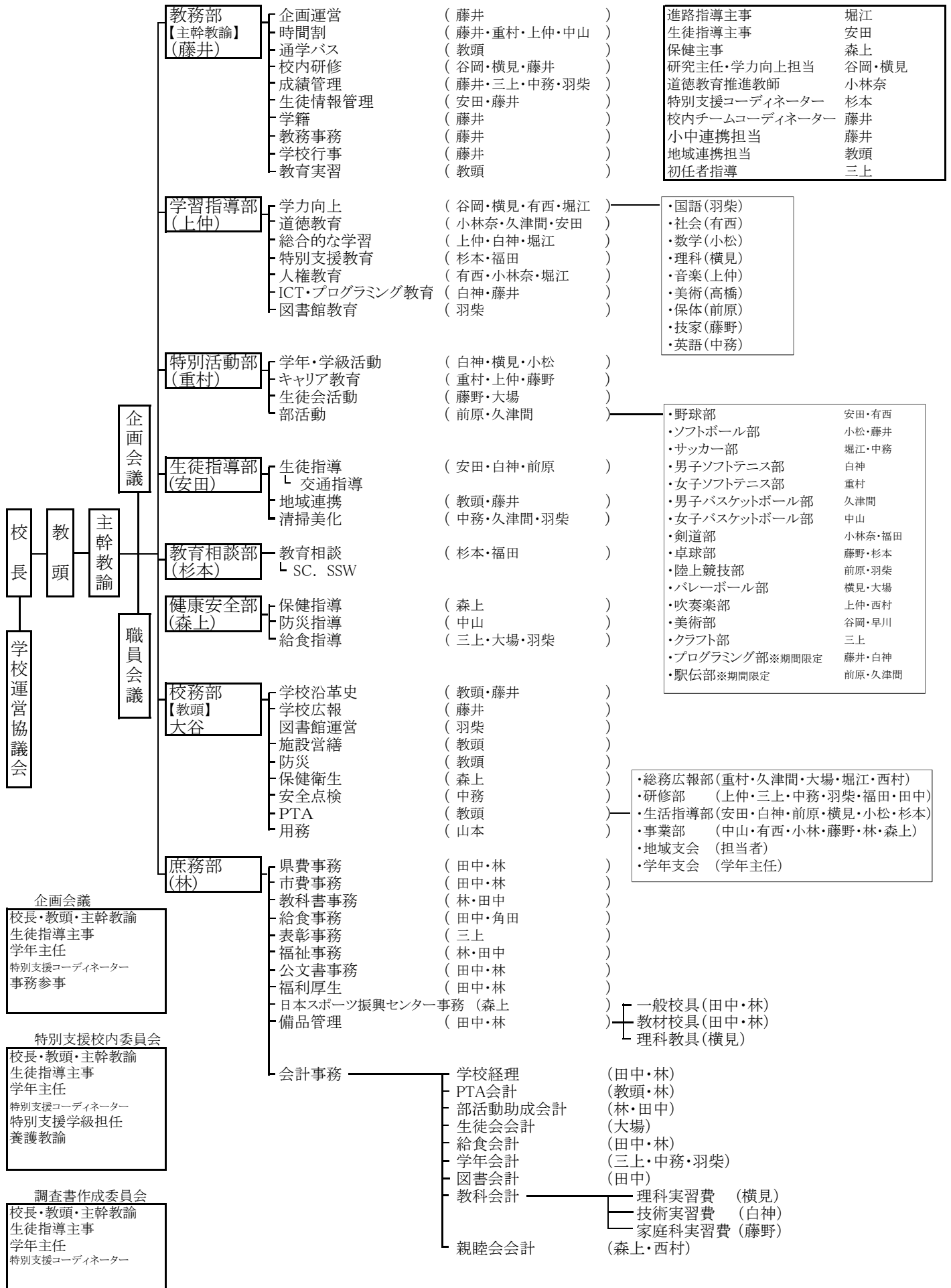
ポイント

眠っている頭を勉強
モードに切り替え！
落ちついた気持ちで学習に向かおう。

読書活動の充実→落ち着いた学習環境づくり・豊かな情操の獲得

登校後、20分間の朝読書を実施。教員も同じく読書活動に取り組む。



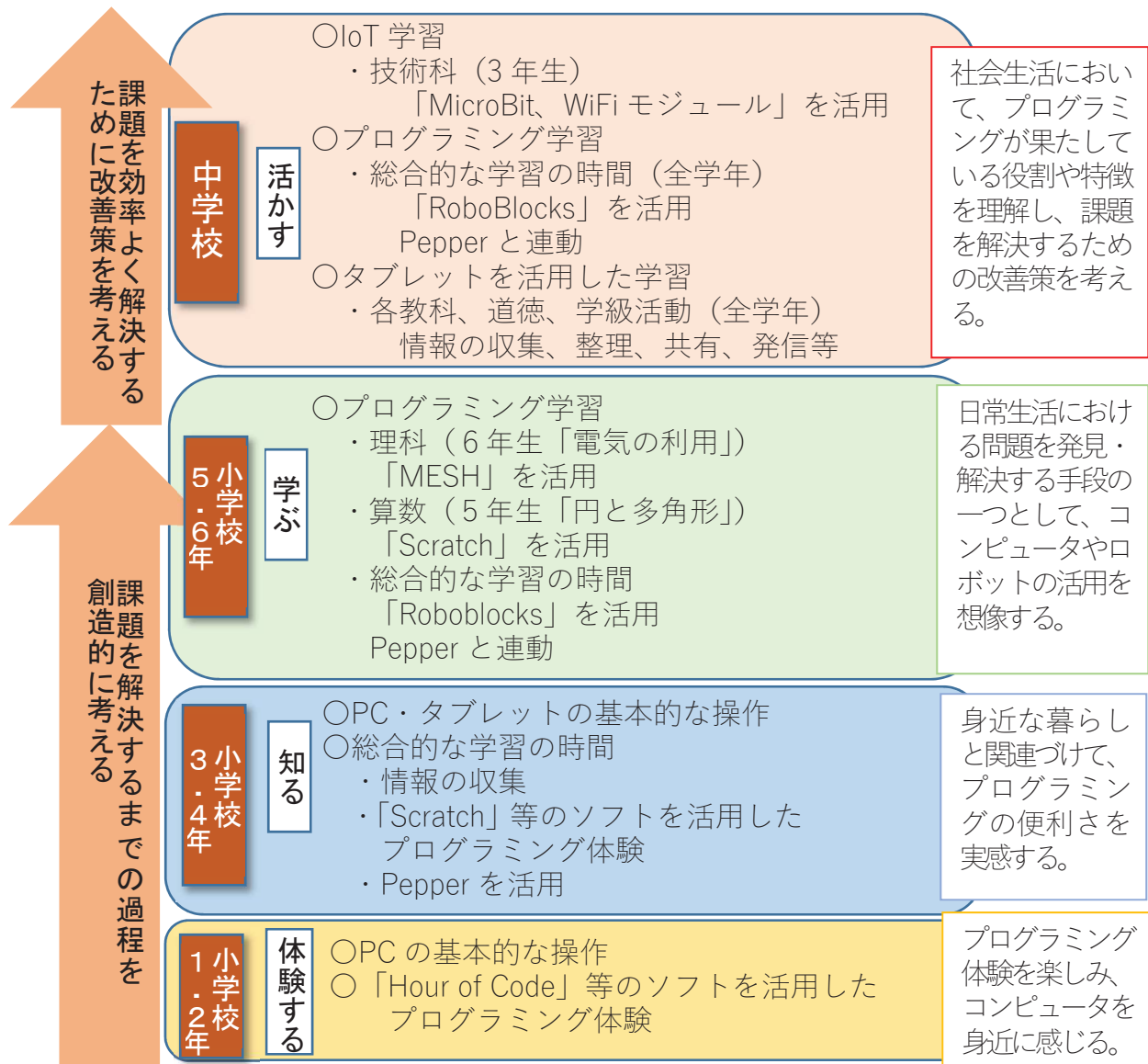


	4月		給食	5月		給食	6月		給食	7月		給食	8月		給食	9月		給食	10月		給食	11月		給食	12月		給食	1月		給食	2月		給食	3月		給食				
1	水	企画会議		金			月			水	職員会議		土			火				木	2年ふるさと出前授業？		日		火	期末考査		金	元日 開庁		月			月	1・2年学年末考査		1			
2	木	職員会議		土			火			木			日			水				金	振替休業日（9月19日分） 秋季備北総体		月	振替休業日（11月14日分）		水	期末考査		土	開庁		火			火	1・2年学年末考査		2		
3	金	職員会議		日	憲法記念日		水	専門委員会		金			月			木				土	秋季備北総体		火	文化の日		木			日	開庁		水	学びタイム		水	校内研修（まとめ）		3		
4	土			月	みどりの日		木	実力テスト		土			火			金				日	秋季備北総体		水	3年実力テスト 専門委員会		金	3年実力テスト 職員会議		月			木	入学説明会		木			4		
5	日			火	こどもの日		金			日			水			土	授業日			月	教育相談週間 （10月16日まで）		木			土			火			金		金			5			
6	月	生徒理解会議		水	振替休日		土			月			木			日	運動会			火			金	小中音楽会 漢字検定		日			水	3年補充学習（授業日）		土			土			6		
7	火	1学期始業式		木			日			火	健康の森交流会		金			月	振替休業日（9月5日分）			水	専門委員会		土			月			木	3年補充学習（授業日） 学校評価会議		日			日			7		
8	水	入学式 校内研修		金			月			水	専門委員会		土			火	振替休業日（9月6日分）			木	WRS2020（11日まで）		日			火			金	3学期始業式		月			月			8		
9	木	1年交通教室（2限～）		土			火	テスト週間・教育相談 （6月18日まで）		木	保護者懇談		日			水	専門委員会			金			月			水	専門委員会		土			火	公立特別入試		火	公立一般入試		9		
10	金	退任式		日			水	学びタイム		金	保護者懇談		月	山の日 開庁		木				土			火			木			日			水	公立特別入試		水	公立一般入試		10		
11	土			月			木			土			火	開庁		金				日			水	1・2年実力テスト 校内研修（協同学習）		金			月	成人の日		木	建国記念の日		木	3年生を送る会		11		
12	日			火			金	参観日		日			水	開庁		土				月			木			土	備北地区ダンス発表会		火	3年実力テスト 1・2年課題テスト		金	1・2年参観日		金	卒様式		12		
13	月			水	学びタイム		土			月	保護者懇談		木	開庁		日				火			金			日			水	専門委員会		土			土			13		
14	火			木			日			火	保護者懇談		金	開庁		月				水	学びタイム		土	参観日進路説明会PTA 講演会		月			木			日			日				14	
15	水	専門委員会		金			月			水	1年ふるさとキャリア学習		土	開庁		火				木	2年ふるさとキャリア学習		日			火	保護者懇談		金			月			月				15	
16	木			土			火	期末考査		木			日	開庁		水				金	2年ふるさとキャリア学習		月	サポートキャラバン （数学教育センター文科省） 3年ボランティア活動		水	保護者懇談		土			火			火				16	
17	金			日			水	期末考査		金			月			木				土			火			木	保護者懇談		日			水	専門委員会		水	学びタイム		17		
18	土			月			木	期末考査		土			火			金				日			水	学びタイム		金	保護者懇談		月			木			木				18	
19	日			火			金			日	県総体開始		水			土	文化祭			月	テスト週間・教育相談 （10月27日まで）		木			土			火			金		金					19	
20	月			水	専門委員会 弁当の日		土			月			木			日	吹奏楽祭？			火			金	新見市駅伝大会		日			水	学びタイム		土			土	春分の日			20	
21	火			木			日			火			金			月	敬老の日			水	学びタイム		土	テスト週間（12月2日まで）		月			木			日			日				21	
22	水	校内研修（協同学習）		金			月			水	1学期終業式 校内研修（ピアサポート）		土			火	秋分の日			木			日			火			金	3年学年末考査		月			月				22	
23	木	吹奏楽研修会（上仲）		土			火			木	海の日		日			水	学びタイム			金			月	勤労感謝の日		水	学びタイム		土			火	天皇誕生日		火				23	
24	金			日			水			金	スポーツの日		月	職員会議		木	3年実力テスト			土			火	教育相談（12月2日まで） 職員会議		木	2学期終業式 職員会議		日			水	職員会議		水					24
25	土			月			木			土			火	2学期始業式		金	職員会議			日			水	学びタイム		金	3年補充学習（授業日）		月			木			木				25	
26	日			火			金	夏季備北総体		日	PTA奉仕作業・レク		水			土				月	中間考査		木			土			火			金	1・2年学年末考査		金	修了式 職員会議				26
27	月			水	職員会議		土	夏季備北総体		月			木			日				火	中間考査		金			日			水	職員会議		土			土					27
28	火			木			日	夏季備北総体		火			金			月				水	職員会議		土			月	開庁		木	私立一次入試？		日			日					28
29	水	昭和の日		金			月			水			土			火	2年ふるさと出前授業？			木			日			火	開庁		金	私立一次入試？						月				29
30	木	職員会議		土			火			木			日			水	2年ふるさと出前授業？ 校内研修（SEL）			金			月	期末考査		水	開庁		土							火				30
31				日						金			月							土	健康の森収穫祭吹奏楽					木	開庁		日						水					31
1年	16	16		34	18		56	22		72	16		77	5		98	21		119	21		138	19		156	18		171	15		189	18		209	20		授 業 日			
2年	17	17		35	18		57	22		73	16		78	5		99	21		120	21		139	19		157	18		172	15		190	18		210	20					
3年	17	17		35	18		57	22		73	16		78	5		99	21		120	21		139	19		158	19		175	17		193	18		203	10					
給食 日		15			18			21			15			4			18			20			17			18			15			18			18		給食 日	197		

新見市のプログラミング教育

新見市の資料より新見第一中学校用にアレンジ

創造力を働かせ、論理的に思考しながら課題解決に向かう子どもの育成



学習基盤の基礎

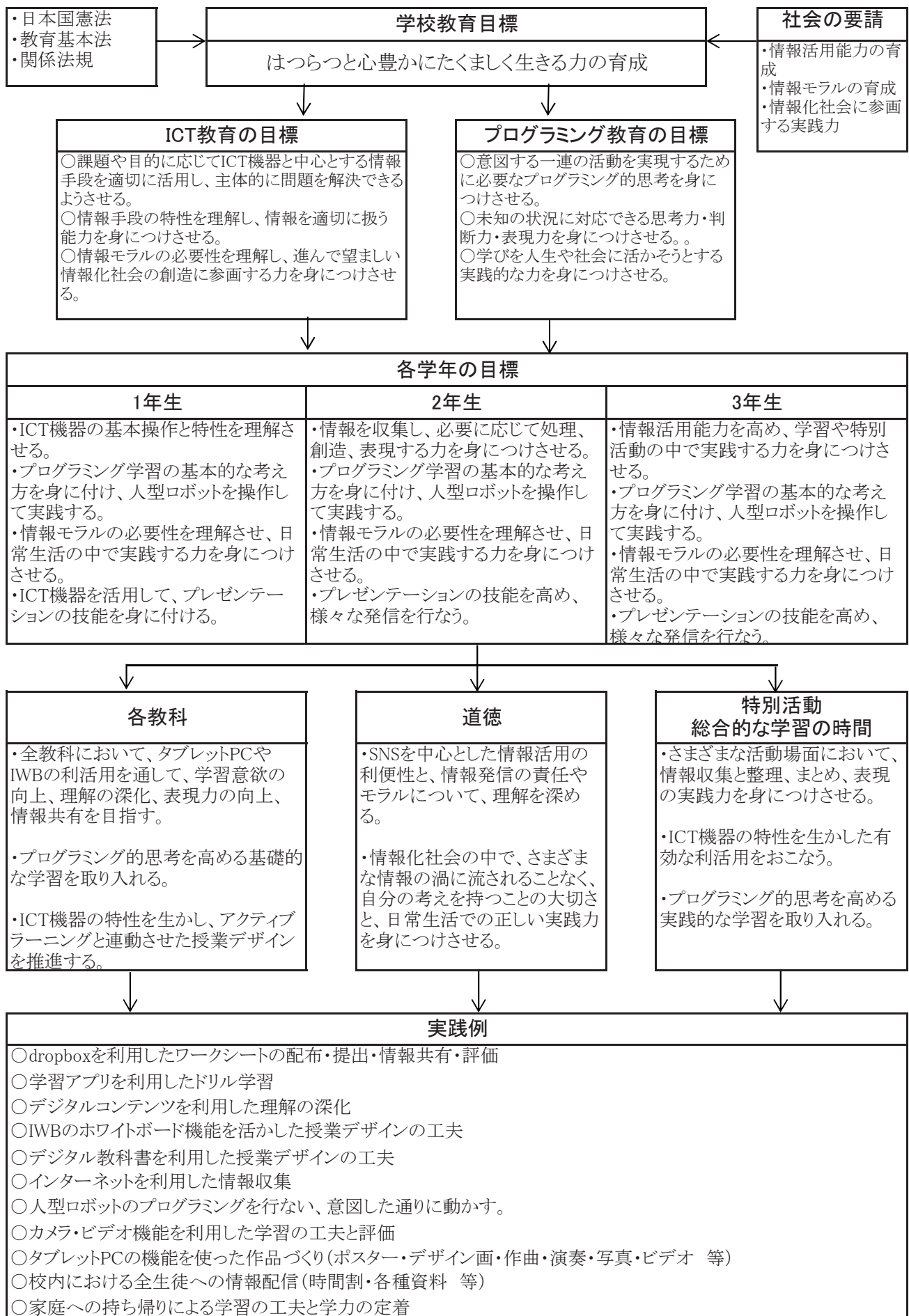
（言語能力、情報活用能力、問題発見能力）

『プログラミング的思考力』とは

自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組合せが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組合せをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのか、といったことを

論理的に考えていく力

令和2年度 ICT・プログラミング教育推進計画



情報活用能力とは

情報活用能力は、世の中の様々な事象を情報とその結び付きとして捉えて把握し、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決したり、自分の考えを形成したりしていくために必要な資質・能力である。これからの子供たちは、情報を捉えながら何が重要かを主体的に考え、情報を活用しながら他者と協働して新たな価値の創造に挑んでいくことが重要である。

情報活用能力は、様々な事象を言葉で捉え理解し、言葉で表現するために必要な言語能力と相まって育成されていく。

プログラミング的思考とは、自分が意図する一連の活動を実現するために、どのような動きの組み合わせが必要であり、一つ一つの動きに対応した記号を、どのように組み合わせたらいいのか、記号の組み合わせをどのように改善していけば、より意図した活動に近づくのかといったことを論理的に考えていく力のことである。

中学校段階では、社会におけるコンピュータの役割や影響を理解するとともに、簡単なプログラムを作成できるようにすることを目指していることには留意が必要である。

子供が一人で黙々とコンピュータに向かっているだけで授業が終わったり、子供自身の生活や体験と切り離された抽象的な内容に終始したりすることのないように注意したい。

育成を目指す資質・能力の3つの柱

○何を理解しているか、何ができるか

～生きて働く「知識・技能」の習得～

○理解していること・できることをどう使うか

～未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成～

○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか

～学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養～

アクティブ・ラーニング

主体的・協働的かつ共感的な学びを通して、「先行き不透明な時代において、どのような課題に遭遇しても決して諦めることなく、かといって一人で背負い込むことなく、多様な人と関わりコミュニケーションを取り入れながらよりよい解決策を見出していこうとする」考え方や生き方につながる。

アクティブ・ラーニング ＝ 主体的・対話的で深い学び

令和2年度 道徳教育の全体計画

新見市立新見第一中学校

教育基本法
学校教育法
学習指導要領

学校教育目標
はつらつと心豊かに
たくましく生きる力の育成

生徒の実態
家庭や地域社会の実態

各教科
総合的な学習の時間
現代社会の課題や、自分の興味・関心に基づく課題に主体的に取り組むことを通して自分の生き方を考えていくための資質・能力を育成する。
国語
思考力や想像力を養い、言語感覚を豊かにする。
社会
我が国と郷土を愛するとともに、国際社会に生きる日本人としての自覚を養う。
数学
筋道を立てて考え、表現する能力を高める。
理科
生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。
音楽
美しいものや崇高なものを尊重する豊かな情操を養う。
美術
美しいものに対する感性を豊かにする。
保健体育
粘り強くやり遂げようとする態度やルールを守り、協力する態度を養う。
技術・家庭科
望ましい生活習慣を身につけるとともに、勤労の尊さや意義を理解する。
英語
外国の文化を理解し、国際的視野に立って行動する態度を身につける。

道徳教育の目標
自己の生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した一人の人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を養う。
道徳教育の重点目標
1 自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつ。 2 思いやりの心をもって人と接するとともに、家族などの支えや多くの人々の善意により日々の生活や現在の自分があることに感謝し、進んでそれに応え、人間愛の精神を深める。 3 学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってより良い校風をつくるとともに、様々な集団の意義や集団の中での自分の役割と責任を自覚して集団生活の充実に努める。 4 生命の尊さについて、その連続性や有限性なども含めて理解し、かけがえのない生命を尊重する。

各学年の重点目標		
規律ある基本的生活習慣を身につける。	自分を見つめ自分の未来像を考える。	国際社会に生きる日本人としての自覚が身に付くようにする。

道徳科の目標
よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に自己を見つめ、物事を広い視野から多面的・多角的に考え、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

道徳科の指導方針
・ 互いの考えを尊重し、伝え合い、人間の生き方について、ともに深く考え合う。 ・ 日常生活における道徳教育と内容、時期を関連づけ、道徳性を育てる。 ・ 年間指導計画に基づき、生徒の心身の発達や個に応じた適切な指導を行う。 ・ 教材の整備や指導の方法の工夫、ローテーション授業や問題解決的な学習などの方法を取り入れた指導に努め、より意義のある時間にする。 ・ 生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を見取り、積極的に励ます個人内評価を行う。

家庭や地域社会との連携
適切な交流の場や機会（授業参観・懇談会・PTA交通査察・奉仕活動・学級だより・学校だよりなど）を通して、道徳教育への理解を深める。

めざす生徒像
○進んで学習し、深く考える生徒 ○思いやりを持ち、共に生きようとする生徒 ○心身を鍛え、何事も最後までやり抜く生徒

特別活動
学級活動
○学級の一員としての自覚のもとに責任をもって行動しようとする態度を養う。 ○相互に認め合い、学び合う人間関係を築く。

生徒会活動
自発的、自治的な集団活動を通して学校生活の充実と向上を図る。

学校行事
諸行事での体験を通じて、自主性・協調性および豊かな心情を育成する。

生徒指導
○教師と生徒及び生徒相互の望ましい人間的交流を促す。 ○基本的な生活習慣を確立し、自主的な判断のもとに行動できるようにする。

学級・学校の環境
○校舎内外の整理整頓に努め、環境の美化を図る。 ○必要な情報の掲示と整理に努め、適切な活用方法を工夫する。

令和2年度 第1学年 年間指導計画

月	教材名	内容項目	主題名	ねらい	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
4	1 サッカーの漫画を描きたい	A-(4) 希望と勇氣、克己と強い意志	困難を乗り越える力	目標に向かって、希望と勇氣をもって着実にやり抜こうとする実践意欲を育てる。	□困難に屈しないで粘り強く最後までやり抜く強い意志の大切さに気づき、自分の生活の中で目標をもって取り組もうとする意欲的な意見や記述が見られたか。 ◇発問構成によって、自分のこととして深く考えさせることができたか。	美術 保健体育 総合的な学習の時間
	2 挫折から希望へ	D-(22) よりよく生きる喜び	弱さを乗り越え生きる	人間には弱さとともにそれを克服する強さや気高さがあることを理解し、よりよい生き方をしようとする実践意欲を育てる。	□自分の弱さを克服してよかった、これからもよりよく生きていこうといった発言が見られたか。 ◇筆者の生き方をしっかりと考えさせることで、弱さを克服する生き方について深まりのある生徒の考えを引き出すことができたか。	音楽
	3 人のフリみて	B-(6) 思いやり、感謝	言葉のもつ不思議な力	日々の生活の中で自分を支えてくれる多くの善意や思いやり気づき、自分の感謝の気持ちを素直に表そうとする態度を育てる。	□自分の周りにはさまざまな支えが存在していることに気づき、それをあたりまえと思わないことや、感謝の気持ちを素直に表現することが大切であるといった発言や記述が見られたか。 ◇発問や板書から、多面的・多角的な思考をもとに道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めさせることができたか。	国語 総合的な学習の時間
5	4 「愛情貯金」をはじめませんか	B-(7) 礼儀	礼儀の心	あいさつの意義などを主体的に考え理解し、時・場所・場面に応じて適切な言動をしようとする実践意欲と態度を育てる。	□あいさつが、人間関係や社会生活を円滑にするものであることを理解し、時・場所・場面に応じた言動をしようとする発言や記述が見られたか。 ◇発問構成や体験的な活動によって、あいさつの大切さについて考えさせ、主体的にあいさつをしようとする態度を育てることができたか。	国語 特別活動
	5 さかなのなみだ	C-(11) 公正、公平、社会正義	いじめのない集団	同調圧力などに屈することなく、自己と向き合い互いに協力して正義や公正を実現するために努力しようとする態度を育てる。	□人間としてよりよい集団を築くために、いじめなどを見て見ぬふりをせず、積極的に正義や公正を実現しようとする発言や記述が見られたか。 ◇話し合いや発問などから、いじめの問題を多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	特別活動
	6 近くにいた友	B-(8) 友情、信頼	心から信頼できる友達	互いに信頼し高め合う友情の大切さを理解し、いっそう友達を大切にしようとする態度を育てる。	□互いに心から信頼できる友情を築こうとすることやいっそう友達を大切にしたいという記述が見られたか。 ◇体験的な活動をとおり、心から信頼できる友情とは何かを深く考えさせることができたか。	技術・家庭 特別活動
6	7 トマトとメロン	A-(3) 向上心、個性の伸長	みんな同じがよいのか	自己を見つめ、自己の向上を図るとともに、個性を伸ばして充実した生き方を追求しようとする態度を育てる。	□発言や道徳ノートの記述から、自己を見つめ、自らのよさに気づき、これからの生き方の中でそれを伸ばしていこうとする気持ちを持ち、また、自らの実感を振り返りながら考えを深める様子が見られたか。 ◇相田みつをさんの生き方や考え方を通じて、世間や栄誉にとられない生き方や自己を磨こうとする意欲を生徒に育むことができたか。	国語 特別活動
	8 あなたはすごい力で生まれてきた	D-(19) 生命の尊さ	生きることの素晴らしさ	生命のかけがえのない、尊さを理解し、自他の生命を大切にしようとする態度を育てる。	□自分の生命がかけがえのないものであることに気づき、自他の生命を大切にしようとする発言や記述が見られたか。 ◇発問・板書から、生徒の思いを引き出し、生命の尊さについて深く考えさせることができたか。	保健体育
	9 ふれあい直売所	C-(10) 遵法精神、公德心	社会のきまり	きまりの意義を理解し守ることで、自他の権利を重んじ、よりよい社会をつくらうとする実践意欲を育てる。	□よりよい社会の実現のために進んできまりを守ろうとする発言や記述が見られたか。 ◇生徒の課題意識や発言などを肯定的に受容し、生かしながら授業展開できたか。	社会 技術・家庭
	10 あったほうがいい？	C-(12) 社会参画、公共の精神	よりよい社会のために	身近なゴミ問題を考え話し合うことをとおして、社会に尽くす公共の精神について深く考え、よりよい社会の実現に努めようとする態度を育てる。	□身近にあっても解決が一筋縄でない現代的な問題に対し、よりよい社会の実現のために、自分なりに具体的な解決をめざす意欲が発言や記述に見られたか。 ◇智子の心の迷いを追うのではなく、問題解決に向かう意志や実行力への思いを促す授業構想であったか。	社会 特別活動
7	11 花火に込めた平和への願い	C-(18) 国際理解、国際貢献	世界平和のために	国際的視野に立って、他国を尊重することと世界平和の大切さを理解するとともに、よりよい社会形成や人類の発展に貢献しようとする実践意欲を高める。	□他国の文化や伝統などを尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与しようとする発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから、ゆかりの気持ちの変化を捉えさせ、国際的視点から、平和の尊さと貢献について考えさせることができたか。	社会、外国語
	12 疾走、自転車ライダー	A-(2) 節度、節制	安全への心構え	身近に起こりうる交通事故をもとに、安全や危機管理の大切さを理解し、安全で調和のある生活を送ろうとする実践意欲と態度を育てる。	□日々の生活で、安全や防災への意識や具体的な行動を考える意見や記述が見られたか。 ◇自分のことだけでなく、ほかの人の安全や命を守る視点で、多面的・多角的に考えさせることができたか。	特別活動
9	13 部活の帰り	B-(8) 友情、信頼	心がときめくとき	異性についての理解を深め、互いに相手の人格を尊重し、接していく態度を育てる。	□一方的な関心や憧れでなく、相手の心や思いを素直に受け止め、一人の人間として互いの人格を尊重し合う関係を築くことが大切であるといった発言や記述が見られたか。 ◇発問や板書などから、多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	保健体育
	14 私は清掃のプロになる	C-(13) 勤労	心のこもった仕事とは	働くことの喜びを通じて生きがいや社会とのつながりを実感し、社会に貢献しようとする実践意欲を育てる。	□勤労をとおり社会とのつながりを感じ、社会に貢献しようとする意欲が記述や発言に見られたか。 ◇小グループでの話し合いをとおり、多様な意見に触れさせることができたか。	総合的な学習の時間
	15 二人の約束	A-(1) 自主、自律、自由と責任	迷いを乗り越えて	どんなに小さな行為でも、自分で考え、決めたことについて、責任をもとうとする態度を育てる。	□自分で考え、行動したことについては結果にまで責任をもつことの大切さや、その実践意欲や態度についての記述や発言が見られたか。 ◇教材をとおり「自律」の大切さに気づかせ、問い返しの発問などから、道徳的価値を多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	保健体育 特別活動
	16 むかで競走	C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実	みんなをまとめる力	学級や学校の一員として自らの役割と責任を自覚し、協力し合って学校生活を充実させようとする態度を育てる。	□発言や記述に、学級や学校の一員としての責任を考え、集団の質を高めながらよりよい学校生活を送ろうとする実践意欲や態度が見られたか。 ◇競技の勝ち負けを超えて、お互いを大切にし、力を合わせて集団で取り組むことの意味について考えさせることができたか。	特別活動
	17 使っても大丈夫？	C-(10) 遵法精神、公德心	自他の権利と法の遵守	法やきまりの意義を理解し、自他の権利を重んじる自覚と判断力を養う。	□法やきまりが社会でどんな役割を果たしているかを考え、自他の権利を重んじる自覚が記述などから見られたか。 ◇話し合いや発問などから、多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	技術・家庭

10	18	公平と不公平	C-(11) 公正、公平、社会正義	公平とは何か	話し合いをとおして公平とは何かを考え、大切さを理解し、差別や偏見のない社会を築こうとする態度を養う。	□友達の見聞を聞きながら、主体的に公平とは何かを考えている様子が見られたか。 ◇相手の立場になって考えさせるなど、多面的・多角的に考えさせることができたか。	社会総合的な学習の時間
	19	違いを乗り越えて	C-(18) 国際理解、国際貢献	多文化の理解を深める	日本の習慣や文化のよさを理解するとともに、他の国々の人々や文化に対する理解を深め、尊重しようとする意欲を高める。	□困難があっても、お互いの文化や習慣を尊重し合う関係を築くことが大切であるといった発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから、多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	社会外国語
	20	あふれる愛	D-(19) 生命の尊さ	生まれてきた大切な生命	生命の尊さについて、その連続性や有限性も含めて理解し、かけがえのない生命を尊重しようとする精神と態度を育てる。	□死を待つ人々でさえも救おうと懸命に頑張るマザー・テレサの姿に共感する発言や記述が見られたか。また、そこから命の重さを見つめ、大切にしようとする姿勢が見られたか。 ◇自分の生命について、「生かされている」など、新たな気づきを促すことができたか。	社会外国語
11	21	富士山から変えていく	C-(12) 社会参画、公共の精神	つながりが生み出す力	公徳心及び社会連帯の自覚を高め、一人ひとりが協力し、よりよい社会を実現していこうとする実践意欲を育てる。	□よりよい社会を実現するためには、一人ひとりの意識を高め、力を合わせて行動に移すことが大切だという思いが見られたか。 ◇今ある社会をよくするために、自分にはどんな貢献ができるか、実践意欲や態度に通じる発言を促すことができたか。	社会理科
	22	木の声を聞く	D-(20) 自然愛護	自然を愛する	自然の崇高さを知り、自然に謙虚に向き合いながら自然の愛護に努めようとする態度を育てる。	□生徒の発言や記述に、人間が上からの立場で自然を保護しようとするのではなく、自然の恵みをもって生かしていただいているという、塚本さんの考えに共感し、自然を守ることの意味を考え、自ら自然を愛護しようという意欲的な態度が見られたか。 ◇話し合いや書く活動などから、自然の一部としての人間という認識や自然への謙虚な態度を育てることができたか。	理科総合的な学習の時間
	23	オーロラ—光のカーテン—	D-(21) 感動、畏敬の念	自然に感動する心	人間の力を超えた自然の素晴らしさに素直に感動し、自然の中で生かされていることを自覚して、自然に対する畏敬の念を深める。	□オーロラ的美しさや神秘さを、自分の自然体験と比べながら感じ、自然に対する畏敬の念をもち、自然から学ぼうとする意欲を高めることができたか。 ◇視聴覚教材を用い、オーロラの動画や写真を見せることで、自然の神秘を感じさせながら、本時についての考え方を深めさせることができたか。	理科
	24	家族と支え合うなかで	C-(14) 家族愛、家庭生活の充実	支え合う家族	父母、祖父母に敬愛の念を深め、家族の一員として協力し合って生活しようとする実践意欲を高める。	□家族から受けている無償の愛情や激励に気づき、家族の一員として協力していこうとする意欲が発言や道徳ノートの記述などに見られたか。 ◇生徒の家族関係の多様性に配慮しつつ、家族の大切さに気づかせることができたか。	技術・家庭
12	25	震災を乗り越えて—復活した郷土芸能—	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	郷土芸能を伝える	郷土によって育まれてきた伝統と文化のよさを理解し、郷土への誇りや愛着をもち、郷土に対して主体的に関わろうとする心や態度を育む。	□地域に伝えられてきた伝統文化を、自分たちが受け継いでいくことが大切であるといった発言や記述が見られたか。 ◇発問などから、自分自身との関わりの中で深く考えさせることができたか。	社会総合的な学習の時間
	26	奈良筆に生きる	C-(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	伝統を守る	日本人としての自覚をもって我が国の優れた文化を継承し、その創造に貢献しようとする態度を育てる。	□史峰の生き方に触れることにより、日本の文化や伝統を大切にし、日本人として誇りをもち生きたいという発言や記述が見られたか。 ◇実物や動画などを組み合わせて提示することにより、日本文化の素晴らしさに気づかせることができたか。	国語社会
1	27	ゆうへー生きていてくれてありがと—	D-(19) 生命の尊さ	つながる生命	多くの人の支えによって生きていると気づくことで、誰もがかけがえのない存在であると理解し、互いの存在を大切にしようとする実践意欲を育む。	□生きていることがあたりまえではないことに気づき、命のつながりや支え合いに関する発言や記述が見られたか。 ◇筆者や家族の思いを考えさせることをとおして、周りの人々の思いの上に自分が生きていることを考えさせることができたか。	社会総合的な学習の時間
	28	裏庭のできごと	A-(1) 自主、自律、自由と責任	誠実な生き方	自分の行動に責任をもち、自らを律し、誠実に生きようとする判断力を育てる。	□人間は失敗を謝らねばならないとわかっているのに、そうできないことがあるのはなぜかを話し合い、それを乗り越えることが大切だといった意見や、責任をもつことの大切さに気づき、自らも誠実に生きようとする意見や記述が見られたか。 ◇話し合いをとおして、健二の態度について生徒自身の体験と重ね合わせて考えさせることができたか。	特別活動
	29	旗	B-(8) 友情、信頼	友達のよさ	友情の尊さを理解するとともに、真の友情を築くために、互いに信頼し、励まし合おうとする実践意欲を高める。	□自分にも友達を励まし支えていこうとできること、また、それに応えようとする双方向の大切さを捉えた発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などによって、生徒自身の経験を踏まえて、友達相互の視点から深く考えさせることができたか。	数学特別活動
2	30	自分だけ「余り」になってしまう……	B-(9) 相互理解、寛容	お互いを認め合う	いろいろなものの見方や考え方があることに気づき、寛容の心をもって謙虚に他者から学ぶ態度を育てる。	□問題解決的な学習をとおして、余りをつくらない生き方のために、お互いの存在を認め尊重し合うことが大切だといった発言や記述が見られたか。 ◇問題解決的な学習を円滑に展開し、話し合いを深めることができたか。	数学特別活動
	31	篠崎街道	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	郷土を愛する心	自分たちが生活している郷土をつくり上げた伝統と文化に思いを寄せ、地域の一員としての自覚をもち、郷土を愛する心情を	□地域社会の一員としての自覚をもち、自らも何らかの関わりをもって郷土を大切にしていこうとする意欲が見られたか。 ◇少人数グループなどで話し合う際に、多数意見だけでなく、少数意見も全体に取り上げることができるよう配慮できたか。	社会外国語
	32	役に立つことができるかな	C-(13) 勤労	働くことの尊さ	勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労を通じて社会に貢献する態度を育成する。	□勤労の尊さを重んじる生き方をもとに、社会における自らの役割や将来の生き方に関する発言や記述が見られたか。 ◇「僕」の勤労観に対する変容を追いながら深く考えさせることができたか。	総合的な学習の時間
	33	小惑星探査機「はやぶさ」の挑戦	A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志	失敗から学んだ希望	希望と勇気を持ち続け、困難や失敗があっても決して諦めないで、その原因を振り返り、より高い目標の実現に向かってやり抜く強い態度を養う。	□川口さんの「ぜったいに諦めない」思いをとおして、失敗の経験から希望や強い意志が生まれ得ることに気づくような発言や記述が見られたか。 □川口さんの例から、「諦める」とこと「諦めない」とことの違いは何かを考えさせることができたか。	理科、総合的な学習の時間
3	34	緑のじゆうたん	A-(5) 真理の探究、創造	理想に向かって	現実を謙虚に受け止め、努力と工夫を重ね、理想に向かって人生を切り拓きたくましく生きようとする実践意欲を育てる。	□実現したいと思う理想を見つけようとする、前向きな発言が見られたか。 ◇鈴木さんの生き方を手がかりに、自己の生き方に対する考えを深めさせられたか。	理科保健体育総合的な学習の時間
	35	いつわりのパイオリン	D-(22) よりよく生きる喜び	人間として生きる喜び	人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きる喜びを見出そうとする心情を育む。	□フランクの心情の変化を追いかけて、誰もがもつ人間の弱さ、醜さに共感し、よりよく生きる喜びに関わった発言や記述が見られたか。 ◇フランクの心の変化に共感させ、人間の弱さ、醜さを理解させるためのねらいに迫る適切な発問を示すことができたか。	音楽

令和2年度 第2学年 年間指導計画

月	教材名	内容項目	主題名	ねらい	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
4	1 自分の弱さと戦え	D-(22) よりよく生きる喜び	自分の弱さの克服	自らの弱さを自覚し、それを克服しようとする強さを持ち、人間として気高く生きようとする態度を育む。	□自分の弱さや醜さを克服し、強さや気高さに変える気持ちをもとうとする発言や記述が見られたか。 ◇教材をとおして多面的・多角的な視点で議論させることができたか。	保健体育
	2 そうじの神様が教えてくれたこと	C-(13) 勤労	働くということ	勤労は個人の生活の維持や幸福追求と同時に、社会的分業によって社会に貢献していることを自覚し、勤労に対する意欲を高める。	□「僕」の変容をとおして、社会貢献という面から仕事について考え、よりよい勤労観についての発言や記述があったか。 ◇「僕」から「僕」たちと、発問の視点を変化させることで、個人だけでなく社会の視点を意識して勤労について考えさせることができたか。	総合的な学習の時間
	3 挨拶は言葉のスキップ	B-(7) 礼儀	心を形に	心と形が一つになった礼儀や作法の意義に気づき、相手を尊重する心を込めて、形に表していることとする態度を養う。	□礼儀が、相手を尊重し敬愛する気持ちにつながり、コミュニケーションの基本になることを理解し、「…の気持ちで挨拶したい。」「形式だけの挨拶にならないように気をつける。」のような今後の実践につながる前向きな言葉が見られたか。 ◇普段の自分の挨拶を振り返り、礼儀の意義について深く考えさせることができたか。	国語 総合的な学習の時間
5	4 最後のパートナー	D-(19) 生命の尊さ	支え合う生命	命がかけがえのないものであることを理解し、自他の生命を尊重する心を育て、周りの人と支え合って生きること感謝する心情を養う。	□周りの人たちが動植物がお互いに支え合っているといった命の尊さに関わる意見や記述が見られたか。 ◇命の尊さ、命のつながりや支え合い、人間や動植物など同じ命であるということを、教材提示や発問によって多面的・多角的に考えさせることができたか。	理科 総合的な学習の時間
	5 「自分」を諦めない。立ち上がった瞬間が自信になる	A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志	諦めない心	自らを信じ希望をもって、困難や失敗などの逆境を乗り越え、目標に向かって努力し続けようとする態度を養う。	□失敗を肯定的に捉える発言や、自らを信じること(自信)が目標に向かって努力し続ける力となるといった発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから、筆者の「言葉かけの意味」をさらに深く考えさせることができたか。	保健体育
	6 五月の風—カー—	A-(1) 自主、自律、自由と責任	自分を信じて	自主的に考え、判断し、誠実に実行してこうとする判断力を育成する。	□自主的に考え、判断し、誠実に実行することについて、自分なりに考えた発言や記述が見られたか。 ◇登場人物の考え方をとおして、自主的に考え、判断し、誠実に実行してこうとする判断力を育てることができたか。	技術・家庭 特別活動
6	7 五月の風—ミカー—	B-(8) 友情、信頼	本当の友達	互いに励まし合い、高め合う本当の友達をつくらうとする態度を育てる。	□相手にとって心から信頼できる友達とはどんな友達かを考え、よりよい友人関係を築いていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇問題解決的な学習をとおして、互いに励まし合い、高め合う本当の友達について考えさせることができたか。	技術・家庭 特別活動
	8 リスペクト アザース	C-(11) 公正、公平、社会正義	個性を尊重する社会	正義と公正さを重んじ、誰に対しても公平に接し、差別や偏見のない社会の実現に努める心情を育む。	□「他の人のことを尊重する」という考え方をとおして、歴史的な背景、風土などを踏まえてアメリカと日本の考え方を比べ、公平・公正な社会をめざし、よりよい生き方や考え方を模索するような発言や記述が見られたか。 ◇考え方の違いを比較、整理することをおして、生徒一人ひとりのよりよい生き方につながるよう考えさせることができたか。	社会 特別活動
	9 戦争を取材する	A-(5) 真理の探究、創造	真実を追い求める	真理や真実を求め、理想の実現をめざして、よりよく生きようとする態度を育てる。	□山本さんの悩みを自分との関わりで考え、理想の実現に向かってよりよく生きようとする発言や記述が見られたか。 ◇発問や道徳ノートへの記入から、よりよく生きることについて深く考えさせることができたか。	社会 総合的な学習の時間
	10 海と空—檉野の人々—	C-(18) 国際理解、国際貢献	国際社会の一員	世界の中の日本人としての自覚を持ち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献しようとする態度を育てる。	□「同じ人間として他国と尊重し合うことが大切である。」「国際人としてこんな生き方をしたい。」といった発言や記述が見られたか。 ◇板書や発問などから教材中の行為や心情について深く考えさせることができたか。感想だけでなく自分に行えることを考えさせることができたか。	社会
7	11 美しい鳥取砂丘	C-(10) 遵法精神、公德心	規則の役割	互いに住みよい社会をめざす精神の大切さを理解し、調和と規律を保つための法やきまりを進んで守ろうとする態度を育てる。	□社会には、法やきまりが守られない状況があるが、知恵を出し合って粘り強くよい方向に改善していこうとする視点での発言や記述が見られたか。 ◇話し合いを深めるなかで、「なぜきまりが守られないのか、どうすれば少しでもよい方に改善できるのか。」といった意見を多面的・多角的な視点から出させることができたか。	社会 理科
	12 和樹の夏祭り	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	地域の祭りの大切さ	郷土の伝統と文化を大切に、地域社会の一員としての自覚をもって、進んで郷土の発展に努めようとする実践意欲や態度を育てる。	□地域社会の一員として、郷土の発展に努めようとする発言や記述があったか。 ◇生徒自身が生活する地域社会を想起させ、その中で自己の生き方を考えさせることができたか。	社会 特別活動
9	13 ネット将棋	A-(1) 自主、自律、自由と責任	インターネット上の責任ある言動	誠実に行動することの大切さを理解し、自主的に行動しその結果に責任をもとうとする態度を育てる。	□善悪の判断を正しく行い、相手の立場に立って誠実に行動しようとする発言や記述が見られたか。 ◇発問や補助発問などから、多面的・多角的に考えさせることができたか。	保健体育 技術・家庭
	14 樹齢七千年の杉	D-(21) 感動、畏敬の念	自然の偉大さ	自然の美しさや神秘さ、偉大さを感じ、人間の力を遥かに超えたものに対する畏敬の念を深め、豊かな心を育てる。	□自然のかけがえのない美しさや偉大さを感じ取り、畏敬の念を深めているような発言や記述があったか。 ◇感動した体験を想起させたり写真を活用したりすることで、生徒自身に関わりのあることとして考えさせることができたか。	理科
	15 「自分」ってなんだろう	A-(3) 向上心、個性の伸長	自己を見つめる	人それぞれ必ずその人固有のよさがあり、その発見と自己受容、自己理解に努め、自分らしさを発揮できる生き方を求める。	□自分には自分のよさがあり、他人にもよさがあることを発見し、自分に自信をもとうとする発言や記述が見られたか。 ◇互いのよさを伝え合うことで、将来に向けて社会に役立つ自分の姿を発見できるように促すことができたか。	美術 総合的な学習の時間 特別活動
	16 小さな工場の大きな仕事	C-(13) 勤労	社会への貢献	勤労の尊さや意義を理解し、将来の生き方について考えを深め、勤労をとおして社会に貢献しようとする態度を養う。	□自己の資質・能力を生かして社会に貢献することに意味があるといった勤労観に関わる発言や記述が見られたか。 ◇友達との話し合いをとおして「僕」の心情の変化に気づかせ、深く考えさせることができたか。	理科 総合的な学習の時間
10	17 体験ナースをとおして	D-(19) 生命の尊さ	輝く生命	かけがえのない命を与えられていることに気づいて感謝し、自他の生命を尊重しようとする実践意欲を培う。	□生命の尊さを理解し、生命の尊厳について理解を深めた発言や記述が見られたか。 ◇発問構成から、「私」の生命に対する思いに共感させることができたか。	保健体育 総合的な学習の時間
	18 行動する建築家 坂茂	C-(12) 社会参画、公共の精神	社会のためにできること	社会参画の意識を高め、公共の精神をもってよりよい社会の実現のために貢献しようとする態度を育む。	□社会に参画することの意義を理解し、積極的に社会に関わっていこうとする意見や記述が見られたか。 ◇どのように社会に参画し、よりよい社会の実現のためにどのようにすればよいか、多面的・多角的に考えさせることができたか。	社会 数学 美術 総合的な学習の時間

10	19	さよなら、ホストファミリー	C-(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	日本人としての誇り	国際社会に生きる日本人としての自覚をもち、我が国を愛する心情を育てる。	□国際社会に生きる日本人としての自覚を深め、日本のよさの理解や伝統と文化の継承に努めようとする発言や記述が見られたか。 ◇知子と生徒自身の姿が重ね合わさるように、知子の生き方をとらえて深く考えさせることができたか。	社会 外国語
	20	夜のくだもの屋	B-(6) 思いやり、感謝	人の思いやりへの感謝	人間は多くの人々の善意や思いやりによって支えられ、守られていることに気づき、感謝する態度を育てる。	□周りの人の優しさや思いやりに気づき、それに感謝する発言や記述があったか。 ◇登場人物の思いを多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	国語 音楽
11	21	初心	A-(4) 希望と勇氣、克己と強い意志	初心に戻る	目標や希望をもって生活することの大切さや意義を理解し、その達成をめざし、困難などがあっても強い意志でやり遂げようとする態度を育てる。	□目標達成のために、努力したり困難を乗り越えたりすることの意義についての発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから、多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	社会 保健体育
	22	ライバル	B-(8) 友情、信頼	真の友情	生涯にわたる尊敬と信頼に支えられた真の友情について深く理解し、互いに認め高め合う友情を育もうとする態度を育てる。	□啓介と康夫の心の葛藤に共感し、真の友情について深く考えているような姿勢や記述が見られたか。 ◇ロールレタリング(役割を交換して手紙を書く手法)などを効果的に取り入れて、啓介と康夫の葛藤に共感させることができたか。	保健体育
	23	ハイタッチがくれたものの	C-(15) よりよい学校生活、集団生活の充実	私たちがつくる校風	集団で協力し合う大切さに気づき、狭い仲間意識を超えよりよい校風をつくらうとする意欲を育てる。	□自己中心的な考えや狭い仲間意識を超え、互いに理解し協力し合ってよい学校をつくることが大切だといった発言や記述が見られたか。 ◇問い返しや補助発問などから、多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	特別活動
	24	ヨシト	C-(11) 公正、公平、社会正義	いじめへの公正な態度	偏見を正し正義を貫こうと決意する主人公「僕」の姿に共感することをとおして、正義を重んじ、偏見や差別をなくしていこうとする態度を育てる。	□自分の学校生活などを振り返り、偏った見方や考え方によって生じている不公平に気づき、それらをなくすよう努力していこうとする発言や記述が見られたか。 ◇発問構成や問題解決的な学習によって、正義と公正さを重んじ、不公平を許さない「僕」の姿に共感させることができたか。	特別活動
12	25	コトコの涙	B-(9) 相互理解、寛容	わかり合うこと	人にはさまざまな考え方があることを理解し、自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他に学ぼうとする謙虚な態度を育てる。	□中心発問において「自分の考えを伝えつつ、わかり合い、他に学ぼうとする」ことの大切さに気づいていったコトコに関する発言や記述があったか。 ◇生徒の意見を取り上げて問い返すことによって、話し合いを深めることができたか。	総合的な学習の時間
	26	オーストリアのマス川	C-(10) 遵法精神、公德心	法やきまりの意義	きまりは幸福な社会を実現するためにあるということを認識し、それを遵守しようとする判断力を育む。	□きまりの必要性や守らないことによる影響を、自分の生活の問題として考えているような発言や記述が見られたか。 ◇「僕」のさまざまな心情や葛藤する気持ちに共感させながら、「私」を大切にしながらも「公」を多面的・多角的に考えさせることができたか。	社会 外国語
1	27	よみがえれ、えりもの森	D-(20) 自然愛護	自然環境を守る	人間は自然界のつながりの中で多くの恩恵を受けており、その有り難さに感謝するとともに、自然を守り行動しようとする態度を育む。	□人間が自然界のつながりの中で生かされていることに気づき、自然を守り行動しようとする発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから自然と人間の関係について深く考えさせることができたか。	理科
	28	ダシヨール・ニシオカ	C-(18) 国際理解、国際貢献	真の国際協力	それぞれの国の伝統と文化に各国民が誇りをもっていることを理解し、その上で日本人として国際協力を積極的に行おうとする態度を培う。	□国際協力とは、一時的な物資の援助ではなく、その国が自立して成長していけるように継続的かつ相互理解に基づいた双方向的なものでなければならないことについて考え、日本人として国際協力を積極的に行おうとする態度が発言や記述に見られたか。 ◇異文化を理解する・理解してもらうには時間と労力が必要であり、相手の立場で考えることが不可欠であることに気づくよう指導できたか。	社会 外国語
	29	門掃き	C-(12) 社会参画、公共の精神	美しいいきなり	「門掃き」をとおして、社会連帯の根底にある相互扶助や思いやりの心を知ることにより、よりよい社会を生み出す主体者として行動しようとする実践意欲を養う。	□「門掃き」に込められた社会連帯の大切さについて深く考えているような発言や記述が見られたか。 ◇他者との助け合い、目配り、気配り、社会連帯についての発言や感想を引き出せすことができたか。	社会 数学 特別活動
2	30	包む	C-(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	日本文化の心	我が国の優れた伝統と文化についての理解を深め、そこに込められた「日本人の心」に気づき、大切にしようとする心情を育てる。	□我が国の伝統と文化のよさに興味をもち、「日本人の心」の奥深さに気づく発言や記述があったか。 ◇ふろしき包みの体験などをとおして、ふろしきのよさを伝統・文化の観点から見つめさせることができたか。	社会 技術・家庭
	31	命を見つめて―猿渡瞳さんの六百四十六日―	D-(19) 生命の尊さ	懸命に生きる	限りある生命を懸命に生きることの大切さを理解し、互いに支え合って生きようとする心情を養う。	□かけがえのない生命を大切に、互いに支え合って生きることに関心しようとする発言や記述が見られたか。 ◇瞳さんの状況や弁論をもとに、問い返しや深める発問を行い、生命の尊さについて深く考えさせることができたか。	保健体育
	32	足袋の季節	D-(22) よりよく生きる喜び	強く気高く生きる	人間にある弱さと醜さを自覚しながらも、強く気高く、人間として生きる喜びを見出そうとする態度を深める。	□おばあさんの死から、「許しを得られない失敗は人間として決してやらない」と考え生きてきた「私」の思いと深い人間性に共感するような発言や記述が見られたか。 ◇問題解決的な学習や心情に共感する授業展開によって、前向きに生きようとする考えを深めさせ、人間として後悔は決してしないと考えさせる授業構想であったか。	国語
	33	恋する涙	B-(8) 友情、信頼	友情と好意	悩みや葛藤を乗り越えることで真の友情は培われるものであることを理解し、相手に信頼される自分になろうとする実践意欲を高める。	□冷静に自分を見つめることで、友情を深めていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇受容的な態度や心情円盤などの活用で、全員が参加できる授業を構築できたか。	保健体育
3	34	避難所にて	A-(2) 節度、節制	節度・節制の大切さ	節度ある生活や節制を心掛けるために、周りの人の生活を見つめることで自分の生活を見直し、思慮深く内省しようとする態度を養う。	□周りの人たちが困難な状況を乗り越え生活するために力を合わせていることに気づき、自分もそうした生き方を大切にしていこうとする発言や記述が見られたか。 ◇写真や動画などの資料を提示することで、当時は幼くて何もできなかった人々の思いやボランティア活動に従事した人々の思いに共感させることができたか。	技術・家庭 総合的な学習の時間
	35	きいちゃん	C-(14) 家族愛、家庭生活の充実	家族のきずな	自分も家族にとってかけがえのない存在であることに気づき、家族の一員としての役割を果たそうとする心情を育てる。	□きいちゃんの心の変化や言動をとおして、きいちゃんの家族のそれぞれの思いを感じ取るだけでなく、生徒自身の家族への思いや、将来の家庭生活の在り方に思いをはせている発言や記述があったか。 ◇きいちゃんの心の変化が生き方の変容につながっていったことについて、十分に意見を交換させることができたか。	社会 技術・家庭

令和2年度 第3学年 年間指導計画

月	教材名		内容項目	主題名	ねらい	評価のポイント (□ねらいについて、◇指導方法について)	各教科等
4	1	銀メダルから得たもの	A-(4) 希望と勇気、克己と強い意志	より高い目標をめざして	より高い目標を設定し、その実現のために努力や希望・勇気の必要性を理解するとともに、困難や失敗を乗り越えてやり遂げようとする実践意欲を高める。	□目標に向かって諦めずに努力する大切さや、自分に打ち克つ強い意志の重要性を捉えた発言や記述が見られたか。 ◇写真や発問などから、より高い目標をめざすうえでの大切さなどを、生徒自身の経験をもとにした視点から、深く考えさせることができたか。	保健体育
	2	風に立つライオン	D-(22) よりよく生きる喜び	人間の気高さ	内なる弱さと向き合い、それを克服することで生きることの喜びを見出そうとする実践意欲を育てる。	□人間として生きることの喜びを見出そうとする実践意欲が発言や記述に見られたか。 ◇問い返しや補助発問で話し合いを活発にすることによって、考え議論する道徳を実現することができたか。	音楽 総合的な学習の時間
	3	出迎え三步、見送り七歩	B-(7) 礼儀	おもてなしの心	礼儀は形と心が溶け合ったものであることを理解し、相手に対する敬愛の念を態度で示そうとする実践意欲を育てる。	□話し合いや体験中の態度や様子に、相手を敬愛しようとする思いが見られたか。 ◇それぞれの班の話し合いの内容に「おもてなし」の工夫が見られるよう、問い返しの発問などを構成することができたか。	国語 特別活動
5	4	昔と今を結ぶ糸	C-(17) 我が国の伝統と文化の尊重、国を愛する態度	日本の伝統文化	日本人としての自覚を深め、受け継がれてきた歴史や伝統文化の素晴らしさを理解し、発展させていく態度を培う。	□先人が育んだ伝統と文化の素晴らしさに気づき、自らも伝統と文化を受け継ぐ役割を担っているという意識が発言や記述に見られたか。 ◇孝の気持ちに共感し、自分も伝統と文化を継承し、新たな文化を創造していくという意欲と態度を育てることができたか。	社会 特別活動
	5	No Charity, but a Chance!	C-(12) 社会参画、公共の精神	ともに生きる社会の実現	自分たちが生活する社会に自ら進んで参画し、よりよい社会を実現していくという実践意欲を育てる。	□よりよい社会を実現するために自分にはどのような貢献ができるのか、実践意欲や態度につながる発言があったか。 ◇中心発問で、ともに生きる社会に自ら進んで参画しようとする中村医師の思いを考えさせることができたか。	社会 保健体育 総合的な学習の時間
	6	一冊のノート	C-(14) 家族愛、家庭生活の充実	家族への敬愛	一冊のノートに書かれた祖母の苦悩や不安、家族への思いに気づく姿をとおして、祖父母への敬愛を深め、家族の一員として慈しむ心情を養う。	□「僕」に共感しながら、祖母の苦悩や不安、自分の家族に思いを馳せる発言や記述が見られたか。 ◇問い返しや補助発問から、自分の立場で考えさせることができたか。	技術・家庭
6	7	卒業文集最後の二行	C-(11) 公正、公平、社会正義	いじめを許さない心	いじめがいかに非情であるかを理解し、差別や偏見を見抜き、人間として許されないことを許さない態度を育てる。	□いじめがいかに差別的で人間として許されないものであり、加害者が相手の痛みは無頓着、傲慢であることに気づくような発言や記述があったか。 ◇筆者「私」の心情理解のみでなく、生徒が自分自身の問題として捉え、今後の人生に生かしていくという実践意欲と態度を高められる授業構想であったか。	特別活動
	8	思いを伝えることの難しさ	B-(9) 相互理解、寛容	互いの思いの伝え方	よりよい人間関係を築くために相互理解と寛容について理解を深め、自分の思いを適切に伝え、相手の思いを素直に取り入れようとする実践意欲を養	□ペアでの体験的な活動をとおして、互いに思いを伝え合うときの基本的な考え方や態度に関する発言などが見られたか。 ◇体験的な活動によって、実感を伴って深く考えさせることができたか。	国語、数学、 特別活動
	9	違うんだよ、健司	B-(8) 友情、信頼	本当の友情とは	友情の尊さを理解するとともに、友達をよき理解者として心から信頼し、互いに励まし高め合い、協力し合おうとする態度	□「僕」になりきったうえで、共感場面や葛藤場面をとおして、本当の友情とは何かに気づいた発言や記述が見られたか。 ◇生徒の意見を取り上げて問い直すなど、話し合いを深めることができたか。	特別活動
7	10	命のトランジットビザ	C-(18) 国際理解、国際貢献	人類愛、つながる命	国際的視野に立ち、人類愛について理解を深め、世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする心情や態度を育てる。	□ユダヤ人を救おうと決心した杉原千蔵をとおして、世界の平和や人類の幸福を大切に思う発言や記述が見られたか。 ◇外交官としての職責や家族の安全と、人種を越えた命の大切さの間で苦悩する杉原千蔵の心の動きをとおして、多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	社会 外国語 総合的な学習の時間
	11	エリカ―奇跡のいのち―	D-(19) 生命の尊さ	生きていることの奇跡	生命の尊さを理解し、かけがえのない自他の生命を尊重する態度を養う。	□生きていることの尊さや生命のつながり、かけがえのない生命を軽々しく扱ってはならないとする態度が、発言や記述に見られたか。 ◇母親や育ててくれた女の人の思いと「わたしの星」にかける思いを考えさせることで、生命の尊さについて深く考えさせることが	社会
	12	新しい夏のはじまり	A-(3) 向上心、個性の伸長	前向きな生き方	自己を見つめ、これまでの自分を冷静かつ客観的に振り返るとともに、経験を生かした自分らしい新しい生き方をしようとする態度を育てる。	□自分自身を見つめ、それまでの経験を活かして新しい生き方をしようという発言や記述が見られたか。 ◇やってきたことが無意味だったのではないかと捉えていた垂樹が、それに意味を見出そうと心情を変化させたことに気づかせることができたか。	保健体育 特別活動
9	13	「稲むらの火」余話	C-(16) 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度	かけがえのない郷土	郷土のために尽くした先人の生き方を理解し、自らも地域社会の一員としての帰属意識をもって郷土に貢献しようとする意欲	□郷土に対する自分自身の想いを認識し、郷土に貢献していきたいという発言や記述が見られたか。 ◇濱口儀兵衛への称賛だけでなく、生徒自身に置き換えて考察させることができたか。	社会 総合的な学習の時間
	14	ある朝のできごと	A-(2) 節度、節制	自分を抑える力	節度を守り節制に心掛けた安全で調和のある生活を重んじ、自己の欲望や衝動を抑えた行動をとろうとする判断力を育	□自分自身の弱さと向き合い、それを乗り越え、節度を守り節制に心掛けようとする発言や記述が見られたか。 ◇自分自身との関わりで考えさせ、これからの生活をよりよいものにしていくという判断力を育むことができたか。	技術・家庭 特別活動
	15	言葉の向こうに	B-(9) 相互理解、寛容	相手の気持ちを考える	それぞれの立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解して、寛容の心をもとうとする態度を育てる。	□自分の発する言葉の向こうにそれを受け取る他者がいることや、異なった意見や考えを受け入れることの大切さを理解した発言や記述があったか。 ◇「自分＋1」の部分で、話し合い活動などにより、多面的・多角的に考えさせることができたか。	国語 技術・家庭
10	16	臓器ドナー	D-(19) 生命の尊さ	自他の生命の尊さ	臓器提供という現代的な課題をとおして、生命の尊さを深く理解し、自他の生命をかけがえのないものとして尊重する態度を育てる。	□臓器提供について自分の考えをもち、仲間の考えを受け入れ、より生命に対する畏敬の念を深め、尊重するような発言や記述が見られたか。 ◇一人ひとりの考えを引き出し、共有し、さらに自分に立ち返ることで、生命のかけがえのなさを感じさせる授業展開になっていた	理科
	17	iPS細胞で難病を治したい	A-(5) 真理の探究、創造	夢の実現	よりよく生きるために、真実を大切にし、真理を探究して新しいものを生み出そうとする実践意欲を育てる。	□よりよく生きたいという願いや、新しいものを創造していくことへの意欲を示す発言や記述が見られたか。 ◇幾度も挫折を乗り越えながら研究を進めている山中さんのモチベーションの核となるものを話し合い、自分自身のこととして考えさせることができたか。	理科 総合的な学習の時間
	18	二通の手紙	C-(10) 遵法精神、公德心	法やきまりの意義	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、規律ある社会の実現に努める態度を育てる。	□法やきまりの意義について理解しようとし、そのよりよい在り方について深く考えているような発言や記述があったか。 ◇話し合いをとおして、規則は何のためにあるのかを深く考えさせることができたか。	社会
10	19	命の大切さ	C-(11) 公正、公平、社会正義	豊かな人権感覚	自分の立場のみ主張するのではなく、他者に目を向け、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする態度を育てる。	□発言や記述から、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする態度が見られたか。 ◇問い返しや補助発問で話し合いを活発にすることによって、考え議論する道徳を実現することができたか。	社会

10	20	町内会デビュー	A-(1) 自主, 自律, 自由と責任	自律的な生き方	自主的に考え, 自らを律し, 自分の決めたことを実行していこうとする判断力を養う。	□自分の意志で行動することの大切さを捉えた発言や記述があったか。 ◇明の動機の変化を考えさせることをとおして, 自主, 自律の大切さを感じさせることができたか。	特別活動
11	21	自分・相手・周りの人	C-(12) 社会参画, 公共の精神	公共の場での心構え	公共の場での心構えを理解し, さらに一人ひとりが協力して, 誰もが安心して生活できる社会をつくっていくという意欲を育てる。	□公共の場での心構えを理解し, 積極的にによりよい社会の実現のために自ら参画しようとする発言や態度が見られたか。 ◇教材提示によって, 社会の課題に気づき, 安心して生活できる社会にするために自分に何ができるかを考えさせることができたか。	数学 美術
	22	塩むすび	B-(6) 思いやり, 感謝	感謝の心に応える	家族などの支えや多くの人々の善意により, 日々の生活や自分があることに感謝し, 進んで周囲の思いに応えようとする態度を育てる。	□「私」が周囲に喜んでもらえたことや, おばさんたちの気遣いについて深く考えようとしている発言や記述があったか。 ◇身近な人への感謝の気持ちが表れた発言や感想を引き出すことができたか。	技術・家庭 総合的な学習の時間
	23	「川端」のある暮らし	D-(20) 自然愛護	自然とともに生きる	人間は自然の中で生かされていることを自覚し, 自然環境を大切にするとともに, 自分のできる範囲で自然愛護に努める態度を育てる。	□「川端」が人々の暮らしにどのように根づき, 生活に溶け込んでいるのかについて理解を深め, 人間と自然との共生の在り方を理解し, 自然愛護に努めようとする発言や記述が見られたか。 ◇「自分に+1」の部分で, 話し合い活動などにより, 多面的・多角的に考えさせることができたか。	社会 理科
	24	風景開眼	D-(21) 感動, 畏敬の念	自然への畏敬	自然の神秘に感動し, 人間の力を超えたものへの畏敬の念を深めようとする心情を育てる。	□筆者が見た「輝く生命の姿」をとおして, 自然の神秘に感動し, 人間の力を超えたものへの畏敬の念について深く考えようとしている様子があったか。 ◇発問により, 筆者の感動に共感しながら自然に対する畏敬の念を抱き, 謙虚な気持ちで生きていこうとする発言や記述を引き出すことができたか。	社会 美術
12	25	ゴリラのまねをした彼女を好きになった	B-(8) 友情, 信頼	人を好きになる	異性への理解を深め, 相手の内面的なよさに目を向け, 互いを向上させようとする心情を育成する。	□異性を尊重し, 互いに高め合う関係を築くことの大切さに触れた発言や記述があったか。 ◇問い返しの発問などから, 具体的かつ深く考えさせることができたか。	保健体育 総合的な学習の時間
	26	父は能楽師	C-(17) 我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度	日本の文化を受け継ぐ	先人の残した有形無形の文化遺産の中に優れたものを見出し, それを生み出してきた精神に学び, 継承し発展させようとする心情を養う。	□竜夫の内面的成長から学んだことをもとに, 能楽などの伝統文化を受け継ぎ発展させることの意味や意義について考えている発言や記述があったか。 ◇竜夫の内面変化を追い, 心情を理解させるための的確な発問ができたか。	社会 総合的な学習の時間
1	27	独りを慣む	A-(2) 節度, 節制	自制する心	望ましい生活習慣を身につけ, 充実した人生を送るために, 節度を守り節制に心掛け, 調和のある生活を自ら実践しようとする態度を養う。	□人生をより豊かにするためには望ましい生活習慣を身につけることが大切であり, それを実践していこうという発言や記述が見られたか。 ◇意義をとおして「自制」の意義を理解させ, 問い返しの発問で, 道徳的価値を多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	国語 技術・家庭
	28	私も高校生	A-(1) 自主, 自律, 自由と責任	自分で決めたこと	主体的に自分の生き方を考え, やろうと決めたことを誠実に実行し, その結果に責任をもつ態度を育てる。	□よりよい人生に向け, 主体的に考え誠実に実行しようとする発言や記述が見られたか。 ◇「私」の誇りある生き方に共感させ, 自らの生き方について考えさせることができたか。	総合的な学習の時間
	29	ワンス・アポン・ア・タイム・イン・ジャパン	C-(10) 遵法精神, 公德心	規律ある社会	法やきまりの意義を理解し, それらを進んで守ることにより, 規律ある社会の実現に努めようとする態度を育成する。	□社会の規律のために法やきまりを守ることの大切さについての意見や記述があったか。 ◇問い返しの発問をとおして, 多面的・多角的な見方や考え方を引き出すことができたか。	社会 外国語
2	30	公園に桜を	C-(12) 社会参画, 公共の精神	よりよい社会の実現	主権者として社会に主体的に参画し, 社会の発展に寄与しようとする態度を育てる。	□地域の課題に目を向け解決を図るために社会参画しようとする言動が見られたか。 ◇応援演説の原稿作成と話し合いをとおして, よりよい社会の実現のために大切なことを考えさせることができたか。	社会
	31	本とペンで世界を変えよう	C-(18) 国際理解, 国際貢献	世界平和を考える	国際的な視野に立って, 世界の平和と人類の幸福に貢献しようとする心情を育てる。	□マララの姿をとおして, 世界平和について自分のこととして考える発言や記述が見られたか。 ◇問い返しの発問などから, 多面的・多角的に深く考えさせることができたか。	外国語 総合的な学習の時間
	32	あるレジ打ちの女性	C-(13) 勤労	自分に大切な勤労の尊さ	主人公の女性の変容を知ることによって, 自分の考え次第で仕事が楽しくなることを理解し, 働くことの素晴らしさについて学ぼうとする実践意欲を深める。	□働くことによって, 社会とのつながりが実感できることに気づき, その素晴らしさについてさらに考えようとする発言や記述があったか。 ◇主人公の女性の「仕事」に対する価値観まで言及できるように, 問い返しや補助発問などを工夫できたか。	総合的な学習の時間
	33	世界を動かした美	D-(22) よりよく生きる喜び	よりよく生きる	さまざまな環境の中で人間としてよりよく生きようとする大切さを学び, 自分の生き方についての考えを深める。	□話し合い活動への積極的な参加や発言内容, 道徳ノートへの記述をとおして, 授業の初めよりも「自分の人生をよりよく生きること」への関心が高まっている様子が見られたか。 ◇授業での発言に対して, その場できちんと評価したり教師として感想を述べたりすることができたか。	外国語
3	34	希望	D-(19) 生命の尊さ	かけがえない生命	命の重さを, その連続性・有限性なども含めて理解するとともに, かけがえない自他の生命を尊重しようとする意欲を高める。	□生命の尊さや有限性などを理解し, 命を大切にするために, 自分にできることは何かを考えている発言や記述が見られたか。 ◇「私」の気持ちの変容を踏まえうえて, 生命の尊さの視点から, 生命の有限性などを発問構成によって深く考えさせることができたか。	社会 総合的な学習の時間 特別活動
	35	お別れ会	C-(15) よりよい学校生活, 集団生活の充実	我が校を愛する心	自分の学校に対する愛着を深め, 協力して校風を継承し, 発展させようとする態度を育てる。	□自校の校風を見出し, 愛着をもつとともに, それを継承し, 発展させていこうとする意欲が発言や記述に見られたか。 ◇「僕」の心情を追うことをとおして, 自校の校風や伝統を想起させ, その中で自己の生き方を考えさせることができたか。	保健体育 特別活動

『中学道徳あすを生きる』各教科等との関連表（全体計画別葉）第1学年

日本文教出版

[illegible]

年計1棟 (棟頭田吉) 棟頭のと掃菰祭名『るれ田をすゐ 棟頭田吉』

日本文教出版

[illegible]

『中庸』徳をすすむるに名教等との関連表(全本語画図表)第2巻第2年号

日本文教出版

内容	道徳	学級活動	生徒会活動	学校行事	国語	算数	社会(地理)	数・科	理科	音楽
月	『中学道徳 あすを生きる1』	学級活動	生徒会活動	学校行事	国語 【国語2】 (教科)	算数 【新しい算数】 (算数)	社会(地理) 【中学生の地理】 (地理)	数・科 【中学社会歴史的分野】 (数・科)	理科 【未来へつなぐサイエンス2】 (理科)	音楽 【中学音楽2.3上】 (音楽)
4月	1 自分の特徴と向き合う 2 それぞれの個性が教えてくれたこと 3 挨拶は言葉のスキミング 4 最後のパートナー	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
5月	5 五月の風一かた 6 五月の風一かた 7 五月の風一かた	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
6月	8 リスベクト アサーズ 9 戦争を取付する 10 海と空一機隊の飛行 11 美しい鳥の鳴き声	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
7月	12 和風の夏祭り 13 ネット相棒 14 輪廻七千年の形 15 「自分」ってなんだろう 16 小さな工場の大仕事	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
8月	17 身体を動かして 18 身体を動かして 19 さあ、ホストファミリー 20 夏の思い出	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
9月	21 初心 22 ライバル 23 ハバタチがくれたもの 24 小さな工場の大仕事	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
10月	25 コトの海 26 オーストラリアのマス川 27 命を失った人 28 命を失った人	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
11月	29 命を失った人 30 命を失った人 31 命を失った人 32 命を失った人	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
12月	33 命を失った人 34 命を失った人 35 命を失った人 36 命を失った人	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
1月	37 命を失った人 38 命を失った人 39 命を失った人 40 命を失った人	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
2月	41 命を失った人 42 命を失った人 43 命を失った人 44 命を失った人	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう
3月	45 命を失った人 46 命を失った人 47 命を失った人 48 命を失った人	学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	生徒会・部活動オリエンテーション 生徒会 学級総括づくり 学級目標づくり 学習について	始業式 入学式 健康診断 新入式・離任式 定期考査	見えないだけ アイヌプラネット アイヌプラネット	行書 行書と仮名	日本の近世 日本の近世 世界の近世	式計算 文字式の利用 連立方程式 連立方程式の利用	物質の取り立ち 物質を導く記号 さまざまな化学変化 化学変化と物質の質量	生命が明けてくとき 語りあおう

『中道徳』を著すにあたり、その関連著書『全書語体画別(棟)』と『棟2種年』

日本文教出版

[illegible]

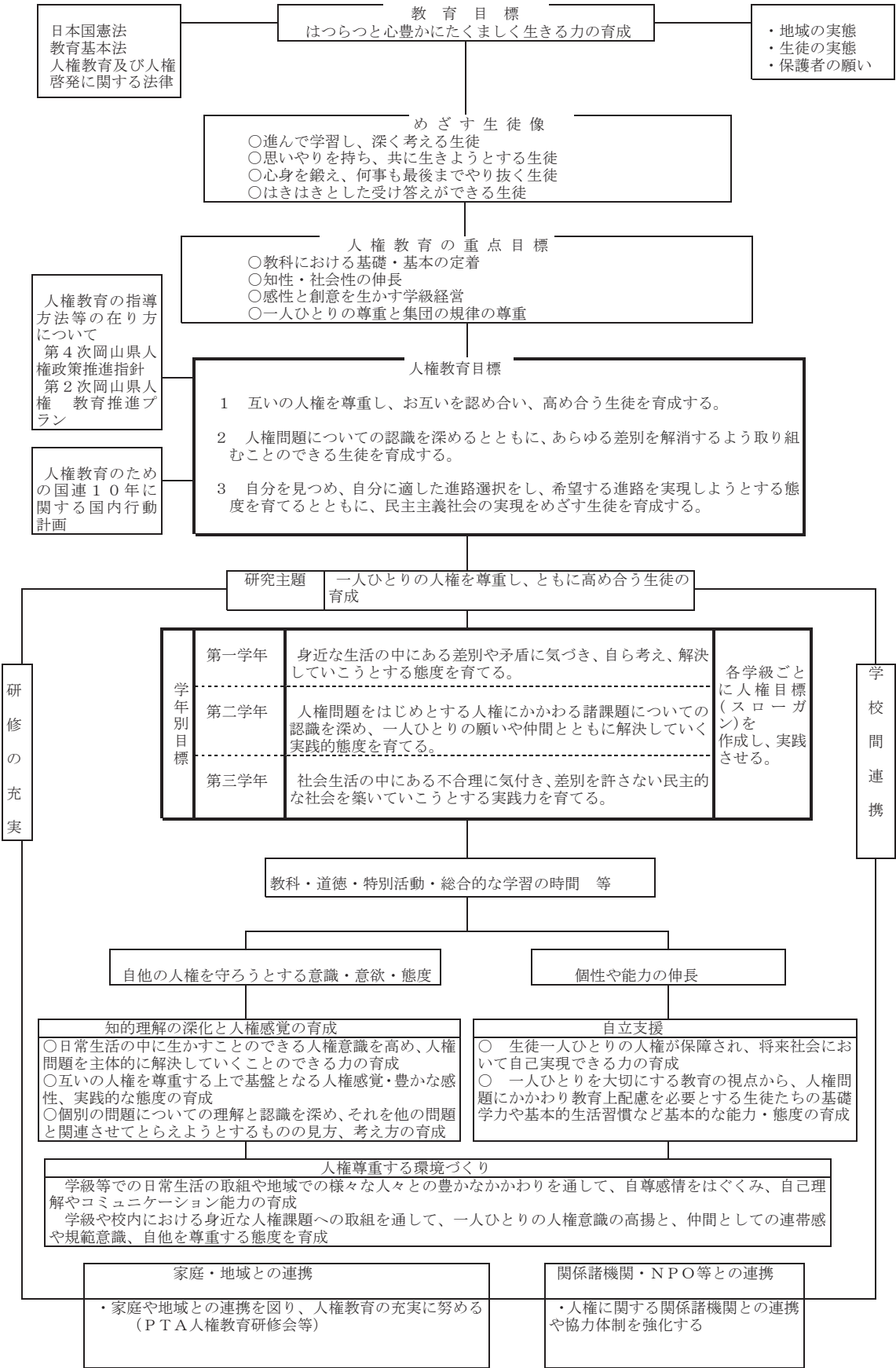
『中学道徳あすを生きる』『名教科等との関連表(全体計画画)』第3年

日本文教出版

[illegible]

令和2年度 人権教育の全体構想

新見市立新見第一中学校



令和2年度 人権教育指導計画

新見市立新見第一中学校

1 基本方針

憲法・教育基本法に基づいて、生命の尊厳を認識し、基本的人権を尊重し、人権教育を正しく理解するとともに、差別をなくして民主的な人間関係をつくりあげていこうとする能力を育てる。

2 指導の方策

(1) 指導体制の確立と強化

全職員が人権教育に対する理解と認識を深めながら、あらゆる活動を通して、あらゆる差別の解消をめざし、共通理解のもとに、年間指導計画に基づき、継続的・系統的な実践活動の充実を図る。

(2) 学力向上と進路の保障

各教科の指導にあたっては、人権教育のねらいが十分に達成されるように授業を創造し、生徒の学力の向上に努める。

(3) 人権意識の高揚と学級集団づくり

忘れられたり、取り残されたりする生徒がいないような学級集団づくりをめざし、生活の中で互いに人権を大切に守り育てる。また、身近でおこる矛盾や不合理を自分達の問題としてとらえ、解決していこうとする集団づくりを目指す。

(4) 地域との連携

家庭や地域との連携を深め、一層の相互理解を図る。

3 教育課程への位置づけ

○教科・道徳・特別活動の中に明確に位置づけて指導する。

○各教科・領域において、それぞれの目標や内容を人権教育の視点から検討し、年間計画に位置づける。

(1) 教 科

① 各教科の目標を達成することが学力を保障することであり、さらに、差別に対する科学的な認識を高める基盤となるという観点から、全ての教科の指導の向上を図る。

② 一人ひとりの生徒の全面発達を保障するために、全ての教科でわかる授業を工夫する。

③ 意欲のない生徒、つまづきのある生徒には継続的な個別学習を行う。

④ 社会科を中心に、人権や差別に対する正しい認識を養い、差別を許さない態度を身につけさせる。

(2) 道 徳

- ① 人権尊重の精神を基盤とした、生命・人権・真実・集団・勤労などに関する適切な資料をあて、ねらいを達成する。
- ② 人権の侵害問題をしっかり認識して指導する。

(3) 特別活動

- ① 個人や集団の問題を、筋道をたてて解決できるようにする。 【学級活動】
(学級集団を充実し、学級の諸問題を解決する能力を育成する。)
- ② ソーシャルスキル向上のための取り組みを積極的に行う。 【学級活動】
- ③ 朝の会や帰りの会の充実をめざし、生徒の活動を活発にする。 【学級活動】
- ④ 学習に遅れている生徒、人間関係のうまくいかない生徒、地域や家庭で疎外されている生徒を中心に置いた学級づくりをする。 【班づくり】
- ⑤ 学校生活の改善と向上をめざし、生徒会活動を活発にする。 【学年集会】
(自主的な委員会活動をめざし、活性化を図る。)
- ⑥ 将来の進路を自ら決定できる力を身につけさせ、生徒の未来を保障していく。 【キャリア学習】
- ⑦ 生徒自らが魅力を感じるような課題を設定し、課題解決に向かう探究学習を行う。 【総合的な学習】
- ⑧ 進んで働き、勤労の意義を認識し、正しい勤労観を身につけさせる。 【清掃活動・ふるさと職業体験学習】

4 研修計画

(1) 全職員を対象にした研修会

- 道徳校内研究授業
- 人権教育校内研修

(2) P T A人権教育研修会参観授業

- 指導案検討とフィルムフォーラム
- 人権教育講演
- 社会教育主事指導による参加型人権学習

(3) 新任者へ本校人権教育の概要説明

(4) 人権学習の充実

- 人権週間での取り組み
(人権標語、人権アンケート、人権講演会・人権集会、人権スローガン等)
- 社会科における教科書記述の学習

令和2年度 図書館教育運営計画

1 目標

- (1) 読書活動を推進し、積極的に読書する習慣を身に付けさせる。
- (2) 本を読むことをとおして、多様な見方や考え方を知ったり、物事を多面的・多角的にとらえたりすることができる心を育む。
- (3) 本に親しむことで、感性を磨き、表現力・創造力を高め、自己の生活をより豊かなものにしようとする力を養わせる。

2 重点事項

- (1) 蔵書の充実
 - ・各教科、各領域関連図書の整備
 - ・読書意欲に応える図書の整備
- (2) 読書活動の推進
 - ・図書の紹介
 - ・図書便り
 - ・教科指導
- (3) 図書委員会活動の推進
 - ・図書委員会を主体とする取り組み

3 運営組織

- ・管 理（受け入れ・登録・廃棄）
- ・指 導（閲覧・貸し出し・図書利用・各領域との連携をした調べ学習の指導）
- ・研 究（統計・調査・広報・選書）

4 年間計画 ※定期的に図書室便りを発行予定

4月	組織作り、1年生図書館利用指導	10月	選書、図書購入
5月	購入希望調査、選書、図書購入	11月	選書、図書購入、読書推進活動
6月	選書、図書購入	12月	選書、図書購入、冬休み貸し出し計画
7月	選書、図書購入、夏休み貸し出し計画	1月	購入希望調査、選書、図書購入
8月	選書、図書購入、蔵書点検、蔵書管理	2月	選書、図書購入
9月	購入希望調査、選書、図書購入	3月	貸出実態調査、集計、表彰、蔵書点検、整理

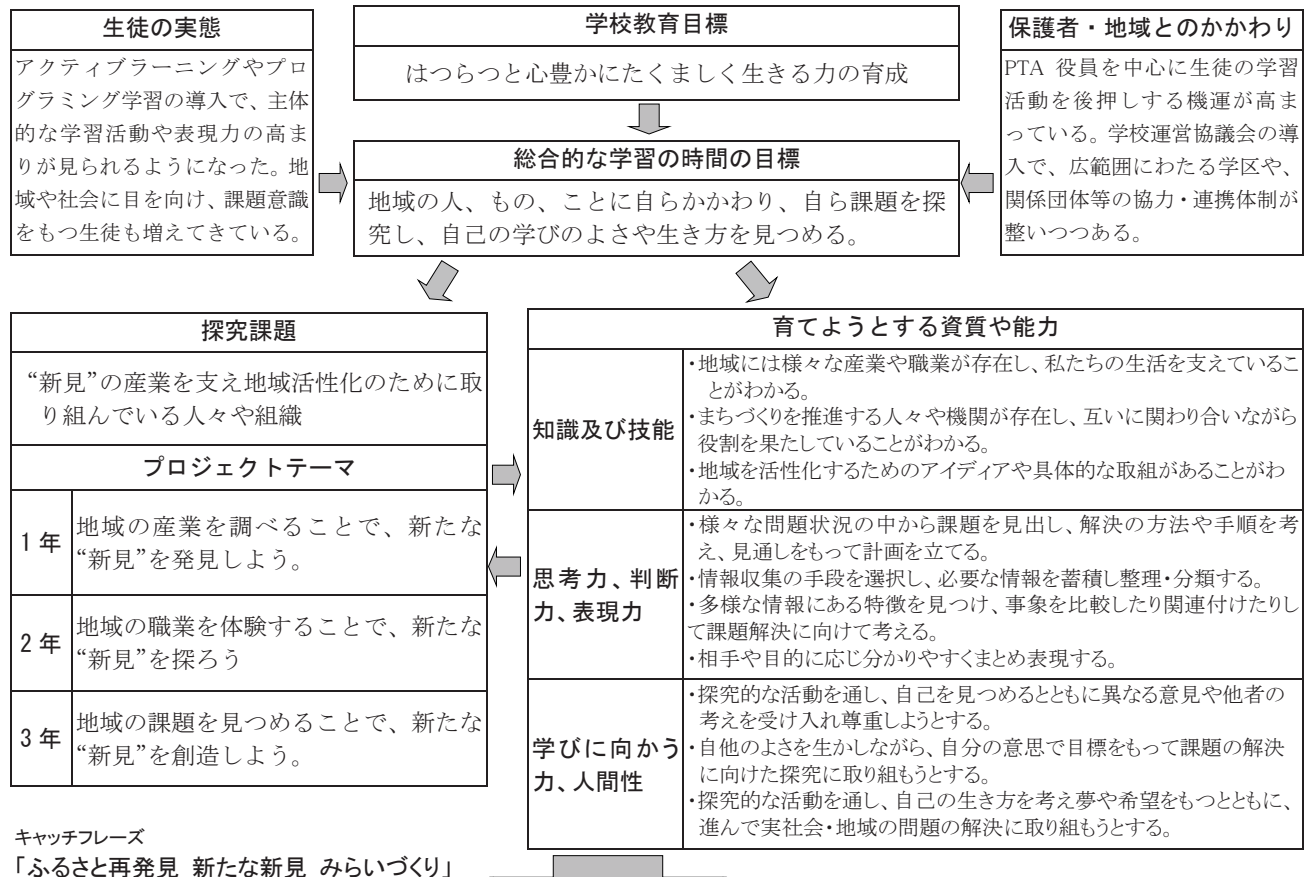
5 図書室の利用について

- (1) 貸し出し・返却の時間について
 - ・昼休み、放課後 ※曜日指定あり
 - ・授業時の利用は、担当教員・または司書のもとに行う
- (2) 図書の貸し出し・返却の方法について
 - ・貸出冊数は一人3冊までとする。
 - ・貸出期間は2週間までとする。（長期休業中はこの限りではない）
 - ・貸出期間を過ぎても返却されない場合は、督促状を出す。
 - ・禁帯出図書および参考図書については、担当者の許可を受けなければならない。

6 図書委員会の主な活動

- ・昼休みに2名の図書委員がカウンター当番に当たる。
- ・図書便りの作成
- ・図書室の整理整頓、掲示
- ・新刊図書、推薦図書の紹介（ポスター・放送など）
- ・図書室の利用についての広報活動（放送など）や推進活動（クラスマッチ）
- ・朝読書強化週間の実施

令和2年度 総合的な学習の時間 全体計画



学習活動		
1年（50時間）	2年（70時間）	3年（70時間）
【新見発見プロジェクト】20 新見の産業について調査活動や調べ学習を行い、地域への関心を深める。 ※学級単位で関連施設への訪問学習を実施する。（例：石灰、特産品、市役所等）	【新見体験プロジェクト】34 職業体験学習を企画・実施・評価し、地域に貢献する態度を養う。 ※生徒の希望をもとに小グループ単位で関連施設への体験学習（3日間）を行う。	【新見貢献プロジェクト】18 自ら地域に貢献できることを企画・実施し、社会参画に向けた実践力を養う。 （ボランティア、広報活動等）
【選択型プロジェクト】16 新見発見プロジェクトと関連づけ、課題解決に向けて自らできることを主体的に行う。	【選択型プロジェクト】14 新見体験プロジェクトと関連づけ、課題解決に向けて自らできることを主体的に行う。	【選択型プロジェクト】18 地域の課題を探り、“新見”活性化に向けての提言を主体的に行なう。
【プログラミングプロジェクト】6 選択型プロジェクトと関連づけたプログラミングの基礎を学ぶ。	【平和追求プロジェクト】12 広島平和学習を通して過去の歴史を振り返り、持続可能な社会への意識を深める。	【異文化体験プロジェクト】12 修学旅行での民泊体験を通し、異なる地域文化を学び互いの良さを探る。
【キャリアアッププロジェクト】8 様々な職業を探ることを通して、自己の夢や適性と進路との関係を考える。	【キャリアアッププロジェクト】10 様々な上級学校を探ることを通して、自己の夢や適性と進路との関係を考える。	【キャリアアッププロジェクト】22 自己との対話や他者理解を通して進路との関係を具体化し、将来の自分を創造する。

指導方法	指導体制	学習評価
・生徒の課題意識を連続発展させる支援を行う。 ・意図的に編成したチームでの協働的な学習を充実させる。 ・体験活動や言語活動を重視し、ICT を効果的に活用させる。	・学年団を中心とした指導体制を組織する。 ・校内担当者と学校運営協議会とが連絡を取り合い、外部組織との連絡調整と支援体制を確立する。 ・新見みらいづくり会議実行委員会やロータリークラブ、官公庁などの外部組織の人材を有効活用する。	・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。 ・自己評価、相互評価を行う。
		評価の観点
		○ 課題設定の力 ○ 将来展望の力 ○ 情報収集の力 ○ 社会参画の力

総合的な学習の時間 プロジェクト学習の進め方

～共通の目的の達成に向けた協同学習チームによる活動～

○プロジェクト学習の目的

- ①調査活動（昨年の研究結果）、体験活動、制作活動を中心に学習を進める。
- ②企画・運営・評価を主体的、協同的に進める。
- ③目的意識や問題意識に関わる自分の思いを実現する。
- ④社会活動によって作品や研究報告書を活かす実践活動をする。
- ⑤汎用的能力を、体験を通して身につける。
- ⑥R-PDCA サイクルに沿って活動を積み上げる。

○学習の流れ

全学年共通 選択型プロジェクト （原則4名でチームを編成）			
	主体的な学び	協同的な学び	深い学び
R	課題決定に意見を出す	課題を協働で決める	視点を工夫する
	先行研究の調査、簡単な調査、学習課題の決定を行い、自分たちの学習でどのような学びをすればよいのかについて大きな見通しをもつ。		
P	具体的な目標決定	協力して計画を立てる	計画書を作る
	インターネットなどで活用（または体験や訪問など）して簡単な調査を行い、学習したいことを、ウェブマップマップを使って書き出す。そして、目標をチームで共有化する。（活動の展開によっては目標を修正していく）		
D	積極的に活動に取り組む	協同で課題を解決する	アイデアを表現する
	調査研究、実践交流、体験活動を行い、プレゼンテーション資料を作成する。（インタビュー、アンケート、写真、動画など資料の収集）		
C	プロジェクト評価（自己）	相互評価（成果と課題）	評価レポートの作成
	自己評価、相互評価、プロジェクト評価を行う。（ポートフォリオ形式で保存）プロジェクトそのものを振り返り成果と課題にまとめる。		
A	改善案を作成	分担して報告書の作成	今後の課題を見いだす
	改善案の作成・実行、学習の振り返りを行い、実施段階でうまくいかなかった活動の改善案を作成し、次年度につなげる。		

○必修型プロジェクト学習（短期活動）

- ・新見発見プロジェクト～調査活動を通して新見の産業を知ろう～ 1年
- ・新見体験プロジェクト～職業体験を通して新見を探ろう～ 2年
- ・平和追求プロジェクト～平和学習を通して持続可能な社会を考えよう～ 2年
- ・新見貢献プロジェクト～自ら地域に貢献できることを実践しよう～ 3年
- ・異文化体験プロジェクト～異なる地域文化の良さを探ろう～ 3年
- ・プログラミングプロジェクト～課題解決に向けて活かそう～ 全学年
- ・キャリアアッププロジェクト～将来の自分を創造しよう～ 全学年

令和2年度「総合的な学習の時間」年間指導計画 第1学年

テーマ		“ふるさと新見”を探り活性化につなげよう ～調査活動を通し新見の産業を知る～			
	時数	新見発見 プロジェクト(20)	選択型 プロジェクト(16)	プログラミング プロジェクト(6)	キャリアアップ プロジェクト(8)
4月	1	①オリエンテーション ②産業とは ③産業と働く人 ④情報収集 ⑤調査活動 (地域訪問学習) ⑥整理・分析 ⑦まとめ ⑧表現	プログラミング学習の進め方 基礎講座を行った後は、各プロジェクト学習の中で必要に応じて実践的に実施する。指導は情報教育担当者と担任がITで実施する。	①オリエンテーション ②基礎講座	
	2				
5月	3				
	4				
	5				
	6				
6月	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
	16				
	17				
7月	18				
	19				
	20				
9月	21				
	22				
	23				
	24				
10月	25				
	26				
	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
11月	32				
	33				
	34				
	35				
	36				
	37				
	38				
12月	39				
	40				
	41				
1月	42				
	43				
	44				
	45				
2月	46				
	47				
	48				
	49				
	50				

令和2年度「総合的な学習の時間」年間指導計画 第2学年

テーマ		“ふるさと新見”を探り活性化につなげよう ～体験活動を通し新見の産業を探る～											
	時数	新見体験 プロジェクト(34)	選択型 プロジェクト(14)	平和追求 プロジェクト(12)	キャリアアップ プロジェクト(10)								
4月	1	①オリエンテーション ②課題設定・チーム編成 ③計画立案											
	2												
	3												
	4												
5月	5		④情報収集	①事前調査 ②課題設定 ③体験学習 (広島平和学習) ④まとめ ⑤振り返り									
	6												
	7												
	8												
	9												
	10												
	11												
	12												
	13												
	14												
	15												
	16												
	17												
6月	18					⑤調査活動 ⑥整理・分析							
	19												
	20												
	21												
	22												
	23												
	24												
	25												
7月	26												
	27												
	28												
	29												
	30												
9月	31								①働く意義とは ②自己の適性 ③地域の職業 ④体験準備 ⑤職業体験 (2日間) ⑥まとめ				
	32												
	33												
	34												
10月	35												
	36												
	37												
	38												
	39												
	40												
	41												
	42												
	43												
	44												
	45												
	46												
	47												
	48												
	49												
	50												
	51												
	52												
	53												
	54												
11月	55						⑦まとめ ⑧表現						
	56												
	57												
	58												
	59												
	60												
	61												
	62												
	63												
	64												
	65												
	66												
	67												
	68												
	69												
	70		⑨成果発表会		①自己を見つめる ②将来を見つめる ③進路情報の収集 ④まとめ								
2月	71												
	72												
	73												
	74												
	75												
	76												
	77												
	78												
	79												
	80												
	81												
	82												
	83												
	84												
	85												
3月	86												
	87												

令和2年度「総合的な学習の時間」年間指導計画 第3学年

テーマ		“ふるさと新見”を探り活性化につなげよう ～地域の課題を探り活性化のための提言をする～			
	時数	新見貢献 プロジェクト(16)	選択型 プロジェクト(18)	異文化体験 プロジェクト(12)	キャリアアップ プロジェクト(18)
4月	1				
	2				
	3				
5月	4				
	5		①オリエンテー ション		
	6		②課題設定・チー ム編成		
	7		③計画立案		
	8				
	9				
	10				
	11		④情報収集		
	12				
	13		⑤調査活動		
	14				
	15		⑥整理・分析		
	16				
	17		⑦まとめ		
6月	18				
	19				
	20				
	21				
	22				
	23		⑨成果発表会		
	24				
	25				
	26				
7月	27				
	28				
	29				
	30				
	31				
8月	32			①事前調査	
9月	33			②課題設定	
	34				
	35				
	36				
10月	37				
	38				
	39				
	40				
	41			③民泊体験学習 (修学旅行)	
	42			④まとめ	
	43			⑤振り返り	
11月	44				
	45				
	46	①社会貢献活動とは			①自己をみつめる
	47	②自分たちにできる こと			②他者をみつめる
	48				
	49	③計画			③将来を見つめる
	50	④準備			
	51	⑤地域貢献活動			
12月	52	⑥まとめ			④キャリアアップ 講座
	53	⑦振り返り			
	54				
	55				
	56				
	57				
1月	58				
	59				
	60				
	61				
	62				
2月	63				
	64				
	65				
	66				
	67				
	68				
	69				
3月	70				

令和2年度 キャリア教育全体計画

新見市立新見第一中学校



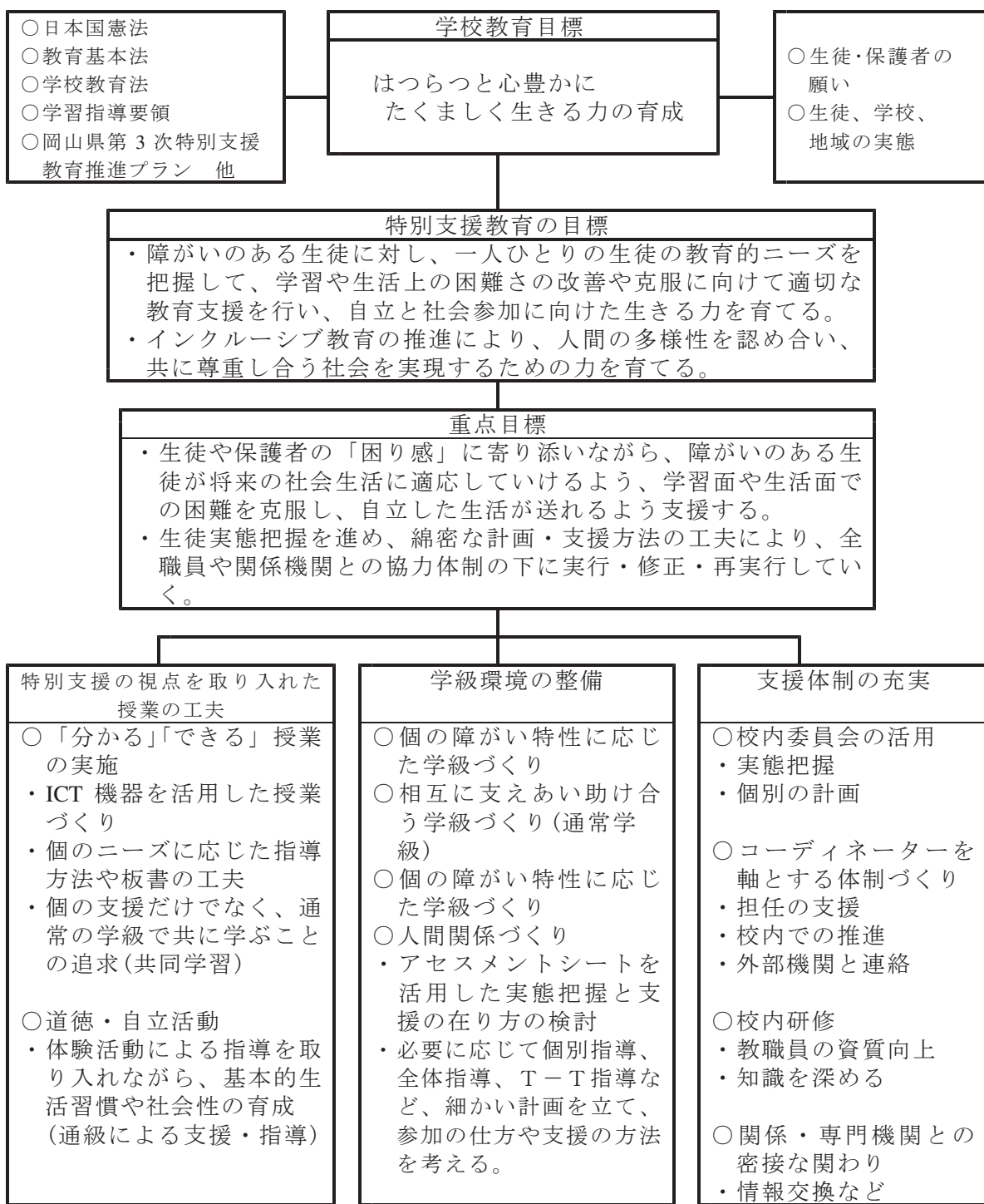
令和 2年度 キャリア教育年間指導計画

学年	月	主 題	内 容	備 考	育成する能力
第 1 学 年	4	進 路 へ の 関 心	中学校の意義について考える。 自分の進路に対する関心を高める。		自己理解能力
		学 習 に つ い て	学ぶ意義や学習方法について考える	家庭学習調査・学習のしおり	キャリアプランニング能力
	5 ～ 11	新 見 発 見 プ ロ ジ ェ ク ト ふ る さ と 職 場 見 学 教育相談	新見の産業について調査活動や調べ学習を行い、自ら課題を探究し、地域への関心を深める。 生活を振り返り、長所や短所を考える。	地域調査 市内フィールドワーク プログラミング学習	人間関係形成・ 社会形成能力 課題対応能力 自己理解能力
	12 ～ 3	キ ャ リ ア ア ッ プ プ ロ ジ ェ ク ト 1 年 間 の 振 り 返 り	職業調べを通して、自己の夢や適性と進路との関係を考える。 ガイダンスを通して、入試制度や高校の大学科を知る。 自己評価、次年度への学習や生活への意欲付け	進路調査 (職業調べ・ 地域の高校調べ) おかやまキャリアパスポート	キャリアプランニング能力 自己管理・ 自己理解能力 自己理解能力
第 2 学 年	4 ～ 5	2 年 生 と し て の 自 覚 平和学習 教育相談	前年度の反省から、2年生の目標を考える。 広島平和学習を通して、戦争の悲惨と命の尊さを学ぶ。 生活を振り返り、自らの特性を理解する	広島平和学習	自己理解能力 課題対応能力 人間関係形成・ 社会形成能力 自己理解能力
	5 ～ 11	新 見 体 験 プ ロ ジ ェ ク ト ふ る さ と 職 場 体 験 学 習 教育相談	職場体験学習を企画・実施・評価し、地域に貢献する態度を養う。 働くことの意義と自己の適性を見つめ、地域で働く人の生き方を考えよう。 生活を振り返り、自らの特性を理解する	プログラミング学習 (技術科との連携) 職業調べ・講師を招いてのマナー講習会 職場体験	人間関係形成・ 社会形成能力 課題対応能力 人間関係形成・ 社会形成能力 キャリアプランニング能力
	12 ～ 3	将 来 に つ い て 考 え る キ ャ リ ア ア ッ プ プ ロ ジ ェ ク ト 教育相談 1 年 間 の 振 り 返 り	将来どんな生き方をしたいか考えよう 上級学校調べを通して、自己の夢や適性と進路との関係を考える。 生活を振り返り、自らの特性を理解する 自己評価、次年度への学習や生活への意欲付け	進路調査 (高校調べ) おかやまキャリアパスポート	キャリアプランニング能力 自己管理・ 自己理解能力 自己理解能力 自己理解能力
第 3 学 年	4 ～ 5	最 上 級 生 と し て の 自 覚 異 文 化 体 験 プ ロ ジ ェ ク ト 教育相談	最上級生として意欲をもち、3年生の目標を考える。卒業後の進路に向けて、決意を新たににする。 民泊体験を通し、異なる地域文化を学び互いのよさを探る。 生活を振り返り、自らの進路を考える。	進路希望調査 沖縄修学旅行	自己理解・ 自己管理能力 人間関係形成・ 社会形成能力 課題対応能力 自己理解能力
	5 ～ 11	オ ー プ ン ス ク ー ル 新 見 貢 献 プ ロ ジ ェ ク ト キ ャ リ ア ア ッ プ プ ロ ジ ェ ク ト	進路先の情報を自ら進んで収集し、進路のために良い準備をする。 地域に貢献できることを企画・実施し、社会参画に向けた実践力を養う。 自己との対話や他者理解を通して進路との関係を具体化し、将来の自分を創造する。	高校訪問 地域のボランティア活動 面接 三者懇談	課題対応能力 人間関係形成・ 社会形成能力 課題対応能力 自己理解能力 キャリアプランニング能力
	12 ～ 3	受 験 手 続 き 将 来 の 自 分 の 創 造 卒 業 に 向 け て 1 年 間 の 振 り 返 り	願書の作成・面接や小論文等の練習 自己を見つめ卒業後の進路に向けて、豊かな自己表現をする。 仲間との進路の相互理解をする。 自己評価、次年度への学習や生活への意欲付け	受験 卒業文集 おかやまキャリアパスポート	課題対応能力 自己理解・ 自己管理能力 人間関係形成・ 社会形成能力 自己理解能力

新見市立新見第一中学校					
令和2年度 第 1 学年 キャリア教育 教科との関連表					
月	学 校 行 事 (校外行事)	教 科	道 徳 主題・題材(視点)	特 別 活 動 生徒会・学級活動	総合的な学習の時間
4	入学式 参観授業 PTA総会	【国語】 【第1学年】 ①「話すこと・聞くこと」全体と部分、事象と意見との関係に注意して話を構成し、相手の反応を踏まえながら話 す。 ②「話すこと・聞くこと」質問しながら聞きとり、自分の考えとの共通点や相違点を整理する。 ③「書くこと」考えや気持ちを、根拠を明確にして書く。 ④「読むこと」本文や文章などから必要な情報を集めるための方法を身に付け、目的に応じて必要な情報を 読み取る。 【第2学年】 ①「話すこと・聞くこと」異なる立場や考えを想定して自分の考えをまとめ、話の中心的部分と付加的な部分 などに注意し、論理的な構成や展開を考えて話す。 ②「読むこと」文章中に表れているものの見方や考え方について、知識や体験と関連付けて自分の考えをも つ。 ③「書くこと」説明や具体例を加えたり、描写を工夫したりして書く。 ④「読むこと」多様な方法で選んだ本文や文章などから、適切な情報を得て、自分の考えをまとめる。 【第3学年】 ①「話すこと・聞くこと」場の状況や相手の様子に応じて話すとともに、敬語を適切に使う。 ②「読むこと」文章を読んで人間、社会、自然などについて考え、自分の意見をもつ。 ③「話すこと・聞くこと」資料などを活用して説得力のある話をする。 ④「書くこと」社会生活の中から課題を決め、取材を繰り返しながら自分の考えを深めるとともに、文章の形態 を選択して適切な構成を工夫する。	学級目標作り① 学期の目標づくり② 部活動紹介① SST「あいさつのスキル」②③ 生徒総会 専門委員会 (毎月)③	○新見ふるさとキャリア学習 【新見発見プロジェクト】 新見の産業について調査活動 や調べ学習を行い、地域への関 心を深める。 ※学級単位で関連施設への訪 問学習を実施する。(例：石灰、 特産品、市役所等)	
5	校外学習 新見発見プロジェクト				
6	期末テスト				
7・8	懇談 終業式				
9	始業式 運動会 文化祭	【社会】 ①・課題探究の中で、様々な意見を取り入れて考えを深める。 ・地域の一員として地域の課題に取り組み、自分なりの解釈を加えての論述や意見交換をする。 ・ポスターセッションなどで互いの意見を交換する。 ・郷土の施設の利用や地域の人々とのふれあいをもち、 ・現代社会と自分の生活とのつながりについて考える。 ②・日本と世界の諸地域、都市部と農村部など地理的特色をとらえる上で、様々な視点があることに気付く。 ・身近な地域の歴史など様々な視点から歴史をとらえる。 ・歴史的事象や歴史上の人物のつながりをとらえる。 ③・様々な統計資料や地図を比較・関連させることにより、資料の読解力や読図力、作図力を身に付ける。 ・調査や観察の結果を主題図やグラフなどによって、資料の読解力や読図力、作図力を身に付ける。 ・年表を使って時代の流れをまとめる。 ・歴史的事象の背景などを解釈する。 ・歴史的事象の原因や結果などを自分の言葉でまとめる。 ・コミュニケーションやロールプレイなどを通して、様々な社会事象の仕組みを理解し、より良い在り方について 考える。 ④・様々な産業の種類や内容、課題などについて理解し、そこでの生活の様子に目を向ける。 ・日本や地域の発展や将来像について考える。 ・日本の伝統や文化への関心を高める。 ・人々の日々の暮らしに目を向ける。 ・歴史上の人物の生き方について自分と比較して考える。 ・社会生活の様々な仕組みや現代社会の課題について理解し、身近な生活や自分の将来と結び付けて考 える。	1学期の振り返り② 2学期の目標作り② 運動会① 文化祭①	【選択型プロジェクト】 新見発見プロジェクトと関連づ け、課題解決に向けて自らでき ることを主体的に行う。	
10	中間テスト 選択型プロジェクト プログラミングプロジェクト			SST「自己紹介のスキル」②③	【プログラミングプロジェクト】 選択型プロジェクトと関連づけた プログラミングの基礎を学ぶ。
11					
12	期末テスト 懇談 終業式				
1	始業式				
2	キャリアアッププロジェクト	【数学】 ①「説明し伝え合う活動」で、他者に説明し伝え合いながら学習を進めることで、コミュニケーション能力を育成 する。 ②粘り強く考え抜き、問題を解決していくことで、「やればできる」と考えて行動できる力を身につける。 ③様々な事象の本質的な関係をより簡潔かつ明確にとらえる学習を通して、従来の考え方や方法にとらわれ ずに物事を前に進めて いくために必要な力をほぐす。 ④段階的にかつ目的を明確にして学習を進めることで、将来、社会における様々な課題に取り組み、自ら 段階的に目標を定め、進んでいくようにする態度を養う。	33 小惑星探査機「はやぶ さ」の挑戦 (失敗から学んだ希望) 希望と勇気を持ち続け、困 難や失敗があっても決して 諦めないで、その原因を振 り返り、より高い目標の実現 に向かってやり抜く強い態 度を養う。	【キャリアアッププロジェクト】 様々な職業を探ることを通して、 自己の夢や適性と進路との関係 を考える。	
3	学年末テスト 卒業式 修了式			SST「話すスキル」②③ 職業調べ④ 学年の振り返り② 3年生を送る会①	

令和2年度 特別支援教育全体計画

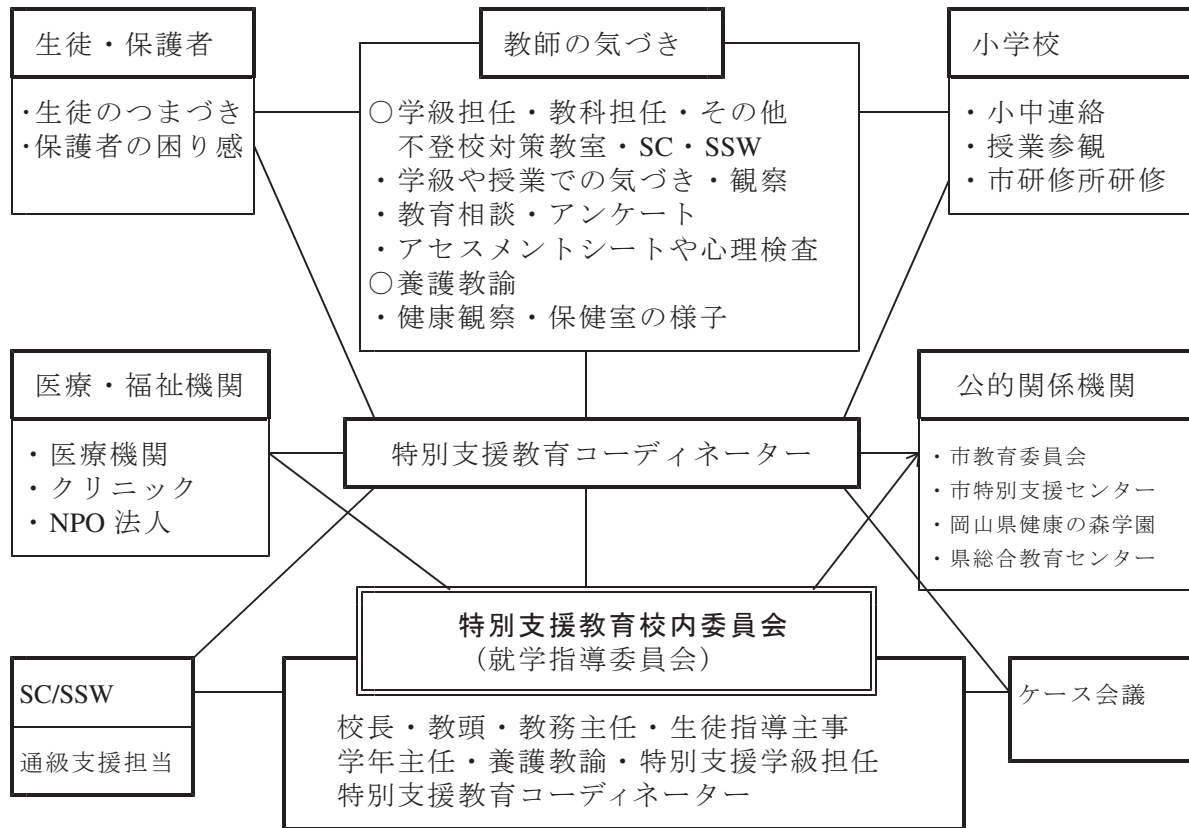
新見市立新見第一中学校



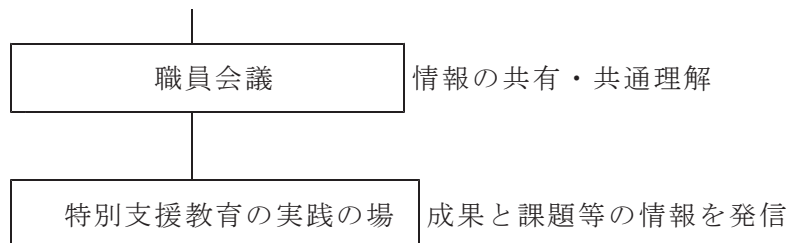
〔校内委員会・校内研修〕

月	活動内容	月	活動内容
4月	情報交換、支援の方針についての共通理解	10月	就学指導委員会に向けて情報交換
5月	情報交換、障がいや特性についての研修	11月	情報交換、ケース会議
7月	支援・指導計画の検討・修正	1月	情報交換
8月	障がいに関する理解と演習	2月	支援活動の成果と課題のまとめ
9月	情報交換、その後の様子	3月	個別の支援計画の確認

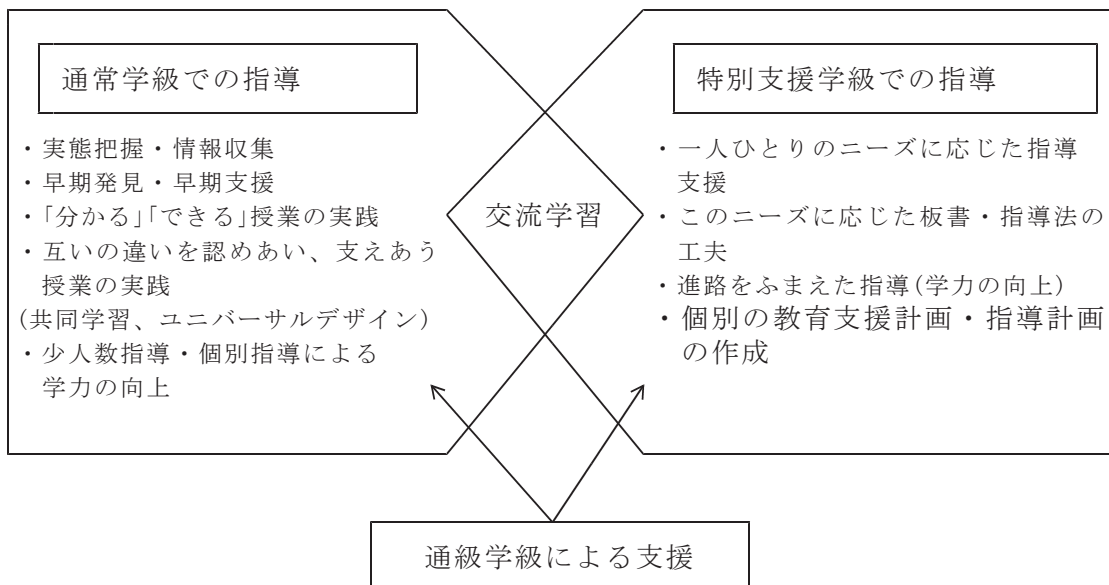
特別支援教育体制



特別な支援が必要な生徒の把握、必要とする支援の検討



教育実践の場



令和2年度 特別支援教育の進め方

1 ねらい

- ・全職員が支援の必要な生徒について理解し、共通の理解のもとに、学校全体で支援体制をとれるようにする。
- ・支援の必要な生徒について、校内委員会を中心に個別の支援計画・指導計画（支援方法や支援体制の計画）を立て、支援していく。

2 方法

(1) 校内研修

- ・生徒理解会議（4月、5月、9月、1月）
- ・生徒の実態把握と支援の手立てについての検討

(2) 特別支援校内委員会(就学指導委員会)

- ・委員：校長、教頭、教務、生徒指導主事、養護教諭、特別支援担当、特別支援コーディネーター、各学年主任（必要に応じて該当生徒の学級担任）
- ・個別の教育支援計画、指導計画の作成→実施→修正→評価
- ・将来を見通した早めの進路指導

(3) ケース会議（場合により専門機関・保護者を含めて）

- ・10年先を見通して、早めの進路指導
- ・保護者の気持ちを受け止め、共に支援方法を考え、保護者への支援体制をつくる。

(4) 関係機関との連絡・調整

- ・特別支援コーディネーターを中心に連携をとる。
- ・自立支援については、新見市特別教育支援センターと連携を図り、通級指導を進めていく。

(5) 特別支援コーディネーターの役割

- ① 校内委員会の推進
- ② 保護者に対する相談窓口
- ③ 学級担任への支援
- ④ 関係教員(養護教諭・生徒指導主事・スクールカウンセラー・スクール・ソーシャル・ワーカー)との連携
- ⑤ 外部関係機関や医療・福祉機関との連携
(岡山県健康の森学園、新見市特別支援教育支援センター 新見市教育委員会
各小学校 各高等学校 医療機関 NPO 法人 保健師 他)

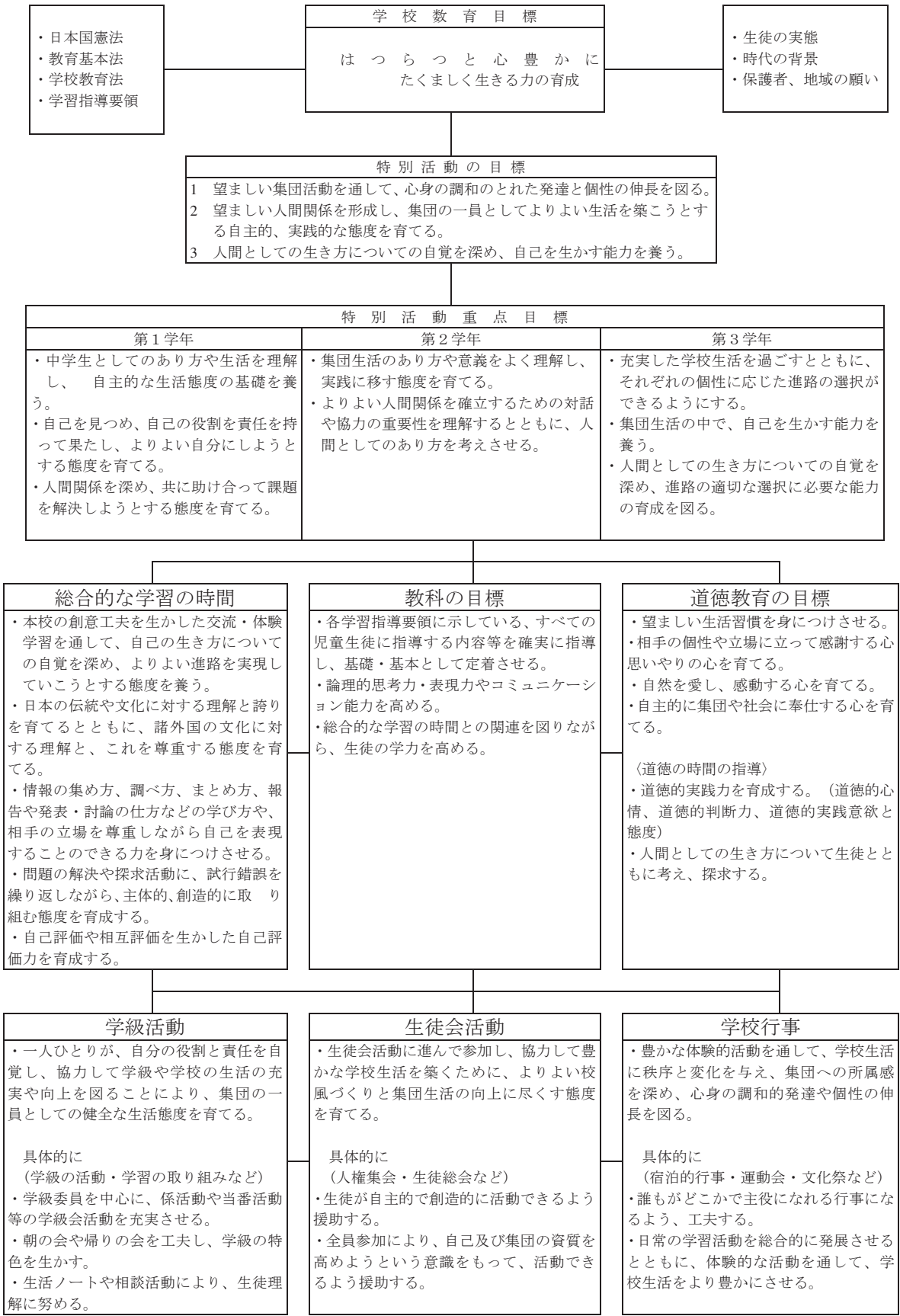
3 その他

- ・障がいという言葉にとらわれず、生徒の「困り感」にたったの支援をする。
- ・どの生徒も安心して過ごせる学級づくりをしていく。(環境づくり)
- ・誰にでもわかる授業づくりを工夫する。(授業のユニバーサルデザイン化)
- ・校内研修や情報交換などを通して理解を深め、全員で支援できる体制づくりを進める。

新見市立新見第一中学校														
令和2年度 特別活動実施計画書														
校長 小藤 一成 (公印省略)														
指導の重点	○専門委員会の取組を全体場で共有し、プレゼンテーションをする機会を増やす。 ○生徒集会を、生徒主体の企画と運営で定例化する。 ○1分間スピーチを、学年ごとにレベルを設定し習慣化する。 ○学級での協働的なグループ活動を意図的に設定する。													
生徒会活動	生徒評議会代表委員会		生徒集会				各種委員会							
	年間予定時数		参加学年		年間予定時数		参加学年		名称			年間予定時数		
	4 時		全学年		6 時		全学年		・保健委員会 ・整美委員会 ・交安委員会 ・図書委員会 ・文化委員会 ・体育委員会 ・給食委員会 ・生活委員会 ・報道委員会 ・学校週番委員会 ・選挙管理委員会 ・ボランティア友の会			10 時		
学校行事	学区		1		2		3		備考					
	儀式的行事		6		7		6		実施予定時数を記入のこと。					
	文化的行事		4		4		4							
	健康安全・体育的行事		10		10		5							
	遠足・集団宿泊的行事		5		6		8 (9)							
	勤労生産・奉仕的行事		5		8 (8)		2 (4)							
	計		30		35 (8)		25 (13)							
学級活動	内	(1) 学級や学校における生活づくりへの参画			(2) 日常生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全					(3) 一人一人のキャリア形成と自己実現			計	
		ア	イ	ウ	ア	イ	ウ	エ	オ	ア	イ	ウ		
	学年	学校や学級における生活上の諸問題の解決	学級内の組織づくりや役割の自覚	学校における多様な集団の生活の向上	自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成	男女相互の理解と協力	思春期の不安や悩み、性的な発達への対応	心身ともに健康で安全な生活態度や習慣の形成	食育の観点から踏まえた学校給食と望ましい食習慣の形成	社会生活、職業生活との接続を踏まえた主体的な学習態度の形成と学校図書館等の利用	社会参画意識の醸成や勤労観・職業観の形成	主体的な進路の選択と将来設計		
		1	5	5	5	4	4	4	4	4	5	5	5	50
		2	5	5	5	4	4	4	4	4	5	5	5	50
		3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	5	6	38
	備考	1単位時間、1/2単位時間扱い等の合計時数を記入すること。												

令和2年度 特別活動全体計画

新見市立新見第一中学校



令和2年度 第1学年 学級活動 年間指導計画

学期	月	題 材	ね ら い	内 容	区分
1学 期	4	中学校生活の 出発	中学校生活の特色を知らせ、希望 と抱負を持たせて、中学生としての 自覚を育てる。	学級開き、自己紹介、担 任の抱負、中学校生活の 概要	(2)
		学級組織を 作ろう	学級の係を分担させることによっ て、所属感を持たせ、協力してい く態度を育てる。	学級の係、班づくり、班 活動の目標と分担、掲示 物の作成	(1)
		学級目標を 作ろう	学級の目標を立せさせ、進んで目 標に向かって努力しようとする意 欲を育てる。	どんな学級にしたいか、 学級目標を実現するため に	(1)
		宿泊研修に 向けて	宿泊研修に向けての心構えや分担 を決める	目標、注意事項決定、合 唱大会に向けて	(2)
5期	5	安全な通学	安全に通学させるために自転車の 乗り方の確認や交通ルールについ て考えさせる。	望ましい交通ルール、交 通教室	(2)
		学習の計画	中学校での学習の計画を立てさせ、 それを実行しようとする意欲 を高めさせる。	中学校での学習 学習計画の留意点 学習計画と実行	(2)
6	6	私の将来	自分の将来について、夢や希望を 持たせ、今どうしなければなら ないかを認識させる。	将来の希望 希望の実現にむかって 希望が実現したら	(3)
		進路の学習	進路学習の必要性や内容を理解させ、 今後の進路の学習への関心を もたせる。	進路学習の必要性 進路学習の内容	(2)
		歯の健康	歯の健康は、食生活の要であり、 心身ともに、健康で充実した毎日	歯磨きチェック 心身の健康	(2)

2学 期	7	生命の誕生	性を送るために、歯のことを、いま 一度考えさせる。		
			性に関する課題と直面する生徒に 正しい知識や行動選択を身につけ させる。	第2次性徴 異性とのつきあい方 生命尊重	(3)
				夏休みの目標 夏休みの生活設計 学習計画	(2)
		生活のリズムを 取り戻そう。	夏休みの生活を反省し、これから の生活目標・学習目標を考えさせ る。	夏休みの反省 目標の設定	(2)
		運動会を盛り上 げよう	運動会を素晴らしいものにするた めに、各自が自分の責任を果たし 協力する態度を育てる。	運動会の意義と心構え 参加の計画 練習計画	(1)
2学 期	9	文化祭を盛り上 げよう	文化祭を素晴らしいものにするた めに、各自が自分の責任を果たし 協力する態度を育てる。	文化祭の意義と心構え 参加の計画 練習計画	(1)

学期	月	題 材	ね ら い	内 容	区分
2	10	授業態度につい て考えよう	授業態度を反省させ、より意欲的、 積極的に授業に参加しようとする 態度を育てる。	授業態度の反省 授業にむかう心構え	(2)
		家庭学習の工夫	家庭学習を工夫させ、より充実し た家庭学習に進んで取り組もうと する態度を養う。	家庭学習の問題点 家庭学習の改善 家庭学習への取り組み	(2)
		読書生活につい	読書で学ぶ「生きる力」の大切さ	心に残っている本	(2)

2				
	わたしの 進路計画	進路への関心を高めさせるとともに、現在の生活の大切さを認識させる	進路計画の作成 現在の生活の大切さ	(3)
	1年間の思う出 をつづろう	自分の1年間の思い出を各月毎に まとめさせ、成長を確かめさせる。	1年間の思い出	(2)
3		1年間の反省を しよう	1年間の自分や学級生活を振り返 らせ、2年生になる心構えを養う。	自分の反省 学級生活の反省 2年生になる心構え

学 期	11	で考えよう	読書の意義 読書と人生	
		校内生活の安全	事故の原因 事故の防止	(2)
		わたしの悩み	悩みや不安の解決 教育相談	(2)
		身近な職業	職業につく意味 身近な人の職業 興味を持った職業	(3)
3 学 期	12	人権について考 えよう	基本的人権とは お互いの人権を尊重する ために	(2)
		冬休みの計画	今まで学習・生活の反省 冬休みの過ごし方	(2)
		新しい年を迎え て	後期のまとめ 今後の目標 今年の決意	(2)
		私の特徴	現在の自分 自分の特徴 自分を伸ばすには	(2)
	1	高等学校につい て知ろう	高等学校進学の目的 高等学校や学科の種類 進路の決定に当たって	(3)
		健全な異性観と 行動	正しい異性観 異性への正しい行動の仕 方	(2)

学期	月	題 材	ね ら い	内 容			
1 学 期	4	2 年生としての自覚	中堅学年としての自覚を持たせ、学校生活の場で自主的に行動する意欲を持たせる。	2 年生の立場や役割生活上の心構え自分の目標の設定	(2)		
		学級組織を作ろう	学級の係を分担させることにより、所属感を持たせ、協力していく態度を育てる。	学級委員の選出生活班及び係の構成仕事内容の確認	(1)		
		学級目標を作ろう	学級の目標を立てさせ、進んで目標に向かって努力しようとする意欲を育てる。	学級目標の意義具体的な小目標の決定自分の決意	(1)		
2 学 期	9	校外活動を有意義なものにしよう	校外活動の意義を理解するとともに生徒の主体的な態度を育む。	校外学習の意義・目的全体計画の確認	(2)		
		計画的な学習	学習態度の向上をめざし、日課表の作成を中心に学習計画を立てさせる。	今までの学習計画の反省日課表の作成学習ポイントの考案	(2)		
		様々な先輩たちの進路	先輩の進路を具体的に調べ、上級学校の種別、課程、制度について学ばせる。	先輩の進路調べ上級学校の種別等の違い自分の将来の生き方	(3)		
2 学 期	10	自分をみつめて	自己の特性を把握し、能力や個性の伸長を図ろうとする態度を育てる。	自己の特性の特徴能力・個性伸長の方法学ぶことの意義	(2)		
		学ぶ目的	おとなの「学ぶ」態度を参考にし、学ぶ目的を考えさせ、意欲的な生活態度を育てる。	「学ぶ」ことについての学びおとなからのアンケート学ぶ目的	(2)		
		たばこの害について	成長期の中学生のたばこの害や副流煙について学び、正しい認識や考え方を育てる。	たばこの害副流煙について	(2)		

学期	月	題 材	ね ら い	内 容	区分
7		性情報について	性の情報源には様々なものがあり、正しい性情報を選択する大切さを身につけさせる。	性の商品化、正しい性情報を選択する能力、自己の性意識の確認	(2)
		夏休みの生活設計	一人一人が自主的・自立的な生活を送るため、計画を意欲的に実践する態度を養う。	夏休みの学習計画夏休みのしおり夏休みの目標の設定	(2)
		生活のリズムを取り戻そう。	夏休みの生活を反省し、これから生活目標・学習目標を考えさせる。	夏休みの反省目標の設定	(2)
9 学 期		運動会を盛り上げよう	運動会を素晴らしいものにするため、主体的態度や成員相互の連帯意識を高める。	学級の団結の意義係分担と計画選手の選出	(1)
		文化祭を盛り上げよう	文化祭の意義を理解し、生徒の創意工夫を生かした自発的な活動意欲を高める。	文化祭の意義参加方法の検討役割分担	(1)

学期	月	題 材	ね ら い	内 容	区分
10		職場体験を有意義なものにしよう 1	ふるさと職場体験の意義を理解し、「働くこと」を実際に体験し、その苦労や喜び、社会人としてのマナーを身につけさせる。	職場体験の目的体験する職場の決定注意すること	(3)
		職場体験を有意義なものにしよう 2		職場体験のまとめ学習を終えてお礼の手紙	(3)
		学習の充実	自分や学級全体の授業態度を反省し、学級としての改善点や対策を考えさせる。	学習の問題点問題点の原因と理由改善点と対策	(2)

	振り返って	現のための進路計画・学習方法のあり方を考えさせる。	進路計画・学習方法の改善，将来の予想図	
	修学旅行の準備をしよう	修学旅行を楽しく，自主的なものにするために，事前研究を行う。	意識調査 事前研究	(3)
	私の通知票	1年間を反省し，3年生を迎えるに当たっての心構えをもたせる。	生活・学習の評価 3年生への心構え	(2)
	3			

期					
	健康で安全な生活	日常生活のあり方を反省し，健康で安全な生活の維持・増進に努めようとする態度を養う。	急速な成長 生活のリズムと健康	(2)	
11	目の健康に気を付けよう	視力の低下の要因と弊害を理解させるとともに，目の病気についても知らせる。	屈折異常の種類 病気と予防	(2)	
	生徒会を盛り上げよう	生徒会について調べ，活発にする方法を考えさせたり，学級からの候補者を決めさせる。	生徒会調べ 生徒会を活発にする方法 学級からの候補者の決定	(1)	
12	エイズ教育	免疫機能の仕組みについて理解する。	病気の免疫とエイズ	(2)	
	冬休みの生活設計	今までの学習の取り組みや生活を反省し，冬休みの生活設計を立てさせる。	今後の対策 冬休みの課題と目標 冬休みのしおり	(2)	
	新年の抱負	新年の希望や抱負を考え，この1年間の目標を持たせる。	抱負の発表 個人目標の決定	(2)	
1	就きたい職業 適した職業	将来つきたい職業が，自分に適しているか吟味させ，職業適性について考えさせる。	職業適性の意義 自分の就きたい職業	(3)	
	自分を見つけて	自分の長所・短所を正しく理解し，自分の能力や個性の向上を図ろうとする態度を養う。	自分の長所・短所 友人から見えた自分 今後の努力点	(2)	
2	男女交際	異性に関心をもつ時期に，友情と恋愛の相違や正しい男女の交際の意義を考えさせる。	友情と恋愛の相違点 男女交際の意義とルール やエチケット	(1)	
	進路計画を	将来の自分の姿を想像し，希望実	将来の職業・理想の家庭	(3)	
3	学	期			

学期	月	題 材	ね ら い	内 容	区分
7		男女の交際	異性との交際での悩みや男女の正しいエチケットについて話し合い、考えさせる。	異性との交際上の悩み 仮の相談 男女交際のエチケット	(3)
		夏休みの生活設計	中学校3年生として将来につながる充実した夏休みを過ごすために、目標を持たせる。	3年生の夏休みにしておくべきことの確認、目標づくり	(2)
		生活のリズムを取り戻そう。	夏休みの生活を反省し、これからの生活目標・学習目標を考えさせる。	夏休みの反省 目標の設定	(2)
		運動会を盛り上げよう	運動会をすばらしいものにするための心構えや参加の仕方について認識させる。	中学校生活最後の運動会の意義、参加の仕方、計画実施に向けての意欲	(1)
9		文化祭を盛り上げよう	生徒の創意工夫を生かした自発的な活動意欲を高め、学級の参加方法や計画を考える。	文化祭の意義 参加方法の検討 役割分担と準備計画	(1)

学期	月	題 材	ね ら い	内 容	区分
2	10	学習生活の定着	学習の仕方や学習内容を確認し、一層自発的な学習をしていこうとする態度を養う。	学習についてのアンケート 学習の仕方の工夫・改善	(2)
		進路選択とその悩み	進路選択のときに生じる悩みや不安の解消の手立てを身につけさせる。	悩みのアンケート 不安や悩みの解決の仕方 自己分析	(3)

令和2年度 第3学年 学級活動 年間指導計画						
学期	月	題 材	ね ら い	内 容	区分	
1 学 期	4	最 上 級 生 と としての自覚	3 年生としての役割や心構えを話し合い、自らの決意を固めさせる。	最上級生としての自覚 役割や係としての反省 個人の決意	(2)	
		学級組織を作ろう	学級の係を分担させることにより、所属感を持たせ、協力していく態度を育てる。	係活動アンケート 係とメンバーの決定 班編制と班活動の意義	(1)	
		学級目標を作ろう	学級の目標を立てさせ、進んで目標に向かって努力しようとする意欲を育てる。	一人一人の考えた目標 それらを集約した目標 目標達成の決意	(1)	
		楽しい修学旅行にしよう	修学旅行を楽しむ充実したものにすため、目的や参加の仕方を考える。	修学旅行の目的、個人の準備、日程、心得、旅行のための役割分担	(1)	
5		私の個性	進路選択のために、自分の個性、能力、適正などを総合的に見直しさせる。	自己理解の大切さ 自己理解の仕方	(2)	
		学習生活の見直し	3 年生としての学習のあり方を考えさせ、自分に合った学習方法を考えさせる。	学習の反省、効果的な学習方法、家庭での学習生活計画表の作成	(2)	
6		生徒会活動を盛り上げよう	生徒会について考え、問題点や活性化の方法を探ることや、自治意識の高揚をはかる。	現在の生徒会の分析 生徒会活動の意義 クラスからの意見・要望	(1)	
		わたしたちの将来	自分らしい生き方、生きがいを考えながら自分の一生の進路について考えさせる。	生きがいについて 個性を生かす進路 10年間の生活・夢	(2)	
		薬物について	薬物による各種の害を理解させることによって、薬物を使用しない態度を育てる。	薬物の種類 薬物による各種の害 身体への影響	(2)	

2	性に関する望ましい態度	性のもつ意義や男女相互の敬愛、幸福な生き方などについて考える。	自分の結婚のイメージ 性心理の男女差 性の意義、幸福な人生	(2)
	卒業文集を作ろう	中学校生活の思い出を文集に残そうとする態度を育て、具体的な計画を立てさせる。	文集作成の意義 仕事の分担 編集日程	(1)
3	将来の生活への心構え	卒業後の生活に予想される様々な問題に対する心構えや解決の方法を考えさせる。	高校生活への適応 職場生活への適応	(2)
	卒業とわたしたちの決意	新しい生活への決意と、後輩に残す言葉などを考え、中学校生活のまとめをする。	中学校生活を振り返って 現在の心境、在校生へ残す言葉、わたしの決意	(3)

学 期				
	進路の決定に向けて2	これまでの進路の学習をもとに、自信を持って進路の選択ができるようにさせる。	進路選択のための確認表の作成、進路先の判定	(3)
	進路情報の活用	高校生活や職場の情報を知りそれを参考に、自分の卒業後の進路について考えさせる。	卒業生や体験入学から得た進路先の情報の理解・決定に向けての活用	(3)
11	進路と適応	自分で進んで行うことの大切さを知らせる。受験前の心構えについて考える。	応募の手続き、日程 これからの生活	(3)
	交通安全と防災	交通事故、他の事故や災害について関心をもち、事故に対する判断力・行動力を養う。	交通事故・災害の状況 交通事故・災害の原因 交通事故・災害の予防	(1)
	学級の諸問題を解決しよう	助け合い協力するために、学級生活の問題を協力して解決させる。	学級の現状分析 学級生活の問題点 対策の検討	(2)
12	冬休みの生活設計	今までの学習・生活を反省し、冬休みの課題を見つけ、計画を立てさせる。	学習・生活の反省 冬休みの生活	(2)
	新年の抱負	新年の抱負を考え、進路決定に意欲的に取り組む態度を育てる。	学年当初の目標の見直し 個人目標の設定	(3)
	受験期を迎えて	不安な悩みを互いに話し合い心に落ち着きと余裕をもって受験前を過ごす態度を養う。	受験生の悩み 入試直前の心構え 進路スケジュール	(2)
3 学 期	わたしの受験プラン	それぞれが選んだ進路先の受験日程を確かめ悔いの残らない進路決定をさせる。	進学、就職の受験日程表 ・自分の受験プランの作成、面接試験の心構え	(3)

令和2年度 学級活動の進め方

1 内容

学級活動においては、学級を単位として学級や学校へ適応を図るとともにその充実と向上、生徒が当面する諸課題への対応及び健全な生活態度の育成に資する活動を行うこと。

- (1) 学級や学校の生活の充実と向上に関すること。
- (2) 個人及び社会の一員としてのあり方、健康や安全に関すること。

2 目標

集団生活を通して、生徒の自主性及び自己を生かす能力を養うとともに、円滑な社会生活を営む生徒の育成。

3 学年別重点目標

- 1年生
 - ・基本的生活習慣の定着を図る。
 - ・自分の役割を責任を持って果たし、協力し合える学級を作る。
 - ・より良い人間関係を築くことができる社会的スキルを身につけさせる。
- 2年生
 - ・友達の良さを認め、協力し合う、まとまりのある学級を作る。
 - ・自己の個性や能力について理解を深めさせ、将来に展望を持たせる。
 - ・より良い人間関係を築くことができる社会的スキルを身につけさせる。
- 3年生
 - ・最上級生としての自覚を持たせ、積極的に活動させる。
 - ・進んで自己の責任を果たし、集団の向上に寄与させる。
 - ・自己を再認識させ、適切な進路選択をさせる。
 - ・より良い人間関係を築くことができる社会的スキルを身につけさせる。

4 学年別年間指導計画の作成について

- ・性教育、薬害に関する指導の位置づけを明確にしておく。
- ・総合的な学習の時間との関連を考慮する。
- ・内容区分の比率については、学年の目標と実態に応じて考える。
- ・入学や進級に当たっての好ましい人間関係の形成という課題に対し、生徒がよりよく考え、行動できるよう適切な情報提供を行う。→ガイダンス機能の充実
- ・家庭や地域の人々との連携、外部講師の積極的な活用を工夫する。

5 学級目標について

(1) 学級目標とは

学級に対する「生徒一人ひとりの願い」と「教師の願い」のよりどころとなるもの。折に触れ、この目標を見上げ、自分たちの言動について振り返るもの。

(2) 作成にあたって

- ・「こんなクラスを作りたい」というみんなの願いを込める。(模造紙1枚程度)
- ・1年間をかけて到達をめざす目標とする。
- ・表現を統一しない。副題を付けても良い。

(例) 友愛～33人の団結力で、学年1の笑顔を目指そう～ 日進月歩
Open! 4次元ポケット～一人ひとりの個性を取り出そう～ パズル

(3) 学級目標達成のために

- ・日常の生徒観察
- ・定期的な生徒との評価(クラスがどのような状態であることが達成なのか、できれば○か×か、はっきり分かるような達成の姿も話し合わせる。)

(4) 学級目標の決め方

学年団で学年目標を共通理解した上で、学級経営目標とともに学級目標を決定する。なお、4月下旬には決定し教室背面に掲示する。

6 学級掲示について

(1) 掲示内容と場所について

教室前面・・・他は避難経路図、連絡掲示、授業の心構えなど必要最低限にとどめ、生徒が授業に集中できるようにする。

教室背面・・・学級目標と人権目標を掲示し、常に目にすることで目標の実現に向けて意欲が高められるようにする。

班活動や当番ローテーション、生徒作品、個人目標などを掲示し、生徒の共通理解や学級や個人の成長を振り返りができるように工夫する。

(2) 諸注意

教室前面・・・黒板の左側（コルクボード）

黒板の上（画びょう使用不可の教室もある）

教室背面・・・ロッカーの上半分（コルクボード）は掲示可

○教室左右側面は、木材なので、できるだけ掲示はさける。

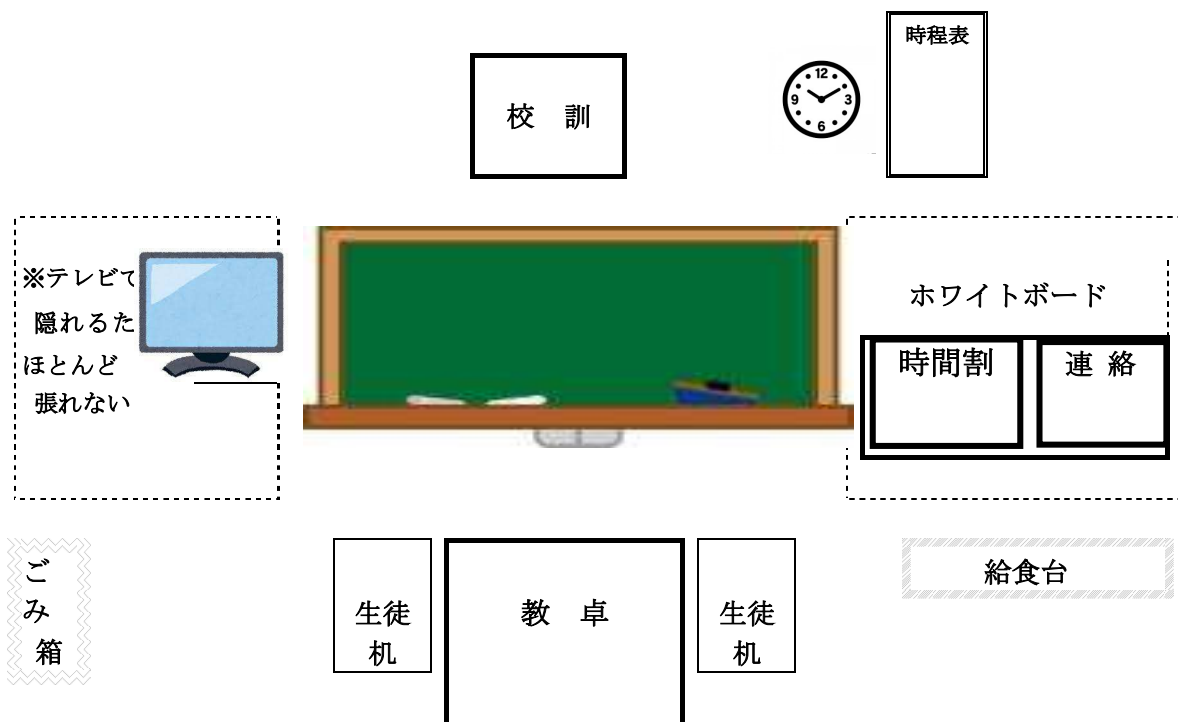
○ガムテープ・クギ等の使用はさける。

(3) 教室掲示例

〈教室前側〉

※必要最低限のものだけにする。掲示物を精選する。

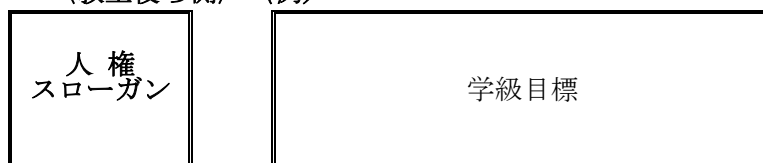
※生徒の集中力を高めるために、
クラスごとの個性を発揮するような掲示物は、前には貼らない。



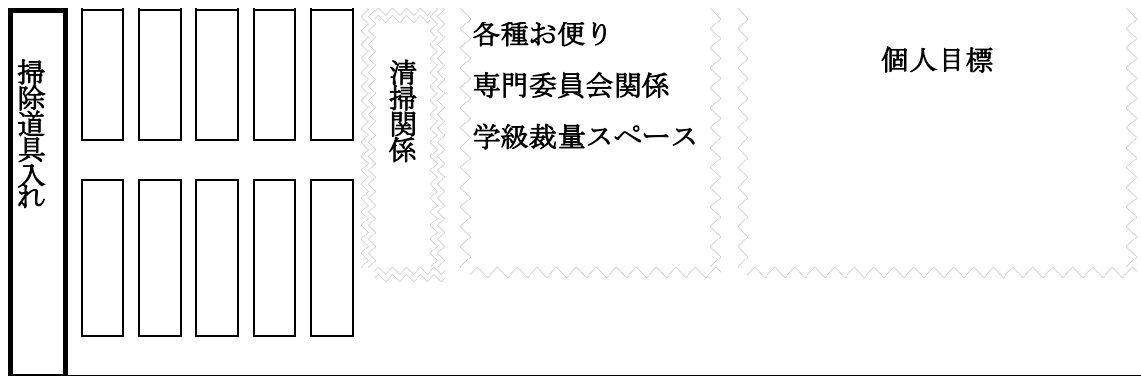
※給食献立や給食分担表を掲示する。

※確認事項や話し合い活動のマニュアル等を掲示してもよい。

〈教室後ろ側〉 (例)



班ポスター・各種分担



※避難経路を掲示する。

※前・後ろ側どちらもすっきりとした印象になるように工夫する。

学級の組織づくりについて

1. 学級の週番の仕事について

1 週間交代で、男女それぞれ出席番号順にペアを組んで活動する。

・仕事内容

- 朝、教室のホワイトボードに日付を記入
- 学級日誌の記入
- 移動教室の時の消灯・冷暖房のスイッチを切る
- 帰りの会の後、カーテンを束ねる。戸締まり、机の整頓、学級日誌の提出

2. 生活班について

・各クラス5つの班に分ける。（班員が6～8）

・係について

- 生活係・・・①毎朝提出される生活ノートを集めて、提出状況を確認後、職員室の担任の机まで提出する。
- ②教室の掲示物の管理をする。

※学年 NO.1 宣言（学級生活月目標）の決定・CHECK 等

- 企画係・・・①朝の会、帰りの会の司会をする。

※1 分間スピーチの題決定

- 集配係・・・①登校後すぐに集配ボックス（職員室前）にある集配物を確認し教室に持って上がり、配布する。
- ②昼休み時間や掃除の後にも配布物がないか、確認する

- 美化係・・・①授業のあと黒板を消して、きれいにしておく。
- ②チョークの補充
- ③花の水かえなど、教室の美化活動を行う。

- 学習係・・・①3 時間めの休憩時間までに職員室前の時間割黒板（ホワイトボード）・iPad を確認し、時間割を教室のホワイトボードに書き込む。

②まなびノートを集めて、進行状況を掲示する。

3. 委員会活動と教科係の仕事

○学級委員（学級の係）・・・各クラス男女1名ずつ学期毎に選出する。留任してもよい。

仕事 ①学年集会、終礼などでの整列、誘導の号令をかける。

②授業の始まり、終わりの号令をかける。

「起立」「服装を整えましょう」「気をつけ」「礼」（「お願いします。」とあわせて言った後礼をする。）「着席」

③学級討議、班長会などの司会をする。

④各クラスの学級委員で学年委員会を組織し学年行事の企画・運営を行う。

○生徒会委員会・・・保健委員	男女1名ずつ	※選挙管理委員
交安委員	男女1名ずつ	はクラス1名選出
図書委員	男女1名ずつ	
体育委員	男女1名ずつ	
生活委員	男女1名ずつ	
整美委員	男女1名ずつ	
報道委員	男女1名ずつ	
文化委員	男女1名ずつ	
給食委員	男女1名ずつ	
	学 校 週 番	男 女 1 名 ず つ

○委員会に所属しない生徒は教科係として活動を行う。

・教科係は昼休みを使って教科連絡を聞きに行く。

教科係（国語 社会 数学 理科 英語 音楽 美術 技術 家庭）

・総合・道徳・学活は学級委員が、保健体育は体育委員が連絡を聞きに行く。

4. 班活動ポスターについて

・誰が見ても、メンバーと係分担がはっきりわかるように、掲示物を作成する。

5. 給食当番について

・給食当番と配膳当番を班で分担し1週間交代で行う。

・給食当番・配膳当番の分担表を掲示しておく。（担任でなくても何班が給食当番で何班が配膳当番か、また誰が何の分担かが、わかるようにすること）

＊詳細については給食担当から

6. 掃除分担について

・生活班ごとに分担した場所に移動し掃除を行う。1週間交代で行う。

・教室の椅子を机の上に上げ、みんなで後ろに移動させる。

・掃除前に特別教室に行くときは、行く前に椅子と机を移動させておく。

・掃除はじめの会と掃除終わりの会を行う。班長が司会する。

＊詳細については清掃担当から

7. 「朝の会」と「帰りの会」について

・企画係が司会を行い、基本的な流し方を別紙のようにする。

8. 1年生の学級組織作りについて

1年生の学年初め学級組織作りについて、次のように配慮して生徒理解を深めながら決定をする。

・生徒が学校生活の流れをつかみ、委員会や係の活動内容を理解できるよう説明するとともに、体験させたり、上級生の仕事の様子を見学させたりして、自分の適性を考える時間をとる。

・エンカウンターなどの活動を取り入れて、クラスメイトの名前や顔が分かるようにしてから、学級委員や専門委員、係などを決定できるように配慮する。

・学級委員等の決定は生徒の意志を尊重しつつ、教師からも適切にアドバイスをする。

朝の会

※ 朝の会のチャイムが鳴ったら司会の企画係は前に出る

- 1 「これから朝の会を始めます。」
学級委員 「起立」「服装を整えましょう」「気をつけ」「礼」
全員 「お願いします」(礼) 「着席」
- 2 係・委員会から
 - ① 健康観察 (毎日)
「保健委員は健康観察をお願いします。」
 - ② 服装点検 (月・金)
「生活委員・学級委員は服装点検をしてください。」
 - ③ 給食着点検 (月)
「給食委員は給食着の点検をしてください。」
 - ④ ハンカチ・爪検査 (水)
「保健委員はハンカチ・爪検査をお願いします。」
 - ⑤ 提出物点検
「生活ノートを集めてください。」
「宿題を出してください。宿題のある教科は発表してください。」
 - ⑥ 係・委員会から
「係・委員会からの連絡があればお願いします」
- 3 先生から
「〇〇先生お願いします。」
司会の企画係は席に戻って「正座 礼」
話が終わったら
- 4 学級委員 「起立」「服装を整えましょう」「気をつけ」「礼」
全員 「ありがとうございました」(礼) 「着席」

帰りの会

※ 帰りの会のチャイムが鳴ったら司会の企画係は前に出る

※ 配布物はチャイムが鳴るまでに集配係が配っておく

- 1 「これから帰りの会を始めます。」
学級委員 「起立」「服装を整えましょう」「気をつけ」「礼」
全員 「お願いします。」(礼) 「着席」
「黙想・・・止め」(1分間)
- 2 生活ノート記入(3分間)
「生活ノートに記入してください」
- 3 明日の連絡
「教科係の人は明日の連絡をお願いします」
「1時間目 〇〇」; 「はい。……………です。」
～
「6時間目 〇〇」; 「はい。……………です。」
- 4 係・委員会からの連絡
各係、専門委員会等で連絡があればお願いします。
(金曜日) 給食委員会からお願いします。

- 5 1分間スピーチ(学級裁量)
「今日は〇〇さんです。お願いします。」
- 6 先生から
「〇〇先生お願いします」 司会の企画係は席に戻る
司会の企画係は席に戻って「正座 礼」
話が終わったら
- 7 挨拶
「起立」「服装を整えましょう」「気をつけ」(きちんとできてから)「礼」
「さようなら」

基本的にはこの流れで進めるが、各学年・各クラスの裁量によって工夫してもよい。

令和2年度 生徒会活動年間計画

○本年度活動方針

各活動項目に目標を設定し、活動の反省や評価をし易くすることによって活性化を図る。

活動項目	目 標
生徒総会	話し合い活動を充実させ、意義のある生徒総会にしよう。
中央委員会	積極的に意見を出し合い、今よりもさらによい一中を築こう。
専門委員会	仕事に責任を持ち、委員会活動を盛り上げよう。
朝の放送活動	一日の目標を知り、自主的に読書を始めよう。
下校促進運動	時間内に速やかに下校しよう。
あいさつ運動	いつでも大きな声であいさつをしよう。
体育館使用の注意	体育館使用のルールを守り、楽しく安全に昼休みを過ごそう。
クラスマッチ	各学年の実態に即したクラスマッチを通じて、各クラスの団結力を磨いていこう。
部紹介・壮行式	部活動も、学校生活の中の重要な活動であることを自覚しよう。
文化祭	みんなで工夫・協力し、格調高い文化祭にしよう。
3年生を送る会	お世話になった3年生に、感謝の気持ちを表そう。

①話し合い活動の充実

- ・討議資料は事前に配布し、内容を検討できるようにする。
- ・質問だけでなく、前向きな意見がたくさん出るようにする。

②専門委員会による学校生活の向上

- ・専門委員会の前に委員長会を開き、検討内容等を確認する。
- ・原則として毎月最低1回は専門委員会の日を設定する。（基本的に第2水曜日）
- ・専門委員会活動での表彰や呼びかけを朝の会の時に行う。

③ボランティア活動の推進

- ・「ボランティア友の会」を立ち上げ、学校内外の奉仕活動を積極的に行い、地域の一員として活動することの意義を認識する。

④学校生活の充実

- ・生徒一人ひとりが生徒会の成員であることを自覚し、積極的に行動できるレベルにまで高める。
- ・学校の規則の意味を理解し、きまりを守ろうとする意識を高める活動を行う。

○執行部年間活動 一覧表

<通年の活動>

- ・執行部会，専門委員会，下校促進運動，あいさつ運動，朝の放送活動，体育館使用の注意

<その他の活動>

- ・4月の中央委員会で年間のクラスマッチの計画を立て、全専門委員会で協力して盛り上げていく。

月	活 動 内 容
4	<通年の活動> 部活動紹介，中央委員会
5	<通年の活動> 中央委員会，生徒総会
6	<通年の活動> 人権呼びかけ
7	<通年の活動> 運動会決起集会
8	<通年の活動> 執行部会
9	<通年の活動> 運動会，文化祭
10	<通年の活動> クラスマッチ ―2分前着席―
11	<通年の活動> 生徒会役員選挙，引き継ぎ事務
12	<通年の活動> スマホサミット
1	<通年の活動> 挨拶運動教化月間
2	<通年の活動> 新入生説明会
3	<通年の活動> 後期生徒総会，3年生を送る会

令和2年度 食に関する指導の全体計画

学習指導要領
食育基本法・学校
給食法
食育推進基本計画

学 校 教 育 目 標
はつらつと心豊かにたくましく生きる力の育成

・生徒の実態
・保護者・地域の実態

食に関する指導の目標

- ① 食事の重要性、食事の喜び、楽しさを理解する。
- ② 望ましい栄養や食事の摂り方を理解し、自ら管理していく能力を身につける。
- ③ 各地域の産物、食文化や食にかかわる歴史等を理解し、尊重する心をもつ。

各学年の食に関する指導の目標

1 年	2 年	3 年
望ましい食事のしかたや生活習慣を理解し、自らの健康を保持増進しようとする。	食環境と自分の食生活との関わりについて理解し、食の自己管理能力を身につける。	地域の産物や食文化を知りこれを大切にしていこうとする。

		前 期		後 期			
特別活動	学級活動及び給食の時間	1 年	◎望ましい食習慣を見につけよう ●給食の時間の過ごし方・衛生的な食事 ・準備・後片付け・手洗い・身支度		◎感謝して食べよう ●食事のマナー		
	◎食に関する指導	2 年	◎食の自己管理能力を身につけよう ●給食の時間の過ごし方・衛生的な食事 ・準備・後片付け・手洗い・身支度		◎感謝して食べよう ●食事のマナー		
	●給食指導	3 年	◎日本の食文化を知り、大切にしていこう ●給食の時間の過ごし方・衛生的な食事 ・準備・後片付け・手洗い・身支度		◎感謝して食べよう ●食事のマナー		
	全校一斉指導等	○給食時間の過ごし方を考えよう			◎感謝して食べよう		
	学校行事等	参観日			学校給食週間		
生徒会活動		活動計画作成、エプロン・配膳・台ふきチェック			活動計画作成、エプロン・配膳・台ふきチェック		
		1 年		2 年		3 年	
教科との関連	技術・家庭 (家庭分野)	生活の自立と食生活 ・中学生の栄養と食事 ・食生活の課題と調理の応用 ・食品の選択と日常食の調理の基礎					
	保健体育 (保健分野)					健康な生活と病気の予防	
	理 科	・植物の生活と種類 ・動物の世界と種類 ・自然と環境					
	社 会	地理的分野 ・世界と日本の地域構成 ・地域の規模に応じた調査 ・世界と比べて見た日本 歴史的分野 ・歴史の流れと地域の歴史 ・古代までの日本 ・中世の日本 ・近世の日本 ・近現代の日本と世界 公民的分野 ・現代社会と私たちの生活 ・国民生活と経済 ・現代の民主政治とこれからの社会					
道 徳		1 主として自分自身に関すること 2 主として多の人との関わりに関すること 3 主として集団や社会との関わりに関すること					
家庭・地域連携		・給食献立表・給食便りの配布					
地場産物活用の方針		・地場産物活用のメニューについては放送により全校生徒に紹介する。（給食一口メモ）					
個別指導		・アレルギーに関する相談の実施と対応のあり方を給食センターと連携する。					

令和２年度 食に関する年間指導計画

月	月目標	指導の重点	指導内容	センターとの連携（ＴＴなど）
4	正しい食事のマナーを身につけよう	○楽しい食事をするための基本的態度	○食事の意義 ○当番の心得 ○楽しい食事にするための環境作り ○食事時の姿勢と話題、マナー ○全体の協力体制 ○好ましい食事、楽しい食事の仕方（食前食後の挨拶等）	
5	バランスのとれた食事をしよう	○バランスのとれた食事と栄養	○偏食せず三食きちんと食べる	
6	衛生に気をつけて食事をしよう	○食事の安全と衛生 ○歯や骨の健康	○梅雨時の衛生と食中毒 ○手洗いの励行 ○カルシウム不足と健康（給食チェック）	食育月間 3年保健「生活習慣病の予防」 1年家庭科「私たちの食生活」
7	夏の食生活と健康について考えよう	○夏の食事と健康 ○規則正しい食生活と夏バテ防止	○暑さに負けない食生活 ○夏休みにおける規則正しい食事	
9	食事と運動について考えよう	○朝食の役割 ○生活リズムと食事	○運動会にちなんで食事の大切さを理解させる	
10	健康な体を作ろう	○栄養と健康の関連	○食事と運動と健康の関連を理解させる	
11	疲労回復と食生活について考えよう	○咀嚼の大切さ ○骨作りのための食生活	○食事と休養の関係、骨の成長に欠かせないものなどを理解させる	2年家庭科「食品添加物」
12	寒さに負けない冬の食生活を考えよう	○規則正しい生活と風邪の予防	○冬の栄養の摂り方と健康維持 ○冬休みにおける規則正しい食事	
1	感謝の気持ちをこめて食事をしよう	○生産から消費までの流通経路の理解 ○食事を作る人への感謝	○給食ができる過程を学習させる ○新見の郷土料理について学ばせる（給食チェック）	
2	食文化に関心をもとう	○地産地消について ○世界の食事	○地産地消の取り組みについて理解させる ○伝統的な食習慣、日本の行事食や世界の食生活に関心をもたせる	
3	1年間の反省をしよう	○食事と健康の確認	○健康作りのための食生活を自己管理することの大切さに気づかせる	

給食指導について

1. 学校給食の指導の基本

- (1) 日常生活における食事について、正しい理解と望ましい習慣を養うこと。
- (2) 学校生活を豊かにし、明るい社交性を養うこと。
- (3) 食生活の合理化、栄養の改善及び健康の増進を図ること。
- (4) 食糧の生産、配分及び消費について、正しい理解に導くこと。

2. 学校給食の指導のねらい

- (1) 望ましい食習慣を育てる場とする。
- (2) 好ましい人間関係の育成の場とする。
- (3) 自主的・実践的活動の場とする。

3. 給食年間指導計画（給食時の指導）

- (1) 給食の形態
 - ・ 班別に食卓を作る。
 - ・ 給食前の授業が特別教室の時は、移動の前に食卓を作っておく。
- (2) 給食時程の設定
- (3) 指導の要点

<担任（教室指導担当）教員>

- ① 朝の健康観察の時、給食準備直前に当番の健康確認し、腹痛、下痢、発熱などの症状がある場合は当番をさせない。
- ② 4 時間目の教科担当は、当番を教室から一番に素早く送り出す。
- ③ 教室指導担当者は給食委員の後片付け点検表のチェックをする。

<給食当番>

- ① 体調がすぐれないときは担任に申し出て、仕事を交替してもらう。
- ② 4 校時目が体育や特別教室のときには給食着を持って行く。
- ③ トイレ・手洗いをすませ、エプロン・帽子・マスクをつけ、速やかに給食室へ向かう。
- ④ 給食室前で手を消毒する。
- ⑤ 給食当番分担表により、清潔、安全に運ぶ。バット、食器担当は特に早めに行動する。汁物のときには給食委員がエレベータを利用し、教室前まで運ぶ。各クラスの給食当番が教室前で受けとる。
- ⑥ おかず、食器などで数が足りない物があれば、給食室へ取りに行く。
- ⑦ 汁碗と御飯碗が全く同じ物なので、同時に出了ときはまず数を半々に分けてから盛りつける。
- ⑧ おかずは配り残しをしないようにする。
- ⑨ 配膳が済んだら、お玉・しゃもじ・パンばさみなどをひとまとめにし、バットに向きをそろえて入れておく。食かんの中に入れてままにしない。
- ⑩ 汁がしたたり、衣類や廊下を汚すので、食器は立てて返却する。
- ⑪ 後片付けチェックを給食委員に受け、許可を得てから返却する。
- ⑫ 食器類を給食室へ返却する。ただし、白ご飯・パン箱・麺類の箱は中身を空の状態ですぐに給食室横の所定の位置に返却する。
- ⑬ **残飯は、パン以外は全て丸かんに入れる。** 魚の骨やミカンの皮は、丸かんに入れずにごみと一緒にゴミ袋に入れて処理する。食べ残しのパンは、パンの入っていた袋に入れ、給食室前のポリバケツに入れる。（残飯に入れない）

* 給食着について

- ① 給食着は金曜日に持ち帰り、洗濯して月曜日に持ってくる。月曜日の朝に給食委員が点検し、忘れた場合は、担任が貸出エプロンを用意する。次の当番は貸出エプロンを一週間使用し、次の月曜日に担任に返却する。
- ② 貸出エプロンは担任が階段下倉庫から記録簿に記入して貸し出し、返却を行う。
- ③ 給食着なしで給食当番をしてはいけない。欠員があっても、給食着なしで手伝ってはいけない。欠員が多い場合はボランティアを募り、給食着を着て行う。
- ④ 給食当番は、給食着を専用のプラケースで保管する。

<給食委員>

- ①月曜日の朝の会で、給食着の有無、マスクの有無を確認する。
- ②4時間目終了後、配膳係に、バケツに水をくみ配膳係の台ふき当番に食前の台ふきをするように呼びかける。
- ③ゴミ袋をセットし、前に出て、食前食後の挨拶をする。
- ④食後の挨拶の前に、お玉やしゃもじが食カンの中に入っていないか点検する。
- ⑤チェック表で後片づけの点検をし、合格なら給食室へ返却させる。不合格なら直させる。また、食後も配膳係が台ふきや通路ふきをきちんとするよう指導する。
- ⑥毎週月曜日に給食着使用者名簿を記入し、後片付けチェック表とともに金曜日に学年の給食担当の先生に提出する。
- ⑦備品（洗剤・クレンザー・ゴミ袋など）が無くなったら、給食委員が学年の給食担当の先生に申し出る。

<配膳係>

～牛乳運搬担当2人～

- ①牛乳を取りに行き、廊下の机の上に置く。（欠食者の数を把握しておくこと）
- ②給食後は返却する。週番に学年、組、残数をはっきりと告げる。

～運搬通路ふき1人～

- ・ぬれ雑巾を持ち、4クラスそろって学年最後の給食当番の後をついて歩き、廊下が汚れていたら拭く。給食の後は食器返却の後ろに付き添っていき、配膳室の教師に終了の報告を行う。

～台ふき当番（牛乳・通路ふき以外の生徒）～

- ①給食用バケツに台ふき用の水をくんでくる。給食後には水を流しに捨てる。
- ②給食の前後、台ふきで配膳台や教卓・全生徒の机を拭く。台ふきはバケツで洗って配膳台の上に広げて干す。

～配膳 班員全員～

- ・手分けをして全員の配膳をする。配膳はバットから。

<当番以外の生徒>

- ①待つとき
 - ・4校時終了後5分で、トイレ、手洗いをすませ教室内で静かに座って待つ。
- ②食事中
 - ・立ち歩かないで、マナーよく、残さずに食べる。
 - ・早く食べ終わっても、給食終了のチャイムまで片付けをせず席について待つ。
- ③後片づけ
 - ・食器などは班で丁寧にまとめて配膳台へ持っていく。
 - ・スプーン・フォークを分けて片付ける。
- ④ゴミ
 - ・ゴミはナイロン袋などに入れる。（デザートカップは重ねる）
 - ・牛乳パックは小さく畳んで、ゴミの量を減らす指導をする。
 - ・バナナ、みかんなどの皮はゴミとする。残す場合もきちんと皮をとり、ゴミと残飯に分ける。

4. 連絡・その他

- ①給食活動は全職員で指導する。（給食室・手洗い場・廊下等）
- ②主任・副担任の教員は通路拭きの生徒をみる。
- ③学校週番担当の先生は、牛乳保管場所で指導を行う。
- ④ナイロン袋などゴミ袋に使えるものはとっておく。
- ⑤異物が混入していた場合は、直ちにそのままの状態で職員室に持って帰り教頭に報告する。代替品を給食室に取りに行く。
- ⑥長期欠席（3日以上）、転出入生徒については、わかり次第係まで申し出る。長期欠席者が登校する日がわかったときも同様とする。
- ⑦欠席者の返金は年度末計算とする。
- ⑧牛乳パックは平らに畳んでそれだけを白いナイロン袋に入れる。ストローとストローのナイロン袋は牛乳パックから外してゴミ袋に入れる。
- ⑨片付け時に、給食当番以外は配膳室に入らない。また、体育館シューズ等を角かんの上に置いて運ばない。

給食時間の流れ

給食当番		給食委員		配膳係		当番・委員 係以外
				牛乳運搬担当	運搬通路拭き それ以外	
4 時間目の授業が教室以外で行われる場合には、あらかじめ机を移動させておく。 教室からかなり離れたところの場合、給食当番は給食着を持っていき、当番以外で荷物を持って帰る。						
12:40	給食を着る 手を洗う 給食室前で消毒 速やかに給食を運ぶ（ <u>バット、食器は1番に運べるようにする</u> ） 全員で給食を分けていく つぎ残しがないようにする （することがない者も配膳を手伝う） 給食着を脱いで、ケースに入れる	手を洗う 先生の給食の配膳 ゴミ袋の設置 食前の挨拶	12：50までに 給食室前から 牛乳を運んでくる （週番にクラス名を言う） 手を洗う	ぬれ雑巾を持ち 4クラスそろって、給食当番の後ろについてこぼした汁を拭く。（ <u>副担当同行</u> ） ぞうきんを洗い 手を洗う	バケツに水を入れてく る 給食台と先生の机と全 員の机をふき、台ふきをバ ケツに戻しておく 手を洗う	12:40
12:55	全員の配膳を行う				自分の席に 座って 静かに待つ	12:55
13:15	食 事					13:15
各 班 全 員 で 片 付 け						
給食の返却 給食台とその周りの清掃	食後の挨拶 後片付けの指導・確認をし チェック表に記入 すべてが終わったら先生 にチェックを受ける	13：25までに 牛乳びんを 給食室前に返却	雑巾を持ち、給食当番の後ろについてこぼした汁を拭く （各学年の給食 担当に報告）	給食台と先生の机と 全員の机の上を拭き、バ ケツで台ふきを水洗い し、給食台の上に広げ ておく バケツの水を捨てる	仕事の邪魔 をしない	13:35
13:35	授 業 の 準 備					13:35

週の終わり

給食着を持って帰り洗濯し、翌週はじめに持ってくる。

週のはじめ

洗濯した給食着を朝の会までに所定の場所へ置いておく。給食委員は、朝の会で給食着の有無をチェックし、不足がある場合は担任に申し出る。
(マスクの予備も階段下倉庫から担任の先生に出してもらう)

令和2年度 学校保健全体計画

1 保健教育目標

近年の、情報化、高年齢化、核家族化等の社会の急激な変化は、生徒の心や体の健康にさまざまな影響を及ぼしている。本校においても、基本的生活習慣の乱れや心の健康、性の問題等の課題がある。そこで、生徒の健康課題を把握し、自分の生活はもとより身近な集団での生活における健康の問題を、自分でより良く判断し対応できる能力や態度を養う。

2 保健教育の機会と内容

(1) 関連教科・総合的な学習の時間等による集団指導

心身の発達と健康の増進・疾病予防、環境の変化と適応等

(2) 特別活動

①学級活動（1単位時間による集団指導）

- ア 心身の健康の増進
- イ 性的な発達への適応（性に関する指導）
- ウ 安全な行動の習慣化（安全な生活）

②学校行事（生徒が自己の心身の発達・健康保持などについて理解を深め、安全な行動が体得できる集団・個別指導）

- ア 定期健康診断
- イ 疾病予防に関する行事
- ウ 校外活動、校外学習、修学旅行
- エ 大掃除等環境衛生に関する行事

③生徒会活動（生徒の自発的・自治的な活動を通して、自主的に健康的な生活を送る態度の育成を養う活動での指導）

- ア 生活リズムや健康習慣確立のための啓発活動
- イ 感染症予防のための活動
- ウ 保健に関する調査・統計作業

④部活動等における指導

- ア 活動時の傷害予防
- イ 熱中症予防・感染症予防
- ウ 安全な用具の使用

(3) 保健室における個別指導

- ア 健康診断や日常の健康観察をもとに行う、健康に関する相談活動
- イ 保健室利用時におこなう指導

(4) 日常の学校生活における集団・個別指導

「朝の会」や「帰りの会」等の時間を利用し、より良い生活習慣の形成を図るため、繰り返し継続的におこなう。

令和2年度 学校保健年間指導計画

項目	＼ 月	4 月	5 月	6 月	7 月・8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月
保 健 目 標		自分のからだを知ろう	生活環境を整えよう	歯の健康と梅雨の衛生に気をつけよう	夏の健康に気をつけよう	からだを鍛えよう	目の健康に気をつけよう	心とからだの成長について考えよう	冬の健康に気をつけよう	姿勢に気をつけよう	心の健康に気をつけよう	健康生活の反省をしよう
行 事		定期健康診断 身長・体重測定 視力・聴力・内科・運動器・結核・歯科・尿・心臓 緊急対応職員研修	校外学習（1・2年） 修学旅行（3年）	歯と口の健康週間 耳鼻科検診	教育相談 喫煙防止教室（3年）	運動会 文化祭 救急法講習（2年） 眼科検診	身長・体重測定	駅伝選手事前健康診断 駅伝大会	薬物乱用防止教室（3年） 教室等の空気検査			
保 健 管 理		定期健康診断 机・椅子の調整 緊急連絡先・健康情報等の管理 修学旅行事前健康調査	健康診断事後措置	健康診断事後措置 夏季の健康管理 運動部生徒の健康管理	夏期休業中の保健管理 疾病治療状況調査と未治療者への勧告	机・いすの整備	照度測定	暖房設備の整備 備点検 加湿器の管理	教室内の換気と加湿 冬季の健康管理 疾病治療状況調査と未治療者への勧告	教室内の換気と加湿 冬季の健康管理	教室内の換気と加湿 冬季の健康管理	教室内の換気と加湿 暖房設備の整備 備点検 備品整備 新年度の計画と準備
保 健 指 導	1 年	健康診断の受け方	校外学習の保健指導	歯と口の衛生熱中症予防	夏休みの生活性に関する指導（異性の理解と協力）	運動と健康 栄養と健康 けがの予防と手当	目の健康	タバコの害	かぜの予防 性に関する指導（性情報への対処） （性の被害者（被害者にならないために）	かぜの予防 感染症予防	かぜの予防 感染症予防	健康生活の反省
	2 年	健康診断の受け方	校外学習の保健指導	歯と口の衛生熱中症予防	夏休みの生活性に関する指導（思春期の不安や悩み）	運動と健康 栄養と健康 けがの予防と手当	目の健康	アルコールの害	かぜの予防 エイズ教育 性に関する指導（異性とのかわり）	かぜの予防 感染症予防	かぜの予防 感染症予防	健康生活の反省
	3 年	健康診断の受け方	修学旅行の保健指導	歯と口の衛生熱中症予防	夏休みの生活性に関する指導（将来の夢） （豊かな人間関係）	運動と健康 栄養と健康 けがの予防と手当	目の健康	薬物の害	かぜの予防 性に関する指導（エイズと人権について考えよう）	かぜの予防 感染症予防	かぜの予防 感染症予防	健康生活の反省
組 織 活 動	学校保健委員会				第1回学校保健委員会							第2回学校保健委員会
	生徒保健委員会	健康観察（毎日） 爪の検査（週1） 星の放送（週1）	年間通して						加湿器の設置 教室の換気	インフルエンザ予防の取組	インフルエンザ予防の取組	加湿器片付け

令和2年度 保健室経営計画

新見市立新見第一中学校

学校教育目標
はつらつと心豊かにたくましく生きる力の育成



学校経営方針（保健安全に関わるもののみ）
○健康な生活習慣づくり 健康で充実した生活ができるよう、保健・安全指導や食の教育・体力づくりをさらに充実させる。 特に個々の生徒の実態からそれぞれの課題を把握し、個別指導が効果的に行えるよう、保護者との連携を密にする。また、近年増加しているアレルギー等の課題にも慎重に対応できるようにする。



学校保健目標
健康課題を把握し、自分の生活はもとより身近な集団生活における健康の問題を、自分で判断し対応できる能力や態度を養う。



重点目標
生徒の健康情報を整理し、配慮や支援を必要とする生徒への組織的な対応の充実を図る。



児童生徒の主な健康課題
・食物アレルギー・気管支喘息等により、学校における配慮や管理を必要とする生徒がいる。 ・う歯罹患率は県平均より低い、治療率が5割弱に留まっている。 ・裸眼視力1.0未満が全体で4割弱であり、県平均を上回っている。 ・学校管理下のけがが多く、そのうち約半数は部活動中のけがである。 ・不登校あるいは不登校傾向の生徒が各学年複数いる。



到達度：1 よくできた 2 ほぼできた 3 あまりできなかった 4 まったくできなかった

保健室 経営目標	保健室経営目標達成のための 具体的な方策 （※…評価の観点）	自己評価		他 者 評 価				
		到達度	向 今 理 け 後 由 て に /	い っ つ	だ れ か ら	方 法	到達度	助 意 言 見 等 .
1 学校生活において配慮が必要な生徒への組織的な対応の充実を図る	A) 学校生活において配慮や管理が必要な生徒に対して、学校生活管理指導表に基づいた対応を行う。	1		年度末	教職員	アンケート	1	
	※学校生活管理指導表に基づいた対応ができたか。	2					2	
		3					3	
		4					4	
	B) 学校生活において配慮や管理が必要な生徒に対して、リスクマネジメントカードの作成をし、全教職員に配布し共通理解のもと、対応の徹底を図る。	1		年度末	教職員	アンケート	1	
	※リスクマネジメントカードの作成ができたか。	2					2	
	※全教職員に配布し、共通理解のもと、対応することができたか。	3					3	
		4					4	

	C) 学校生活において配慮や管理が必要な生徒に対して、保護者や関係機関と情報交換や連携を密にし、対応の充実を図る。 ※保護者や関係機関と情報交換や連携を密にし、対応の充実を図ることができたか。	1 2 3 4		年度末	保護者 教職員	アンケート	1 2 3 4	
保健室経営目標 1 に対する総合評価			1 2 3 4					

保健室 経営目標	保健室経営目標達成のための 具体的な方策 (※…評価の観点)	自己評価		他 者 評 価				
		到達度	向 今 理 け 後 由 て に	い っ	だ れ か ら	方 法	到達度	助 意 言 見 等 .
2 健康課題を持つ生徒に対する個別指導の充実を図る	A) 疾病異常やアレルギー等、学校における配慮が必要な生徒に対して、本人に声かけをしたり担任等に聞き取りをしたりするなど、日常的に健康状態の確認を行う。 ※本人への声かけや担任等へ聞き取りを行い、健康状態の確認ができたか。	1 2 3 4		年度末	教職員 生徒	アンケート	1 2 3 4	
	B) 心の健康問題を持つ生徒の早期発見に努め、必要に応じて担任や関係職員との情報交換や連携を図る。 ※心の健康問題を持つ生徒の早期発見に努めることができたか。 ※担任や関係職員との情報交換や連携を図ることができたか。	1 2 3 4		年度末	教職員 生徒	アンケート	1 2 3 4	
	C) 人間関係づくりに課題があると考えられる生徒には、保健室来室時の対応の中で、対人関係スキル等を個別に指導する。 ※保健室利用の状況、i-check や教育相談等の結果から、課題があると思われる生徒を見つけることができたか。 ※保健室利用の状況に合わせて、個別に指導することができたか。	1 2 3 4		年度末	教職員 生徒	聞き取り	1 2 3 4	
保健室経営目標 2 に対する総合評価			1 2 3 4					

<総評と次年度への課題>

保健室利用上の留意点

〈保健室の目的〉

保健室への来室生徒は、時代の変化とともに背景要因も複雑化してきている。また、保健室の機能も子どもたちのニーズに即した環境整備が必要となってきた。

学校には、健康診断、健康相談、救急処置等を行うため、保健室を設けるものとする。

(学校保健安全法 第7条)

〈基本的な考え方〉

- (1) 保健室では、病気やけがに対して救急処置を行う。ただし、家庭や学校外での傷病は、原則として取り扱わない。
- (2) 内服薬は、原則として取り扱わない。
- (3) 保健室での休養、経過観察は原則として1時間を限度とし、快復しない場合は担任に連絡し、処置を決める。(熱が高い場合や痛みが激しい場合など、症状が重い場合はできるだけ保護者に迎えにきてもらう。保護者と連絡が取れない場合は生徒だけで帰宅させない。)
- (4) 学校でのけがや体調などについては、こまめに保護者に連絡する。
 - ・特に頭部打撲や首から上のけがについては、必ず早急に連絡する。
 - ・相手のあるけがの場合は、双方から十分に話を聞きとる。
- (5) 早退、受診、移送については緊急の場合を除き、担任、家庭への連絡を必ずしてから行う。
- (6) 保健室、担任、スクールカウンセラーとの連携を図る。
- (7) 生徒の実態把握や共通理解を図るために、情報交換を密に行う。

〈留意事項〉

- (1) 体調不良時や受傷時は、担任(不在の場合は学年団の先生)、教科担任に届けてから保健室に来る。
- (2) 授業中に保健室へ来させる場合には、職員室の学年団および保健室へインターホン等で必ず連絡を入れる。
- (3) 生徒が保健室を利用する際は、マナーとしてノックをしてから入室する。学年・組・氏名・用件(症状等)を要領よく伝える。
- (4) 用事のないときは入室しない。
- (5) 許可なく就床、休養しない。
- (6) 保健室の器具、資料等は許可なく使用しない。
- (7) 保健室前トイレは、原則として保健室利用者が使用する。
- (8) 養護教諭不在時は、原則として保健室は施錠しておく。
- (9) 養護教諭不在時は、担任あるいは学年団で対応する。
(保健室で対応した生徒の様子については後から養護教諭に連絡する。)

令和2年度 性に関する教育 年間指導計画

新見市立新見第一中学校

<性に関する教育の目標>

- 心身の発育・発達や変化など人間の性の成熟について科学的に理解するとともに、発達途上にある自己の性を受容し、自他を大切にしようとする心情や態度を育てる。
- 男女の心身の特徴を基に、互いに相手を理解し、人格を尊重する心情や態度を育てる。また、望ましい人間関係を築いていくために、より適切な意思決定に基づく行動選択ができる能力や態度を育てる。
- 社会の風潮に対する正しい判断力を養い、性に対する健全な態度を育成する。

学 年	自分自身に関すること			男女の人間関係	家族や社会との関係
	生 命	身体的側面	精神的側面		
一 年	◎生命の尊重(道徳)	◎思春期の体の発育・発達(保健体育)	◎思春期の心の変化(保健体育)	◎異性の理解と協力(学級活動) ◎友情(道徳)	◎性情報への対処(学級活動) ◎性の被害者・加害者にならないために(学級活動)
二 年	◎生命の尊重(道徳)		◎思春期の不安や悩み(学級活動)	◎異性とのかかわり(学級活動) ◎異性理解(道徳)	◎家族愛(道徳)
三 年	◎生物の細胞と生殖(理科) ◎生命の尊重(道徳)	◎エイズ及び性感染症の予防(保健体育)	◎将来の夢(学級活動)	◎豊かな人間関係(学級活動) ◎異性理解(道徳)	◎エイズと人権について考えよう(学級活動) ◎家族愛(道徳) ◎人権と共生社会(社会)

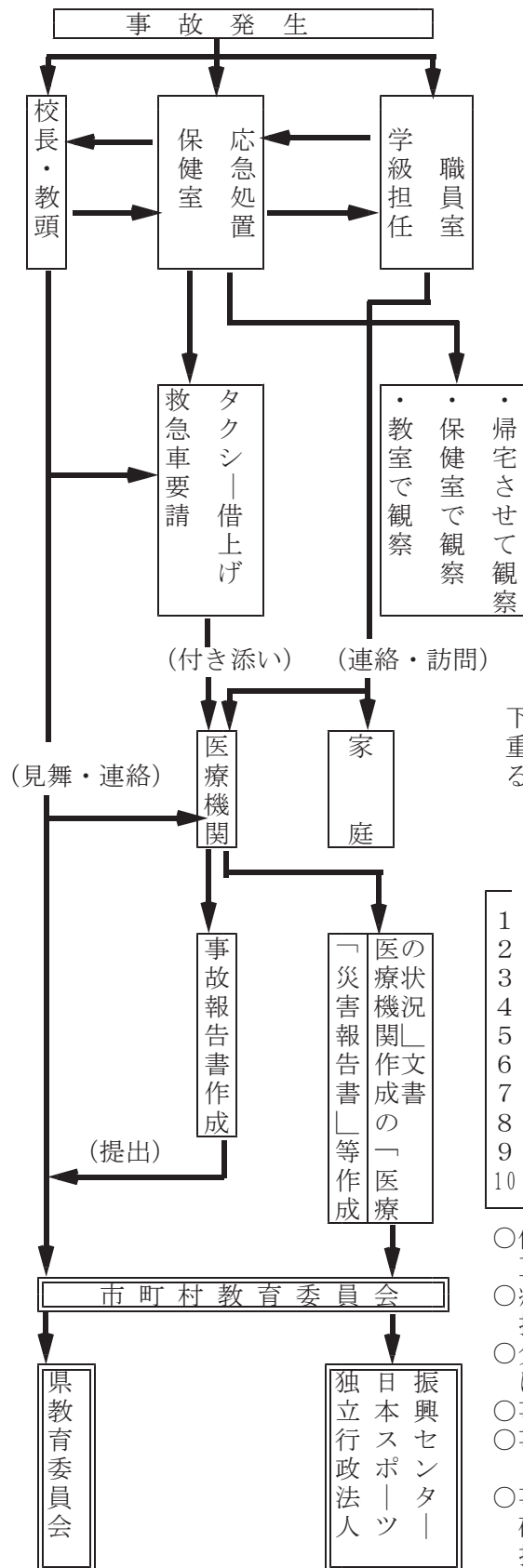
令和2年度 学校安全年間指導計画

新見市立新見第一中学校

学校安全重点目標		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月
学校行事		● 校内の安全 ● 交通安全	● 集団行動と安全	● 梅雨期の生活と安全	● 夏の健康で安全な生活	● 校外生活の自主管理	● 体育活動と安全
安全	学 級	● 始業式・入学式 ● 健康診断 ● 参観日 ● 交通安全教室	● 校外学習 ● 修学旅行 ● 避難訓練	● 参観日 ● 教育相談 ● 期末考査 ● 備北夏季総体	● 保護者懇談 ● 終業式	● 部活動 ● 始業式	● 運動会 ● 文化祭 ● スポーツテスト
		● 校外学習の取り組み ● 安全な通学をしよう ● 自転車の正しい乗り方を考えよう	● 安全な通学をしよう	● 男子のからだ・女子のからだ	● エイズについて		● 運動会の準備と安全 ● 文化祭の準備と安全
		● 通学の決まり ● 自転車点検 ● 生活習慣・交通安全教室 ● 平和学習の取り組みと安全	● 部活動での安全 ● 自転車点検 ● 教室での安全 ● 交通安全について考えよう	● 雨の日の登校 ● 自転車点検 ● 健康な歯 ● 男女の特性と協力	● 夏季の健康管理		● 生活習慣の見直し ● 自転車点検
	学 級	● 通学路の確認 ● 自転車点検 ● 部活動と安全	● 生活習慣の見直し ● 自転車点検 ● 自転車事故を考える	● 歯と口の健康 ● 自転車点検 ● 雨の日の登下校	● 水難事故を考える ● 夏休みの健康		● 運動会の準備と安全 ● 文化祭の準備と安全 ● 自転車点検
教育	学 級	● 修学旅行と安全	● 自転車点検	● 男女の性差 ● 自転車点検			● 運動会の準備と安全 ● 文化祭の準備と安全 ● 規則正しい生活 ● 自転車点検 ● 健康管理について
		● 通学路の確認・自転車点検 ● 学習規律,生活習慣 ● 修学旅行の安全 ● 避難経路の確認					
		● 通学路の設定・安全点検 ● 校内の施設,設備の整備 ● 漏電検査	● 安全点検	● 安全点検 ● 避難訓練	● 安全点検	● 安全点検 ● 機械器具等の点検整備	● 安全点検 ● 通学路の危険箇所調査
安全管理	物的管理	● 通学方法の確認 ● 健康診断・健康観察 ● 避難経路の確認・交通指導	● 健康観察 ● 交通指導	● 健康観察 ● 交通指導 ● 雨天時の登下校について	● 健康観察 ● 夏休みの安全な生活 ● 交通指導	● 健康観察 ● 交通指導	● 健康観察 ● 交通指導
	人的管理	● 部活動紹介 ● 専門委員会 ● 交通安全祭・自転車整備 ● カギ点検	● 下校促進運動 ● 専門委員会 ● 生徒会総会	● 清掃強化月間 ● 専門委員会 ● あいさつ運動	● 専門委員会	● 運動会の準備 ● 文化祭の準備 ● グリーンプログジェクト	● 運動会の準備 ● 文化祭の運営 ● 交通安全祭 ● 交通安全委員会 ● 給食委員会 ● 車庫委員会 ● P T A交通安全祭 ● 行事中の指導
生徒会活動			● P T A生活指導部会	● P T A交通安全祭	● P T A交通安全祭 ● サマーナイトフェスティバル街頭指導		
関係機関・家庭・地域との連携						● 夏季休業	● 秋の交通安全週間 ● 防災の日
そ の 他		● 春の交通安全週間 ● 世界保健デー	● 世界赤十字デー	● 歯と口の健康週間 ● 世界環境デー			

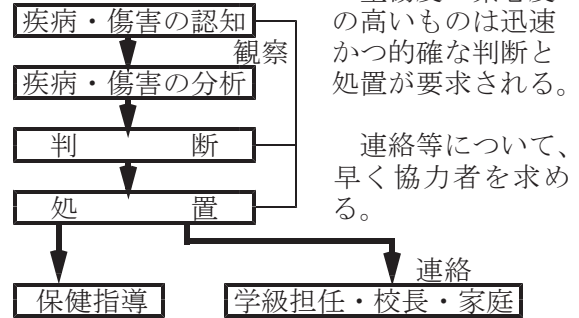
学校安全重点目標		10月	11月	12月	1月	2月	3月
●環境美化と安全		●災害と安全	●人権意識の高揚と安全	●冬の健康と安全 ●通学路（雪道）の安全 ●始業式 ●3年学年末考査	●入学説明会 ●1・2年参観日 ●私立入試 ●公立特別入試 ●1・2年学年末考査	●生活安全の自主管理	●生活安全の反省と評価
学 校 行 事	●備北秋季総体 ●職場体験学習 ●中間考査	●参観日・PTA教育講演会 ●県秋季総体 ●県伝大会 ●小中音楽会 ●期末考査	●避難訓練 ●教育相談 ●保護者懇談 ●終業式	●男女の役割	●生活習慣の見直し ●積雪時の登校 ●自転車点検	●春休みの健康管理 ●自転車点検	●3年生を送る会 ●公立一般入試 ●卒業式・修了式
	●校内生活での事故予測	●避難訓練の必要性について ●男女の理解	●夜光タスキの必要性 ●そうじの安全 ●自転車点検	●風邪の予防 ●自転車点検 ●暖気と換気	●冬の健康管理	●性情報への対応	●最上級生の心構え
	●1年	●自転車点検 ●目の健康	●清掃時の安全 ●自転車点検 ●目の健康	●風邪の予防 ●自転車点検 ●夜光タスキの効用	●室内の換気 ●自転車点検 ●火気に対する注意	●避難訓練について ●自転車点検 ●冬の体力づくり	●耳の健康 ●自転車点検 ●春休みの安全
安 全 教 育	●安全な生活	●交通安全と防災	●冬季の健康管理 ●自転車点検	●安全点検	●安全点検	●安全点検	●安全点検
	●2年	●安全点検 ●安全点検の見直し ●避難訓練	●健康観察 ●交通指導	●健康観察 ●冬休みの安全な生活 ●交通指導	●教室の換気 ●専門委員会	●ユニセフ支援活動 ●あいさつ運動 ●専門委員会 ●下校促進運動 ●給食週間	●3年生を送る会 ●専門委員会
	●3年	●清掃強化週間 ●弁論大会 ●生徒会役員改選 ●専門委員会	●PTA交通査察	●夜光タスキの着用指導 ●PTA交通査察	●PTA生活指導部会 ●交通査察中間報告会	●PTA交通査察	●PTA生活指導部会
安 全 管 理	●物的管理	●安全点検 ●安全点検の見直し ●避難訓練	●健康観察 ●交通指導	●健康観察 ●冬休みの安全な生活 ●交通指導	●教室の換気 ●専門委員会	●ユニセフ支援活動 ●あいさつ運動 ●専門委員会 ●下校促進運動 ●給食週間	●3年生を送る会 ●専門委員会
安 全 管 理	●人的管理	●健康観察 ●交通指導	●健康観察 ●交通指導	●健康観察 ●冬休みの安全な生活 ●交通指導	●教室の換気 ●専門委員会	●ユニセフ支援活動 ●あいさつ運動 ●専門委員会 ●下校促進運動 ●給食週間	●3年生を送る会 ●専門委員会
生 徒 会 活 動	●清掃強化週間 ●弁論大会 ●生徒会役員改選 ●専門委員会	●PTA交通査察	●夜光タスキの着用指導 ●PTA交通査察	●PTA生活指導部会 ●交通査察中間報告会	●PTA交通査察	●PTA交通査察	●PTA生活指導部会
関 係 機 関 ・ 家 庭 ・ 地 域 と の 連 携	●PTA交通査察	●夜光タスキの着用指導 ●PTA交通査察	●PTA生活指導部会 ●交通査察中間報告会	●PTA交通査察	●PTA交通査察	●PTA交通査察	●PTA生活指導部会
そ の 他	●目の愛護デー	●全国火災予防週間 ●世界平和と記念日	●人権週間 ●世界人権宣言記念日 ●世界エイズデー	●110番の日 ●文化財防火デー	●ユニセフ支援活動 ●あいさつ運動 ●専門委員会 ●下校促進運動 ●給食週間	●3年生を送る会 ●専門委員会	●全国火災予防運動 ●全国緑化運動 ●消防記念日

事故発生時の対応の流れ



○負傷者の状況把握、心身の安定と安静を図る。
○迅速で正しい応急処置がなされたかどうかのポイント。だれでもできるようにしておく。

【疾病に対する判断基準】



重傷度・緊急度の高いものは迅速かつ的確な判断と処置が要求される。

連絡等について、早く協力者を求める。

○必要に応じ、学校医の指示を受ける。
○頭部外傷、呼吸困難、心臓発作、脊柱損傷、内臓損傷の疑いがある場合は、医師や救急隊員の指示を待つ。

【重症度及び緊急度の判断基準】

下記の症状がある場合
重大な疾患の疑いがあるので特に注意が必要

下記の症状がある時は
危険な徴候である。
救急車を呼び医療機関での緊急な処置が重要課題となる。

重傷度の判断基準

- 1 呼吸促進
- 2 顔面蒼白・チアノーゼ
- 3 嘔吐の持続
- 4 めまい・あくびの持続
- 5 意識障害
- 6 悪寒
- 7 強度の発汗
- 8 苦悶・狂躁状態
- 9 尿・大便の失禁
- 10 急速な脱力状態

緊急度の判断基準

- 1 意識喪失の持続
- 2 ショック症状の持続
- 3 けいれんの持続
- 4 激痛の持続
- 5 多量の出血
- 6 骨の変形のひどい時
- 7 開放創
- 8 広範囲の火傷

○保護者への連絡は、予断や推測を交えず、事実を正確に伝える。
○病院へ運ぶ際は、緊急の場合を除き、保護者から指定する病院の有無を確かめる。
○負傷者を保護者に引き渡すまでは付き添い、看護にあたる。
○事故発生の状況調査をおこなう。
○事故発生からの対応を、時間を追って記録しておくことよい。
○事故の原因、発生後の措置についての問題点を明確にし、類似の事故の再発防止と安全管理、安全指導の徹底を図る。
○事故に関する外部からの問い合わせ・取材等に対しては、校内で責任者を決め、窓口の一本化を図る。
○災害共済給付について十分理解しておく。

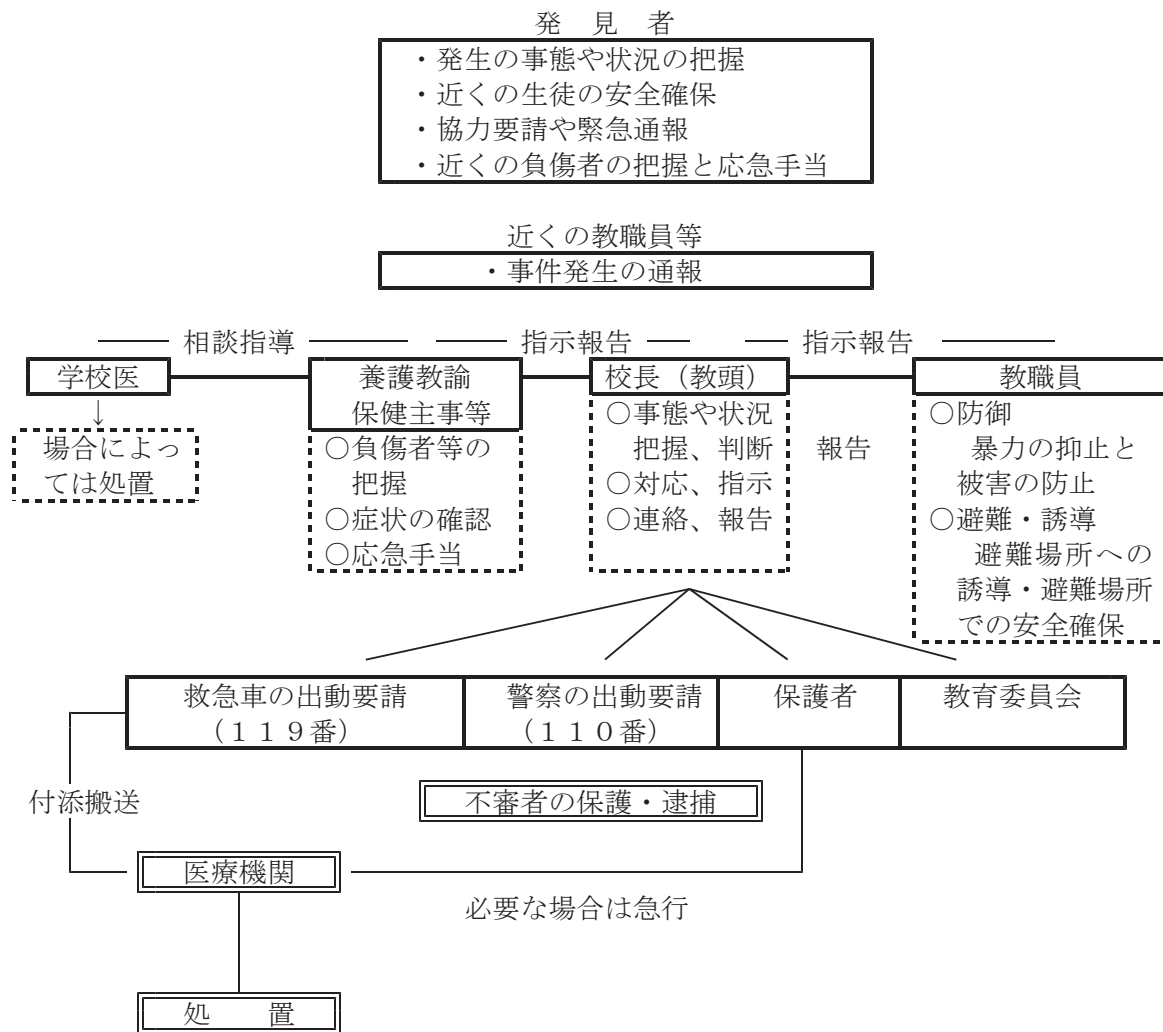
学校への不審者侵入時の危機管理マニュアル

☆不審者侵入による緊急事態発生時の対処、救急及び緊急連絡体制

○不審者侵入による事件発生

＜重要な視点＞

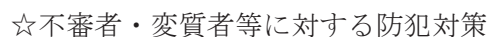
- 1 生徒の安全確保、生命維持最優先
- 2 冷静で的確な判断と指示
- 3 適切な対処と迅速・正確な連絡・通報



・不審者侵入事件対策本部(重大事件の場合)

外部との対応	情報の収集・整理	教育再開準備	再発防止対策の実施
・記録、連絡、報告等 ・保護者説明会 ・報道機関等との対応 ・教育委員会との対応	・生徒の様子 ・通学路の安全 ・保護者等の意見 ・事件の概要と課題	・実態に即した指導計画の作成 ・施設、教材等の準備 ・指導体制の整備	・安全管理の充実（施設設備等の充実）（マニュアルの見直し） ・安全教育（防犯）の充実
救護活動 ・負傷者の全容把握 ・健康状態の把握 ・心のケア			

○関係者以外の学校への立ち入り→不審者かどうか受付でチェック



○生徒に対する日々の生活の中での防犯指導

- 1 登下校時には通学路を守り、人通りの少ない場所ではなるべく一人で行動しないようにさせる。
- 2 学校付近や通学路で不審者を見かけたときには、できるだけ不審者の特徴（車なども含む）を覚えて、保護者等や学校・警察署に通報すること。
- 3 「子ども110番の家」等の場所を確認して、どのように助けを求めるかを指導徹底すること。
- 4 声かけ事案や変質者その他不審者の出没があったときは、生徒にその事実を伝えるとともに具体的な対処要領をその都度指導すること。

○地域ぐるみの安全対策

- 1 日々の生活の中で、学校や自宅周辺の見回りを行うこと。
- 2 不審者に関する情報を得た場合は、たとえ小さなことでも通報すること。
- 3 学校はそれらの協力が得られるよう、地域での会合やPTAに対する啓発に努めること。

令和2年度

非常変災対策計画書

新見市立新見第一中学校

(新見市立学校管理規則抜粋)

第46条(防火管理等)

- 3 校長は、防火管理者の作成した消防計画を毎年4月末日までに教育委員会に提出しなければならない。
- 4 校長は、前項の消防計画に基づき、消防活動のための組織を設け、消防訓練を行わなければならない。
- 5 校長及び防火管理者は、消防計画の実施について、万全を期さなければならない。

第47条(火気取締責任者)

- 1 校長は、火災の発生を防止するため、必要と認める単位ごとに火気取締責任者をおき、所属職員のうちから指定する。
- 2 火気取締責任者は、校長の命を受け火気の手締りにあたる。

第48条(非常変災等への対策)

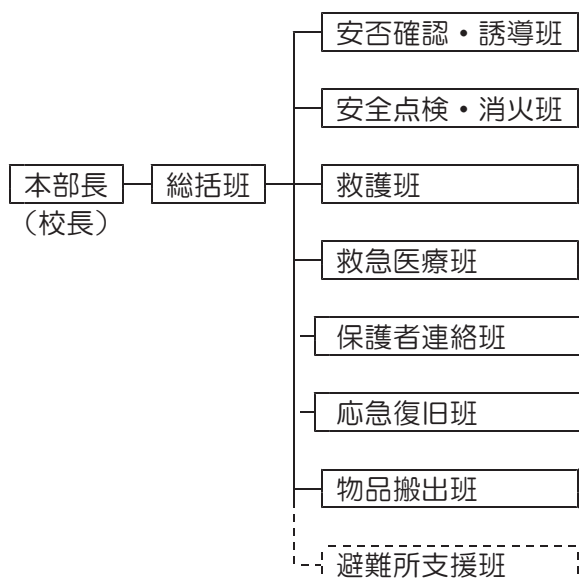
- 校長は前条に定めるほか、非常変災その他急迫の事態に備えて、幼児、児童及び生徒の避難、管理その他職員のとるべき処置等について記載した非常変災等対策計画を作成し、毎年4月末日までに教育委員会に提出しなければならない。
- 2 校長は前項の非常変災等対策計画に基づき、非常変災等の対策のための分掌を定めなければならない。
 - 3 校長は、貴重な物品・文書・教育記録等について、あらかじめ「非常持出」の標識を付して非常の場合に備えるとともに、非常変災対策計画の実施について、万全を期さなければならない。

(新見第一中学校非常変災等対策規定)

第1条 本規定は、新見市学校管理規則(第48条)によって定めるものであって、災害の発生を未然に防止するとともに、非常変災における冷静・迅速・適切な処理を確立することを目的とする。

第2条 本校の非常変災等への対応は、全教職員をもって行い、生徒の安全を確保するとともに、避難所となった際の円滑な運営を図るために、次の通りの分掌組織を編成する。

第3条 前条の分掌組織編成及び任務は次のとおりとする。



班 名	業 務 内 容 等	避難場所となったときの追加業務
総括班	・校長，教頭，教務，班長で構成 ・生徒，教職員の安全確保 ・各班との連絡調整 ・校内の被災状況等の把握 ・教育委員会，災害対策担当部局等との連絡 ・第二次避難場所への避難	・災害対策本部との連絡 ・地域の被災状況の把握 ・避難者名簿の作成管理 ・避難所内連絡及び外部からの問い合わせへの対応 ・避難者自治組織の立ち上げ指導
安否確認 ・誘導班	・生徒を安全地帯への避難誘導 ・生徒・教職員の安否及び連絡先の確認，負傷者の有無，災害規模の推定 ・確認事項を総括班へ報告 ・生徒の安全連絡カードの作成	
安全点検 ・消火班	・初期消火活動 ・出火防止 ・施設設備の被害状況の点検 ・第二次避難場所及び避難路の確保 ・二次災害等の危険防止	・立入禁止区域の設定
救護班	・被災者の救出・救命	
救急医療班	・養護教諭・救命救急経験者で組織 ・負傷した生徒・教職員の保護 ・非常救護所や病院等の専門医療機関との連携	・近隣から運び込まれた負傷者の保護
保護者連絡班	・生徒の保護者への引き渡し ・引き渡す相手方の確認 ・引き渡す場合の立会者等の記録	
応急復旧班	・校内応急復旧に必要な機材の調達 ・生徒への食料，寝具等の調達，管理 ・生徒が教科書，学用品等を滅失した場合の対応	
物品搬出班	・必要な物品の搬出 ・重要な物品の搬出	・必要な物品の準備
避難所支援班		・水，食料の分配 ・炊き出し，水くみ ・救援物資の受け入れ，管理 ・トイレの設置，維持，管理 ・清掃，ゴミ処理など衛生管理 ・ボランティアの組織化

第4条 火気その他の非常変災を発見したときは，大声をもって連呼し，また，適切な手段を持って通告する。

第5条 非常変災の発生を認知したときは、本部長に連絡し（火災時は、まず119番に通報・不審者対応時は110番及び119番に通報）臨機応変に処置をし、被害の軽減に期する。

第6条 修学旅行・宿泊研修等校外活動における非常変災発生ときは、当事者及び本部長の指示に従い、予めその場に應ずる避難方法を知っておかなければならない。

第7条 非常変災等対策訓練は、定期的に年3回行い、随時に臨時訓練を行う。

第8条 防災目的達成のため、火気取締責任者を兼ねた地区防災責任者を定める。

- 1 地区防災責任者 別紙
- 2 地区防災責任者は、毎日下校時、担当地区の火気及び防火施設、戸締り及び安全に関する点検を行う。
- 3 週番教師及び日直は、別に定める規定により臨機応変の処置をするとともに、日中の災害予防にあたる。
- 4 非常持出しを要する物件・公簿類は、標識をつけ、予め学校で定めた耐火書庫に置く。
- 5 防火用具の員数と配置
 - 消火器（校舎内）22
 - 消火栓（校舎内・体育館）8
- 6 施設設備等の安全点検を定期的に月1回行い、随時に臨時点検を行う。

第9条 夜間及び休業中の災害発生の場合、近住の職員は直ちに参集し、第3条の任務に協力する。

第10条 授業中の避難を要するときは、生徒の安全確保を第一とし、生徒は当時の教職員の指揮により、運動場または定められた場所に避難する。

第11条 非常災害の場合、教職員は、生徒を安全地帯へ避難させたのち、所定の任務につく。

（学校が避難所になった場合）

第12条 学校が避難所となった場合の対応は、避難所としての円滑な運営及び早期の教育機能回復の観点から、施設の開放は、その機能を踏まえて行う。また、生徒が在校中の場合は、生徒の安全確保を第一とする。発生時の安全確保計画は別に定める。

- ・ 普通教室は災害対策上やむを得ない場合に限り、適宜開放するが、学校教育活動の再開に備え、一定数は確保することが必要である。
- ・ 理科実験室、技術室等特別教室は、危険物等があるので原則として避難者収容のためには開放しない。

新見第一中学校非常変災分掌組織

新見市立学校管理規則第48条によって定められている非常変災分掌については、非常対策実施要項・防災規則・生徒心得及び避難経路等、次に定める他は、すべて別紙によるものとする。

1 本年度における非常変災分掌は次のとおりである。

本部長代行順 (校長→教頭→教務)

本部長	校長
総括班	班長 : 教頭 藤井, 各班長
安否確認 ・避難誘導班	班長: 重村 1年: 重村、有西、白神、久津間 2年: 横見、小林、前原、大場 3年: 堀江、安田、小松、藤野 特別支援学級: 杉本、福田 (三上, 中務, 羽柴, 福田) → 誘導安否確認後, 保護者連絡班へ
安全点検 ・消火班	班長 : 中山 中務、三上 → 安全点検・消火後, 救護班へ
救護班	班長 : 上仲 ← 安全点検・消火後 (中務、三上)
救急医療班	班長 : 森上、羽柴、西村
保護者連絡班	班長 : 重村 ← 避難誘導確認後 (横見、堀江、杉本、福田)
応急復旧班	班長 : 山本、角田
物品搬出班	班長 : 林、田中

避難所支援班 (避難所となった場合)	本部長 : 校長 副本部長 : 教頭 総括 : 藤井 生徒対策 : 安田、白神、前原、杉本、藤野 自治組織対策: 上仲、重村、中山、西村 救援物資対策: 有西、久津間、横見、小林、大場、中務 施設設備管理: 堀江、小松、田中、山本 救急医療対策: 森上、羽柴、西村、林、角田、
-----------------------	---

2 非常変災対策訓練は上記規定の分掌組織によって実施する。

3 地区防災責任者（火気取締責任者）を次のように定める。

（1）校舎

ア	校長室・応接室	大谷忠宏
イ	職員室	大谷忠宏
ウ	各教室	各担任
エ	男子更衣室	大谷忠宏
オ	女子更衣室	森上淳子
カ	保健室	森上淳子
キ	ゆずりは教室	杉本 亘
ク	階段下倉庫	田中武志
ケ	機器室	大谷忠宏
コ	休憩室	杉本 亘
サ	校務員室	山本健二
シ	1階教材室	藤井幸治
ス	整備倉庫	大谷忠宏
セ	配膳室	角田千恵美
ソ	ゴミ庫	山本健二
タ	技術室・準備室	白神栄治
チ	各階トイレ	各学年主任

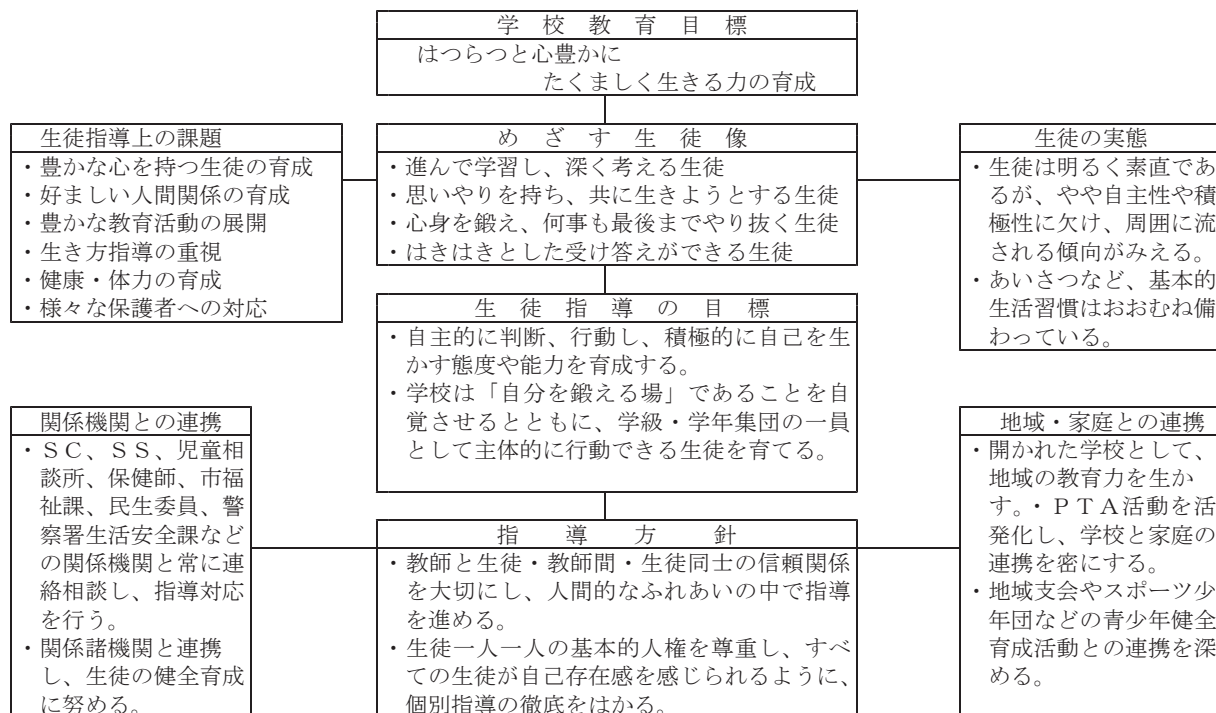
ツ	視聴覚教室	西村展子
テ	パソコン教室	白神栄治
ト	図書室	三上元子
ナ	生徒会室	生徒会担当
ニ	2階教材室	藤井幸治
ヌ	第一理科室・準備室	中山善博
ネ	第二理科室・準備室	中山善博
ノ	美術室・準備室	藤井幸治
ハ	調理室・準備室	藤野真美
ヒ	被服室	藤野真美
フ	音楽室・準備室	上仲昌子
ヘ	3階相談室1・2	藤井幸治

（2）体育館

ア	体育館内部	前原史哉
イ	体育館裏倉庫・石灰庫	前原史哉
ウ	体育倉庫	前原史哉

令和2年度 生徒指導全体計画

新見市立新見第一中学校



目 標 達 成 の た め の 努 力 点
・教員と生徒の相互理解を基底にすえ、「ともに学び、語り、活動する」人間的ふれあいの中で生徒指導を進める。 ・一人一人の生徒が主体的に問題解決を図ることができる学級・学年集団づくりに努める。 ・保護者や関連機関との連携をはかり、その協力体制のもと生徒への支援・指導にあたる。

各教科等	道 徳	特 別 活 動			その他の活動
○学ぶ意欲と、基礎的、基本的内容の指導の徹底 ・学習規律の確立 ・思考力、判断力、表現力などを生かす場の設定と主体的学習の展開 ・体験的な学習や問題解決的な学習の展開	○人間としての生き方の自覚と深化 ・内面に根ざした道徳性の育成 ・基本的生活習慣の指導 ・豊かな体験活動による指導 ・学級や学校の環境整備による指導	学級活動	生徒会活動	学校行事	○生徒の実態を把握し好ましい人間関係の構築 ・教育相談体制の充実 ・読書活動の充実 ・健康体力活動の充実 ・校内生活の指導（朝の会、帰りの会、給食、清掃、部活動等） ・校内生活の指導（登下校、休日、地域行事への参加、長期休業日の過ごし方）
		○好ましい人間関係と健全な生活態度を育成する活動 ・学級や学校生活の充実や向上 ・個人および社会の一員としてのあり方、健康安全 ・将来の生き方と適切な進路選択	○学校生活の充実や改善向上を図る活動 ・係、委員会活動の充実 ・生徒一人一人に役割と責任を与える集団活動（ペイフォワード運動等） ・自己の責任や判断に基づいた活動（2分前着席、自転車鍵かけ運動等）	○学校生活の充実と発展に視する体験活動 ・自己存在感を与える諸行事（儀式的行事、学芸的行事、健康安全体育的行事、旅行・集団宿泊的行事、勤労生産・奉仕的行事） ・選択や判断の場の設定	

生 徒 指 導 の 重 点 目 標		
一 年 ・基本的生活習慣の確立 ・好ましい人間関係の育成	二 年 ・好ましい人間関係の育成 ・自己存在感を持たせる指導 ・目標を持ちそれに向けて取り組む態度を育成する	三 年 ・リーダーとしての自覚の育成 ・中学校生活の締めくくりとして充実した活動にする。 ・進路実現に向けて自立を促したくましさを身につけさせる

令和2年度 生徒指導年間計画

月	生徒指導目標	月間目標	生 活 指 導		校外指導
			具体的生活目標	生活指導項目	
4	中学校生活に関わる基本的行動様式を身につけさせる。	規律正しい生活をしよう	○学校のきまりを守ろう ○早めの行動をしよう ○気持ちのよい挨拶をしよう ○言葉遣いを正しくしよう ○交通規則・交通道徳を守ろう ◎時間厳守の意識を身につけよう	○校内生活様式の徹底 ○給食指導 ○交通指導 ○挨拶指導	交通査察 自転車点検 家庭訪問中 市内街頭指導 下校時一斉 交通指導
5	何事にも積極的に取り組み、協力して最後まで粘り強くやり抜く態度を育てる。	けじめある態度で進んで行事や学習に取り組もう まとまりのある学級をつくろう	◎服装、身だしなみを整えよう ○時間厳守の意識を向上させよう ○明るくさわやかなあいさつをしよう ○テストにむけて学習に取り組もう	○生活点検 ○係の指導 ○教育相談 ○充実した学年行事 ○職員室入室のマナー	下校時一斉 交通指導 交通査察 自転車点検
6	心身の健康の増進を図り、実践する態度を養う 集団の一員としての自覚と自律的、協力的態度を身につけさせる。	健康や・安全な生活について考え、実践しよう	○心を込めて掃除をしよう ○衛生に気をつけよう ○花のある学校・学級にしよう ○規則正しい生活をしよう ○昼休みは外へ出て運動しよう	○手洗い指導 ○清掃活動の強化 ○室内の整頓・美化 ○校内での安全指導 ○服装指導	交通査察 交通指導 自転車点検 夜市街頭指導
7	目標をもち自律的で計画性のある生活態度を身につけさせる。	計画的な生活をしよう	○計画を立てて学習をしよう ○早めの行動をしよう ○これまでの生活の反省をしよう ○夏休みの計画を立てよう ○部活動に打ち込もう	○日課表の作成 ○部活動指導 ○夏休みの生活心得 ○教育相談	休業中の街頭指導 自転車点検
8				○夏休みの反省と 学校生活への決意	ふるさと祭 街頭指導
9	生活リズムを整え、自律的、協力的な集団生活の再認識をさせる。	学級の団結を高めよう	○時間を守ろう ○服装をただそう ○運動会に積極的に 取り組もう	○話し合い活動の活性化 ○生活規律の再確認指導	交通査察 自転車点検 行事中の街頭指導
10	学校生活をふり返り、見直しと改善をはかる。	けじめのある生活をしよう	○積極的に清掃に取り組もう ○ゴミを出さないようにしよう ○学校生活の見直しをしよう ○教室に花を飾ろう	○掲示物の工夫 ○清掃活動の強化 ○室内の整頓・美化 ○落書きの一掃	交通査察 自転車点検
11	人権について考えさせ、よりよい人間関係を築こうとする態度を養う。	落ち着いた生活を心がけよう	○学級の一員として向上する仲間づくりをしよう ○余暇の利用を工夫しよう	○生徒会活動の活発化 ○学級集団の指導 ○教育相談	交通査察 自転車点検
12	1年間のまとめをさせ、環境整備に努めさせる。	計画的な行動をしよう	○安全な生活を心がけよう ○冬休みの計画を立てよう	○校内での安全指導 ○冬の登校安全指導 ○生活点検指導	下校時一斉 交通指導 自転車点検
1	新年の抱負を持たせ物事に積極的に取り組む態度を養う。	物事に積極的に 取り組もう	○新年の計画を立てよう ○自分を知ろう ○機敏な行動をしよう	○自己理解 ○機敏な行動を促す指導	下校時一斉 交通指導 自転車点検
2	将来へ向けての認識を深め、現在の自分のあり方を見つめさせる。	より良き向上を 求めてがんばろう	○自分の将来について考えよう ○自分の行動を反省しよう ○学習への取り組みを見直そう ○早めの行動をしよう	○進路指導 ○学習指導 ○遅刻指導 ○教育相談	下校時一斉 交通指導 自転車点検
3	1年間を振り返り、互いに感謝する気持ちを持たせる。	1年間のまとめ をしよう	○1年間を振り返り、 成果と課題を確認しよう ○友達に感謝し、いつまでも友情 を保とう ○有終の美を飾ろう	○温かい心の関係づくり ○年度末整理 ○春休み指導	下校時一斉 交通指導 自転車点検

	生徒理解 教育相談	清掃指導	安全指導	保健指導	道 徳	学 活	地域連携等
4	市福祉相談 生徒理解会議 家庭訪問 スクールカウ ンセリング (毎月)	○清掃分担と 清掃の方法	○通学路の確認 と安全な通行 ・市内交通査察 ・交通教室 ・不審者対策	○自分の体を知 ろう ・定期健康診断	生命の尊さ 適切なふるまい 集団の中の自分 よりよい生活習 慣 本当の思いやり	中学校の生活 学年の自覚 学級の組織	・市福祉相談 員、児童相談 所との懇談 (各月適宜)
5	市子ども課・ 児相教育相談 (定期) 生徒教育相談 (定期)		○自転車の安全 な乗り方 ・自転車点検 ○部活動中の安全 ・防犯、携帯電 話の使い方	○生活環境を整 えよう	よりよい校風 集団の中の自分 公正なところ 理想の実現	有意義な野外活 動 私の将来 交通安全	・支会年間計画 ・P生活指導部 年間計画 ・学校評議委員 会
6	生徒教育相談 ケース会議	○清掃強化 週間	○雨天時の安全 な通行 ・歩行者の安全 な歩き方 ○室内の過ごし方 ・避難訓練	○歯の健康に気 をつけよう ・歯の衛生	ふさわしい言葉 自他の尊重 自主・責任 公共の福祉 誠実・責任	健康なからだつ くり 先輩の進路 進路情報の活用	・P交通査察
7	保護者教育相 談	○夏休み前 清掃	○自転車の集団 通行 ○休業中の安全	○夏の健康に気 をつけよう	温かい家族 節度ある生活 温かい心 法の精神 心の健康	たばこ これまでの生活 の反省 夏休みの生活	・サマーナイト フェスティバル 街頭指導
8	教育相談研修 生徒理解会議						・ふるさと祭街 頭指導
9			○夏休み明けの 交通安全	○からだを鍛え よう	人間の弱さ お互いの成長 友情・信頼 自主・自律 集団生活の向上	行事への取り組 み 安全な生活 登下校について	・P交通査察 ・運動会の会場 警備
10	ケース会議	○清掃強化 週間	○秋の交通安全 旬間への参加 ・街頭指導	○目の健康に気 をつけよう	人間の気高さ 働く喜び 積極的な生き方 力強い生き方	目の健康 余暇の利用 学ぶ目的	・P交通査察
11	生徒教育相談		○避難訓練	○心とからだの 成長について考 えよう	男女の理解 充実した生き方 健全な異性感 男女の敬愛	成長するからだ 生徒活動 男女の特性	・P交通査察 ・学校評議委員 会
12	保護者教育相 談	○冬休み前 清掃	○冬季の安全な 通行 ○休業中の交通 安全	○冬の健康に気 をつけよう	よりよい社会 礼儀の大切さ 心と言葉 個性を生かす努力	私の悩み 冬休みの計画	
1	ケース会議		○自動車と関係 した交通安全 ・簡単な自動車 の法規	○姿勢に気をつ けよう	自分に勝つ 心の弱さの克服 家族のきずな 愛校心	新年を迎えて 身近な職業	・防犯、少年非 行等総合対策 マニュアル
2	ケース会議	○清掃強化 週間	○自動車の内輪 差	○心の健康に気 をつけよう	社会ときまり 思いやりの心 集団の中の責任 人類愛	性について 良い友人関係 交通安全 男女交際 進路計画を 振り返って	・学校評議委員 会
3		○学年末清掃 ○ワックスぬ り		○健康生活の反 省をしよう	家族の一員 よりよく生きる 向上する心 国際理解	進路計画 1年間の反省 最上級生のこ ころ構え	・支会通学路調 査

新見市立新見第一中学校
令和2年度いじめ問題対策基本方針
平成26年 3月 策定 平成30年 3月 改訂

いじめに関する現状と課題
・本校では、例年何件かのいじめ問題が起こっており、特にクラスメートに対するからかいや心ない言葉の投げかけから仲間外しにするなどの行為にエスカレートしていく事例が多く、生徒の人権意識の高揚が課題となる。また最近では、携帯やスマートフォン、その他の通信機器を利用して、情報交換を行う生徒も多く見られ、SNS等への書き込み起因する生徒間トラブルも見られる。学校内だけではなく、保護者・関係機関との連携を進めながら、いじめの未然防止・早期発見・適切な対処に取り組む必要がある。そのために、組織だった取組と教職員研修の充実が必要である。

いじめ問題への対策の基本的な考え方
・全教育活動を通して「いじめは重大な人権侵害であり、決して許さない」ことを徹底するとともに、いじめほどの生徒にも、どの学校にも起こりうることを認識し、教職員は保護者、関係機関と連携を図りながら、その未然防止、早期発見、早期対応、そして再発防止に努める。 ・生徒の豊かな情操と道徳心、自他の存在を相互に尊重しあえる態度を育てるため、教育活動を通じて道徳教育の充実を目指す。 ・生徒一人ひとりの自己存在感や自己充実感を感じられる学校づくりを行い、学習規律や生活規律の定着を図る。 ・生徒のSNS等の利用実態調査を行い、その結果を基に、校内研修や生徒・保護者対象の講演会を実施し、情報モラルについての教育の推進を図る。 ＜重点となる取組＞ ・SNSの利用やネット上のいじめについての認識を深め、いじめの認知能力やその後の対応能力向上のための教職員研修を夏季休業中に実施する。 ・「人権週間」において、生徒会が実施する取組を支援し、いじめを許さず、トラブルを自分たちで進んで解決しようとする意識の高揚を図る。

保護者・地域との連携	学 校	関係機関等との連携
＜連携の内容＞ ・いじめ問題に対する学校の基本方針をPTA総会で説明し、学校のいじめ問題への取組について保護者の理解を得るとともに、学年支会やPTA研修会等を活用したいじめ問題についての意見交換や協議の場を設定し、取組の改善に生かす。 ・情報モラルに関する教職員研修を行うとともに、SNSに係る危険性やインターネット上のいじめの問題について、関係機関との連携を図りながら保護者対象の研修会を実施する。 ・学校評議員の協力を得て、地域の方々との懇談の機会を設け、生徒の学校外での生活に関する見守りや情報提供の依頼を行い、いじめの早期発見に努める。 ・学校便りやPTA会報に、いじめ問題等の各種相談窓口や学校の教育相談窓口等の紹介を掲載し、活用を促す。	いじめ対策委員会 ＜対策委員会の役割＞ ・学校の対策基本方針に基づき、年間計画の作成、実施・検証・修正の中核的役割を果たす。 ・いじめや生徒の問題行動に関する情報の収集やいじめの相談・通報の窓口となる。 ・いじめ事案に対し、事実関係の把握、指導や支援体制の決定、保護者・関連機関との連携の中核となる。 ＜対策委員会の開催時期＞ ・委員会は定例として年4回開催する。ただし、緊急の対応が必要になった場合は随時開催する。 ＜対策委員会内容の教職員への伝達＞ ・職員会議(月1回)において情報の共有時間を設けるほか、職員朝礼の時間や部活動後の時間を利用して情報交換を行う。 ＜構成メンバー＞ ・教員 ・校長 教頭 生徒指導主事 各学年生徒指導担当 人権教育担当 養護教諭 ・特別支援コーディネーター ・スクールカウンセラー 全 教 職 員	＜連携機関名＞ ・岡山県教育委員会・新見市教育委員会 ＜連携の内容＞ ・学校で把握したいじめ問題の解決が、学校だけでは進まない場合、助言や支援を受ける。 ・場合により、いじめ問題対応専門チームの支援を受ける。 ＜学校側の窓口＞ ・教頭 ＜連携機関名＞ ・倉敷児童相談所・新見市こども課 ＜連携の内容＞ ・生活環境等の課題解決を図るため、専門的な立場からの支援を受ける。 ＜学校側の窓口＞ ・教頭 ＜連携機関名＞ ・新見警察署生活安全課 ＜連携の内容＞ ・被害者の生命や財産に重大な被害が生じる恐れのあるものについて、早期の解決を目指す。 ＜学校側の窓口＞ ・校長

学 校 が 実 施 す る 取 組	
① いじめの防止	○道徳教育や体験活動等の充実 ・豊かな情操・道徳心や社会性を育み、自他の生命を尊重する態度を養うための道徳教育や人権教育の充実を図る。 ○意欲的に学習や活動に取り組む集団づくり ・個々の生徒の学習意欲や学級集団の状態を客観的に把握するための諸検査を実施し、その結果を活用して望ましい集団作りに努める。 ○いじめ問題解決に向けて主体的に行動する生徒の育成 ・いじめをしない・させない・放置しない態度を育成するために生徒会活動や学級活動の充実を図る。 ○教員研修 ・教職員の指導力向上のための研修として、外部から講師を招き、SNSの危険性などの危険性とその対応についての研修会を行う。 ○ネット上のいじめについての生徒の教育と保護者への啓発の促進 ・ネット上のいじめを防止するために、情報機器の利便性とともに、情報を発信する責任を自覚し、適切に利用できる力を身に付けるための情報モラルに関する授業を、各学年において行う。またSNSに係る危険性やネット上のいじめについての認識を深めるため学識経験者や通信事業者の協力を得て、保護者を対象にした研修会を実施する。
② 早期発見	○定期的なアンケート調査等の実施による実態把握 ・生徒の実態把握のためのアンケートを6月・10月の2回実施し、年3回の個別の教育相談を行う。また、保護者懇談を活用し、生徒の生活の様子を十分把握して、いじめの早期発見を図る。 ○相談体制の確立 ・日常から担任を中心に生徒への声かけや教育相談を行い、生徒の変化を見逃さないよう心がける。また、スクールカウンセラーと連携し、生徒の教育相談を行い、生徒がいつでもいじめを訴えたり、相談したりできるような体制を整える。 ○情報共有 ・生徒の気になる変化や行為があった場合、記録を残し、教職員間でいつでも早急に情報共有できる体制をつくる。生徒指導係会との連携で週一回、気になる生徒の情報交換を行う。 ○家庭への啓発 ・いじめの認知につながるよう、家庭における生徒の様子を見つめるための資料を配付して家庭との連携を図り、家庭におけるいじめ問題への対応に関する啓発を行う。 ○ネット・トラブル事業の活用 ・生徒がネット上のいじめに巻き込まれていないかどうかを把握するため、ネット・トラブル事業を活用し、情報収集を図る。
③ いじめへの対処	○教職員の組織的な対応と関係機関との連携 いじめの発見・通報があった場合には、組織的な対応を検討するため、いじめ対策委員会を開催し、速やかに対応する。また、教育委員会へ報告をし、状況に応じて警察等関係機関へ相談する。 ○いじめの有無の確認 ・本校生徒がいじめを受けているとの通報を受けたり、その可能性が明らかになったときは、速やかにいじめの事実の有無の確認を行う。 ○いじめられた生徒への支援 ・いじめがあったことが確認された場合には、いじめられた生徒を最後まで守り抜くことを最優先に、当該生徒及びその保護者に対して支援を行う。 ○いじめた生徒への指導 ・いじめた生徒に対しては、いじめは絶対に許されない行為であり、相手の心身に及ぼす影響等に気付かせるなど適切かつ毅然とした対処を行うとともに、当該生徒の周囲の環境や人間関係など、その背景を十分に把握し、保護者の協力を得ながら、健全な人間関係を育むことができるよう指導を行う。内容により、関連機関へ助言や支援を求める。 ○警察等の連携 ・いじめが被害者生徒の生命や財産を脅かす重大な危険性や犯罪行為として認識され、緊急かつ早期な解決が必要とされる場合、直ちに警察に相談・通報し、警察と連携した対応をとる。

令和2年度 いじめ問題への対策に関する年間計画

新見市立新見第一中学校

内容	職員会議、 対策委員会等	学 校 が 実 施 す る 取 組		
		①未然防止の取組	②早期発見の取組	③いじめへの対処
4 月	○職員会議 ・いじめの定義基本方針、年間指導計画の確認 ○PTA 総会 ○いじめ対策委員会 ○各種ケース会議（通年） ○生徒理解会議	○学級開き ・学級経営の方針 ・学級目標の作成 ○学校だよりでの理解と協力要請 ・ホームページへの掲載	○生活ノート・健康観察（毎日の取り組み） ○職員朝礼 ・生徒の情報交換 ○家庭訪問 ○校内巡視・登下校指導	○発生事案への対処（随時） ○対応手順の共通理解（全職員）
5 月	○学校運営協議会 ○生徒理解会議	○行事を通しての「絆」づくり ・校外研修、修学旅行	○職員朝礼 ・生徒の情報交換 ○i-check 実施	
6 月	○生徒理解会議 ○スマホサミット	○いじめについて考える集会 ○小中連絡会 ○行事を通しての「絆」づくり ・広島平和学習	○職員朝礼 ・生徒の情報交換	○i-check の検討
7 月	○生徒理解会議 ○学区内小中学校研修	○学年集会 ○非行防止教室 ○【道徳】2-(2)思いやり	○職員朝礼 ・生徒の情報交換 ○アンケート調査 ○保護者懇談	○アンケート結果により必要に応じて対処（対策委員会）
8 月	○職員研修 ・いじめ問題対策基本方針について ○生徒理解会議	○学年集会		
9 月	○いじめ対策委員会 ○生徒理解会議	○行事を通しての「絆」づくり ・運動会、文化祭	○職員朝礼 ・生徒の情報交換	
10 月	○生徒理解会議	○【道徳】3-(1)生命尊重	○職員朝礼 ・生徒の情報交換	
11 月	○学校運営協議会 ○PTA 研修講演会 ○生徒理解会議	○行事を通しての「絆」づくり ・駅伝大会 ○【道徳】4-(4)集団生活の向上	○職員朝礼 ・生徒の情報交換 ○アンケート調査 ○教育相談 ○i-check の実施	○アンケート結果により必要に応じて対処（対策委員会）
12 月	○生徒理解会議 ○いじめ対策委員会	○人権集会 ○学年集会 ○【学活】人権について	○職員朝礼 ・生徒の情報交換 ○保護者懇談	○i-check の検討
1 月	○生徒理解会議	○学年集会 ○【道徳】2-(3)友情・信頼	○職員朝礼 ・生徒の情報交換	
2 月	○職員会議 ・取り組みの反省と基本方針、年間計画の修正 ○学校運営協議会 ○生徒理解会議 ○いじめ対策委員会	○【道徳】3-(3)生きる喜び	○職員朝礼 ・生徒の情報交換	○学校評価の検討
3 月	○生徒理解会議	○学年集会	○職員朝礼 ・生徒の情報交換	

令和2年度 教育相談年間計画

1 教育相談の目的

教育相談は生徒指導の補助的役割を果たすものである。生徒自身の成長に向かう力を尊重し、支援的な立場に立った指導である。相談活動を通して、生徒自身が自己理解を深め、問題解決の力や、適応力を伸ばすための支援をするものである。

2 年間計画

教育相談期間の設定

- ① 定期相談(事前に生徒の悩みアンケートの実施)
第1回 1学期期末考査前後(全学年)
第2回 2学期期末考査前後(全学年)
- ② チャンス相談・・・ゆとりの時間や放課後を使い適宜実施する。

3 相談活動について

(1) 全ての生徒が対象となるが、特に次の生徒に配慮すること。

- ① 自ら相談を望む生徒
- ② 不適応やいじめの対象になるとと思われる生徒
- ③ 問題行動の可能性のある生徒

(2) 相談教師

担任を中心に全ての教師であたること

(3) 留意事項

- ① 生徒のプライバシーを十分に配慮すること
- ② 担任以外の教師でも必要と感じたらチャンス相談を行うこと
ただし、その際必ず担任に連絡を取り早期の相談に努めること
- ③ 継続的に相談の記録を残すこと

4 スクールカウンセラー(S C)について

- ① スクールカウンセラー
(週1回 13:30～17:30(4時間) 年間35日程度)
- ② 基本的には、相談室(校舎1階)をスクールカウンセラーの相談室として使用する。
- ③ 担任は、スケジュール調整のため、早めに担当に連絡すること。
- ④ 教育相談係はS Cと情報交換を密にする。
- ⑤ S Cは、生徒の見立てや専門的な判定を行う。また、相談件数や相談内容を必ず記録しておくこと(報告書の作成)
- ⑥ 担任を中心にスクールカウンセラーに情報を提供し、連携を密にする。
- ⑦ 場合によりケース会議への参加

5 その他

- (1) 担任は養護教諭、S C、生徒指導担当者と連携し、学年団をあげて該当生徒が前向きに学校生活を送れるよう支援をしていく。
- (2) 家庭や関連機関との連携をはかり、情報交換や対応策を検討する。
- (3) 学習支援室を活用する場合、あくまで生徒による自主学習である旨を保護者には十分理解してもらうよう努める。

令和2年度 整備指導計画

1. 目 標

- (1) 生徒の環境美化意識の高揚をはかるとともに、公共物を大切にすることを、その実践化をはかる。
- (2) 校舎内外の施設・設備の保全と美化に努める。

2. 年間計画

- 用具の点検・・・・・・・・整備委員会
- 大掃除・・・・・・・・学期の終わり、各行事
- 清掃強化週間・・・・・・・・年3回（7月、12月）
- フックスがけ・・・・・・・・年度末
- その他整美委員会の計画に沿う

3. 清掃の仕方

- (1) 一中の清掃

機敏な集合 一言清掃

- (2) 全体で共通して行うこと（一部の場所は除く）

- ① 清掃の分担場所を明確にしておくこと。《各クラスで分担表の作成》
- ② 各場所の清掃の仕方を徹底させること。
- ③ 授業終了後速やかに移動させ清掃開始のチャイムまでに分担の確認をしておくこと。
- ④ 清掃の始めと終わりは、整列・礼を必ずすること。
- ⑤ 掃除開始後すぐに、1人でゴミ捨てに行くこと。《その日のゴミは翌日》
(月)フリー (火)1年 (水)2年 (木)3年 (金)フリー
- ⑥ 原則として、雑巾はバケツで洗うこと。水くみと水捨てについてはステンレスの手洗い場を使う。
＜1階の掃除は保健室前、2、3階は中央ステンレス手洗い場等指定場所＞
- ⑦ 窓拭きについては運動場側には上げさせない。《通常は乾拭き、時には水拭き》
- ⑧ 掃き掃除終了後はほうきゴミも取る。《各クラスゴミ取りブラシを設置》
- ⑨ ゴミ箱は適宜水洗いをする。
- ⑩ 黒板クリナーは随時水洗いをする《フィルターと粉受けケース、特に週末》
- ⑪ 今年度より「黒板」分担が「IWB」も清掃する。(OA専用ブラシ&ウェットシート)

- (3) 清掃のやり方

清掃開始前

- 掃除前の授業が特別教室の時は移動前に机、椅子を後ろへ下げておく。
- 各場所の掃除の仕方を徹底する。(各掃除場所に持参すること。)

掃除開始後

＜教室と廊下＞

- ・ 班ごとに整列したら、班長の号令で始める。
- ・ 清掃開始のチャイムと同時に、速やかに掃除を始める。
- ・ すみずみまで丁寧に掃き、固く絞った雑巾で拭く。
- ・ 2階、3階の運動場側の窓ふきはしない。
- ・ 給食台をクレンザーで磨き、きれいに拭き取る。台拭きを給食台の上に広げて乾かす。

＜トイレ＞

- ・ 床は固く絞った雑巾で水拭きをする。(ゴム手袋を利用しても良い)
- ・ 便器の中はブラシで磨き、周りは雑巾で拭く。(ゴム手袋を利用しても良い)
- ・ 中性洗剤を使用。(原則週1回)

＜外掃除＞

- ・ 校舎前通路、溝、階段の土を掃く。
- ・ 自転車置き場は竹藪などを利用する。
- ・ 雨天の場合、校舎内の内側窓ふきをする。

清掃終了

- 2分前には片づけを始め、清掃道具の整理・整頓をする。
- 班ごとに整列し、班長の号令で終了する。反省カードを使って反省する。
- チャイムと同時に終了し、速やかに「帰りの会」の準備に入る。

(4) その他

- ・ 特別教室は担当教諭で開閉する。戸締まりの確認をする。
- ・ 担当者出張の場合は、学年団で対応する。

4. 掃除道具について

- ・ 道具や消耗品の不備は整美担当に報告する。
- ・ 特別教室や体育館等の雑巾は担当のクラスで補充する。

5. 消耗品の保管場所

トイレ関係（黒ゴミ袋やトイレクリナーなど）→ 保健室横
その他の掃除用品（トイレトペーパー、ほうき、ちりとり）→ 1F 倉庫

令和2年度 地域連携年間計画

目標		地域の人材や資源を活用し、「ふるさと新見」を愛する生徒を育成する。			
項目 月	学習	キャリア		課外活動	その他
4月	- 放課後学習支援 ・岡山県北地域教育プログラム ・特別非常勤講師制度	- プロジェクト学習 - ゲストティーチャー	- 新見発見プロジェクト ・産業調査活動 ・1年生対象 ・7月15日 - 新見貢献プロジェクト ・地域活性化活動 ・3年生対象 ※プログラミング学習と連携させる	- 部活動支援 ・地域行事への参加	- 交通安全支援 ・ロータリークラブ青少年育成支援
5月				部活動支援 ・地元専門家 ・年間通して	
6月					登下校安全指導 ・PTA ・地域住民
7月				健康の森交流会 ・あけぼの学級 ・7月7日	
8月					
9月					
10月					乳幼児ふれあい体験
11月				健康の森収穫祭 ・吹奏楽部演奏 ・10月31日	救命救急講習会 ・3年生対象 ・ロータリークラブ ・新見消防署
12月					登下校安全指導 ・PTA ・地域住民
1月					
2月	放課後学習支援 ・3年生対象 ・新見高校 ・新見公立大学	音楽・和楽器指導 ・1、2年生対象 ・地元専門家	新見体験プロジェクト ・職業体験学習 ・2年生対象 ・10月13・14日	健康の森収穫祭 ・吹奏楽部演奏 ・10月31日	
3月					
				都道府県対抗ソフトボール大会 ・ボランティア ・吹奏楽部他	

令和２年度 新見第一中学校 部活動に関するガイドライン

◎ 生徒にとって望ましい活動環境を構築するという観点に立ち、「新見市運動部活動の在り方に関する方針」・「新見市文化部活動の在り方に関する方針」に則り、効果的な部活動となるよう、表題の方針を策定する。

部活動における休養日及び活動時間については、成長期にある生徒が、運動、食事、休養及び睡眠のバランスのとれた生活を送ることができるよう、休養も練習の一環という観点において、スポーツ医・科学の観点からのジュニア期におけるスポーツ活動時間に関する研究を踏まえる。また、「岡山県教育委員会 働き方改革プラン」や「新見市運動部活動の在り方に関する方針」・「新見市文化部活動の在り方に関する方針」に示されている教職員・生徒の健康管理や時間外業務削減の趣旨を十分考慮し、教職員・生徒・保護者等の負担が過重にならないよう、以下の基準を設ける。

1.学期中は、週当たり２日以上休養日を設ける。

→ 毎週水曜日および土曜日から日曜日のいずれかを休養日とする。（長期休業中も原則として適用する）

→ 大会参加等により土曜日と日曜日に連日活動した場合は、次の週から１か月以内の土曜日と日曜日に休養日を振り替える。

※中体連主催大会１週間前はこれに限らない。

2.長期休業中に、連続した休養期間を設ける。

→ 春季休業（６日間） ２０２０．４．１（水）～６（月）

→ 夏季休業（７日間） ２０２０．８．１０（月）～１６（日）【閉庁日】

→ 冬季休業（７日間） ２０２０．１２．２８（月）

～２０２１．１．３（日）【閉庁日】

3.１日の活動時間は、平日は２時間程度、学校の休業日（学期中の土曜日、日曜日、祝日を含む）は３時間程度とする。

→ 平日の練習は２時間以内とする。

→ 休業日・休日：市内での練習・練習試合の場合、午前か午後の活動時間とする。

：市外での練習試合の場合、会場への移動、準備、片付け、

ミーティング、試合間の休憩・見学は活動時間には含めない。

4. 教育上の意義や生徒や顧問の負担が過度とならないことを考慮して参加する大会等を精査する。顧問は年間の活動計画並びに毎月の活動計画を校長に提出し承認を受けた場合に限り参加できる。

5. 朝練習は、実施しない

6. その他

・ 駅伝練習等、学校代表選手としての取組は、校長と相談の上決定する。

・ 熱中症等の対策を講じ、気象条件にあった活動を行う。

令和2年度 部活動申し合わせ事項

新見第一中学校

1. 入部・転部について

- 加入は任意とするが、多くの生徒の加入を推奨する。
- 入部届けを提出した者は、1年間活動することを前提としているが、やむをえず転部・退部をする場合は、本人・保護者・顧問・担任でよく検討して決定する。
必ず本人・保護者・顧問・担任で、本人と保護者の意思を確認する場を設けること。
転部・退部の事例：身体的な負担、家庭事情など

2. 活動中は現場で必ず顧問が監督・指導にあたること。（顧問不在の場合は、他顧問に監督をお願いするか、活動なしにする）

3. 技術面のみの指導に偏らず教育的効果（礼儀・マナー等）が期待できるように指導すること。

4. 体育館および教室の使用については掃除も含め使用のルールを守らせる。

- 活動に必要な物には触れない。
- 施錠、鍵の管理は顧問が責任を持って行うこと。

5. 更衣・荷物保管場所について

- 更衣は所定の場所で行い、必要な物以外は持ち込まない。
- 貴重品は顧問に預けるなどし、紛失しないように注意する。

6. 遅刻、見学、欠席について

- 学級の仕事・専門委員会などで部活に遅れる場合は、前もって顧問に連絡すること。
用事が終わって参加するときは顧問に連絡して参加すること。連絡がない場合、家庭連絡を必ず行う。

7. 出席について

- 活動日には出席をとり顧問は生徒の出席・健康状況を把握すること。
著しく活動に参加しない生徒は、顧問が担任や保護者との連携を図ること。

8. 有料校外施設について

一中の施設がやむを得ず使用できないときは、顧問が校外施設を確保すること。

9. 対外試合の参加生徒について

- 必要最小人数の参加は認める。
- できるだけ安い公共交通機関を使用すること。
- 対外試合計画書を部活動計画表とともに教頭へ事前提出。
(教育ファイルサーバー→定期・スクールバス運行表→休日部活動予定)
- 教育上の意義や生徒や顧問の負担が過度とならないことを考慮し、参加する大会等を精査する。
- 年間活動計画並びに月ごとの活動計画を校長に提出し承認を受けた場合に限り参加できる。

10. 活動時間について

☆ 放課後練習

※下校時刻は原則的なもので、天候や日没時間の変化に臨機応変に対応し、常に明るいうちに生徒が帰宅できるよう配慮する。

※1日の活動時間は、平日2時間程度、休業中（土日祝日・長期休業日）は3時間程度とする。ただし、会場への移動、準備片付け、ミーティング、試合勘の休憩・見学は活動時間には含めない。

	活動終了時刻	最終下校時刻	バス出発時刻（千屋／菅生／神郷）		
4月～9月	17：45	18：00	18：13	18：12	18：10
10月	17：05	17：20	17：28	17：22	17：20
11月～2月	16：45	17：00	17：28	17：22	17：20
3月	17：05	17：20	17：28	17：22	17：20

11. 休日の活動について

- 部活動に関するガイドラインに沿って計画する。
- 土日のうち1日は休業日とし、大会等でやむを得ず休業日が設定できない場合は、次の週から1か月以内の土日を休業日に設定する。
- 月間活動計画を作成し、顧問が保護者に文書で通知すること。
- 毎月の計画を前月までに提出し、一覧表を作成する。（部活動担当者）
- 長期休業中もガイドラインに従う。

12. マナーに関すること

- 校舎内では防寒着を着用しない。（ネックウォーマー、手袋、ウィンドブレーカー）
- 部活動終了後、練習着で下校してもよい。校舎内で帽子をかぶらない。

- 部活動の更衣場所（体育科の指示による）を守ること。なお、外の部活動で自転車置き場等を利用して更衣する際は、貴重品の管理を含め、顧問の厳重な指導の下、行うこととする。
- 教室で使用しているスリッパは、入口の所定の下足置場に置く。
- 器物破損をした場合、弁償について管理職・顧問・当事者（保護者）とよく相談すること。
- 机・椅子等の物品を置く場合はフローシートを敷く。
- 最終使用者が戸締まりをする。

【更衣場所】

- 所定の場所で更衣する。更衣に必要な物以外は一切持ち込まない。
男子・・・2階ギャラリー 1年生グラウンド側 2年生中央 3年生国道側
女子・・・更衣室（3年：体育館更衣室 2年：体育館更衣室 1年：舞台袖）
- 着替えはきちんと整頓して置く。
- 体育館を使用している部は、顧問の指示で月に一度、体育倉庫、器具庫の掃除を行う。
- 練習試合の会場として使用する場合、相手校にも十分マナーについて理解を求めたうえで行う。

13. 顧問者会、部長会の設定について

- 顧問者会・・・学期に1回は、場を設けて行う。顧問者同士の指導方法の共有・統一を計り、各部活動に還元する。
- 部長会・・・壮行式を見据え執行部とも連動し、部長が前に出て話す場を与えるようにする。生徒が主体・主導となる部活動を作り上げていく。

学校教育目標

はつらつと心豊かにたくましく生きる力の育成

学校経営目標

- 1 生徒に対して
 - (1) 「知識基盤社会」を念頭に置き、将来を主体的にたくましく生きぬく生徒を育成する。
 - (2) 地域との連携を密にし、地域の良さに気付き、地域に貢献し、地域の文化を継承・発展させていく生徒を育成する。
- 2 保護者に対して
 キャリア教育を核としながら、知・徳・体に関わる教育活動を通して、生徒の人間的・社会的・職業的自立の基礎を培いながら、生徒が成長していく過程を保護者と共有することで教育に関する協働意識・協働意欲を高める。思いやりを持ち、共に生きようとする生徒の育成
- 3 地域に対して
 地域に開かれた学校づくりを通して、学校が地域住民のコミュニティの場となり、交流の拠点並びに街づくりの核としての役割を果たす。

学校事務の経営目標

学校教育目標・学校経営目標の達成を目指し、信頼される学校づくりの推進・教育条件整備のため、主体的・積極的に学校経営に参画していく。

学校事務の経営方針

- 学校事務の明確化・適正化に努めるとともに、学校全体を見通し課題を発見し解決する思考力を高める。
- チーム学校の一員として他の職員と連携・協働しながら、職員室が情報ステーションとして機能するよう、高い意識を持って行動する。
- 「地域に開かれた学校づくり」を推進するために、事務部として連携・支援を行う。

本年度の重点・努力点

- 1 校務運営
 - ・例月の安全点検時には、特に生徒の視点を大切に危機意識をもっておこなう。
 - 2 総務・情報管理
 - ・文書事務の適正で能率的な遂行と、個人情報管理・情報公開に対応した文書管理を行う。
 - 3 財務管理
 - ・「新見市学校徴収金取扱要領」に基づいた「校内管理マニュアル」に沿った、正確で適正な徴収金の管理を行うとともに、保護者負担の軽減に取り組む。
 - ・年間集金計画に基づき円滑な処理を行う。説明責任を意識した適切な会計処理が行われるよう、各会計担当者との連携・共通理解を図る。振替不能・滞納への対応は、管理職・担任とも連携しながら迅速に行う。
 - ・現状を的確に把握し、教育活動の実態に沿った計画的・効率的な予算執行を行う。予算執行等の財務状況について適宜情報提供するとともに、経費節減意識の高揚に努める。
 - ・定期的な備品整理・廃棄を通じて備品の現状を把握し、有効活用できるよう適切な管理を行う。職員の声を取り入れながら「わかりやすい授業」につながる効果的な備品整備を行う。
 - ・福祉制度について保護者へ情報提供を行い、管理職・担任、また各小学校とも連携して迅速・的確な対応に努める。
 - 4 人事管理
 - ・事務だより等を活用し、職員に有用な情報提供を行う。事例発生時に迅速・適切な対応ができるよう共同実施や研修を通じて、日頃から自身のデータベース充実に努める。また、職員の状況を早期に把握するため、面談を積極的に行う。
 - 5 共同実施
 - ・事務の共同実施による情報の共有や成果を本校の学校事務に有効に生かす。
 - ・児童生徒の9か年の学びの連続性を意識し、小中連携の補完的な役割を目指す。
 - ・それぞれが自らの役割を常に意識し、相互の資質向上のために積極的なOJLに取り組む。
- その他
- ・職員が連携・協働して、職務に集中できる、風通しの良い職場環境づくりのために適切な情報提供・共有を行う。
 - ・生徒とのコミュニケーションの手段として、生徒の顔と名前を覚え、積極的な挨拶・声かけに努める。
 - ・保護者や地域の方をはじめ、外来者に対して明るく気持ちのよい応対を心がける。

事務部 年間計画表

新見市立新見第一中学校

分類	庶務 (学籍・教科書・調査・情報等)	給与・旅費・福利	人事・服務	予算・管財・経理	児童福祉（準・要）
毎月	- 生徒数例月報告 - 給食実施実績確認 【毎日】 - 文書の受発・回覧保管事務全般 - メールチェック - 市教委用務	- 給与・旅費支給事務全般（受領・支給） - 月例報告チェック(明細) - 勤務実績報告書 - 月例報告一覧表 - 特殊勤務実績簿（主任） - 特殊勤務実績簿（修学旅行・林間学校引率） - 特殊勤務実績簿（部活動指導） - 時間外勤務実績簿(事務) - 非常勤講師勤務実績簿 - 親睦会費等控除報告（変更時） - 県費旅費請求事務 - スクールカウンセラー勤務実績報告 - 不登校相談員勤務実績報告 - 市費臨時職員賃金請求	勤務帳簿の照合・点検（毎月10日まで）	- 市費予算差引事務 物品購入、端末処理 - 学校集金の口座振替データ作成（FD）、振替依頼書の作成送付 - 給食費集金事務（未納者の現金集金）（振替不能入金督促） - 給食費支払事務	担任からの情報を元に家庭状況を把握しその都度必要な対策をとる。 （徴収金が滞りがちな家庭等の把握と認定手続き等）
随時	- 転出、転入事務 - 転入受理通知書 - 在学証明書 - 教科書給与証明書 - 納入指示書 - 給食数変更に係る配膳員との連携、精算 - 引落口座登録変更	- 扶養、通勤、住居変更時の手続き及び認定事務 - 共済・互助認定届け出・給付貸付 - 厚生事業等の周知	履歴書・給与簿の整理	- 備品登録事務 備品台帳入力 備品ラベル貼付 - 備品・図書廃棄手続 - 消耗品の確認・補充	学校行事等経費報告（準要・要保護）
4月	- 職員名簿一覧作成 - 住所一覧作成 - 職員録原稿作成 - 生徒数確認 - 各種名簿の作成 - 教科書配布、給与生徒名簿作成 - 学校基本調査入力 - 職員調データ作成	- 口座設定報告書 - 口座振替申出書 - 旅費委任状 - 赴任旅費請求 - 校内控除分現金集金（転入者） - 通勤、住居等の認定事務（距離の確認等） - 共済組合員異動報告書 - 就職等による取消手続・人間ドック等申込み	- 人事異動関係事務 - 服務簿作成（出張命令等） - 勤務帳簿の照合等出勤簿の集計欄記入	- 市費の予算配当（予算執行計画立案）（備品購入希望調査）（教材備品購入計画） - 給食費等の集金通知作成（保護者用） - 口座申出書の受理（4月提出者分）	- 市教委からのお知らせ全校配布（準要保護認定の希望があれば調査） - 要保護生徒に係る給食費精算報告書、（前年度分） - 教材指定証明書 - 学級費及び学校給食報告書（社会福祉事務所）
5月	- 転出入名簿作成 - 自己目標シート作成	- 通勤等の諸手当確認（転入者分の確認） - 勤務状況報告(期末勤勉)		- 教材備品購入計画書 - PTA会費等諸費集金	- 就学援助希望者把握 - 申請書配布と回収 - 申請一覧表作成
6月		児童手当現況届		「総合的な学習」予算配当	申請書兼委任状提出
7月		- 扶養・住居手当定期確認 - 共済被扶養者定期確認			就学援助決定通知
8月	- 前期転学用教科書関係報告 - 教科書需要数報告	諸手当実態調査（教育事務所）		- 備品整理 - 購入備品登録確認	- 援助費1期分支給（通知・受領・支給） - 特別支援教育就学奨励費の受給希望調査
9月	休暇研修関係調査			- 備品廃棄申請手続 - PTA会費等諸費集金 - チャレンジワーク予算配当	特別支援教育就学奨励費申請

分類	庶務 (学籍・教科書・調査・ 情報等)	給与・旅費・福利	人事・服務	予算・管財・経理	児童福祉（準・要）
10月		・年末調整事務 （扶養・保険料・住宅） ・財形貯蓄等申込（後期）		・後期予算執行計画 ・市P連選手派遣費 調査	
11月		・年末調整事務審査 ・勤務状況報告 ・旅費執行調査準備 ・大腸がん検査			・修学旅行、林間 遠足等の経費報告 （準要・要） ・給食実施回数報告
12月	・目標シートの 自己点検	・旅費執行見込額調査 ・退職手当（期限付）内申 事務	・出勤簿、年休 簿、家族休暇 申請書綴作成	・各種会計中間報告	・就学援助費（2期） 支給事務 ・特支就学奨励費 支給事務
1月		・源泉徴収票受領配付事務	・履歴書、給与 簿等の整理	・予算執行計画 ・廃棄備品希望調査 ・灯油年間使用量見 込算定 ・PTA会費等諸費集金	・給食費実績見込報 告
2月	・後期転学用教科書 関係報告	・時間外勤務手当決算見込 ・旅費執行状況まとめ ・退職手当支給内申事務 ・退職関係福利事務手続		・入学説明会 （学校集金の説明） ・廃棄備品申請 ・PTA会計決算 ・給食費口座申込書 配付（新1年） ・給食費3月調整額 の決定・通知 （保護者・職員）	・給食費実施報告書 （準要・特支生徒）
3月	・文書整理、保管 （5年保存 移動） ・新年度教科書納入 指示書作成 ・勤務帳簿整理 （年度末） ・新年度文書綴準備	・給与、旅費等関係文書 整理と保管 ・期限付き職員の社会保険 関係事務	・人事異動関係 事務 ・転任者の事務 連絡作成と必 要書類準備 ・新年度勤務帳 簿の準備	・各種会計決算 ・給食口座設定事務 （入力） ・総合会計 決算 ・市P連派遣費受領 ・PTA会計、部活動 助成会計監査 ・新1年生振替口座 登録入力事務	・就学援助費（3期） 支給 ・特支就学奨励費（精 算分）支給事務 ・要保護生徒の給食 費等精算報告書 ・要保護生徒年度末 精算報告

【新見第一中学校区の学校事務共同実施】

- 構 成 新見第一中学校区9校、10名の事務職員で構成。
（新見第一中・思誠小・高尾小・塩城小・西方小・上市小・千屋小・神代小・神郷北小）
- 取組内容
 - ・正確な事務処理と事務の効率化を図る。
 - ・新採用事務職員の育成については、業務担当を決め積極的な支援を行う。
 - ・新採用事務職員の支援計画・支援マニュアルを作成する。
 - ・教育支援につながる共同実施業務（文書分類・学校徴収金の取扱い等）の取組を継続する。
 - ・経営参画意識を持った事務部経営案を作成し共有する。各校の事務部経営案を理解し、情報交換や相互支援を行う。
 - ・情報の共有化を進め、事務能力の向上を図ることにより学校事務の標準化を図る。
- 連絡会 月2回半日程度で、原則として各学校を巡回して実施する。（4～7月までは、新採用者在籍校を中心に会場を設定する。）